

白岡市障がい者福祉についてのアンケート 結果報告書

令和4年度

目 次

序章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査方法	1
3 回収結果	1
4 調査内容	2
5 集計と表記	3
第1章 障がい者アンケート	4
1 回答者の属性等	4
(1) 性別	4
(2) 年齢	4
(3) 手帳の種類	5
(4) 身体等のその他の状況	8
2 生活状況について	9
(1) 現在の暮らし	9
(2) 今後の暮らしの希望	10
(3) 生活費	11
(4) 経済状況	11
3 教育や就労、社会参加について	12
(1) 平日の昼間の過ごし方	12
(2) 学校・仕事以外の方の今後の過ごし方の希望	14
(3) 園や学校のことなどで特に困ること	15
(4) 働いている方の1か月の給料	17
(5) 働きやすい環境のために重要なこと	19
4 障害福祉サービスなどについて	20
(1) 障害福祉サービス・障害児通所支援の利用状況	20
(2) 利用しているサービス	21
(3) サービスの満足度	22
(4) 計画相談支援・障害児相談支援の利用状況	23
(5) 計画相談支援・障害児相談支援を利用していない理由	23
(6) 充実してほしいサービス	24
5 相談について	25
(1) 身近な相談相手の有無	25
(2) 悩みや困りごとの相談先	26
(3) 「福祉の総合相談窓口」の周知状況	27
(4) 相談支援先の周知状況	28
(5) 相談体制の評価	29
6 防災について	30
(1) 災害時に不安に思うこと	30

(2) 災害に備えていること	31
7 住みやすいまちづくりについて	32
(1) 住みよさ意識	32
(2) 差別を感じた経験	34
(3) 障がいへの理解の深まり	36
(4) 制度等の周知状況	38
(5) コロナ禍の影響	41
(6) 住みやすいまちづくりに必要なこと	42
8 障がい者アンケートのまとめ	43
第2章 一般アンケート	49
<hr/>	
1 回答者の属性	49
(1) 性別	49
(2) 年齢	49
2 障がいのある人との関わりについて	50
(1) 日常生活での障がいのある人との関わり	50
3 障がいなどのある人への理解について	55
(1) 障がいへの理解の深まり	55
(2) 地域社会での差別・偏見	56
(3) 差別や偏見の内容	56
(4) 地域移行した障がい者とのお付き合い	57
(5) 障がい者が地域で生活していくために重要なこと	58
(6) 共に生きる社会のために必要なこと	59
(7) 差別や偏見を感じる場面	60
(8) 障がいに関するマーク等の周知状況	61
4 だれもが住みやすいまちづくりについて	64
(1) 制度等の周知状況	64
(2) 「福祉の総合相談窓口」の周知状況	65
(3) 住みよさ意識	66
(4) 住みやすいまちづくりに必要なこと	67
5 一般アンケートのまとめ	68
資料	70
<hr/>	
自由意見欄	70
(1) 障がい者アンケートの自由意見	70
(2) 一般アンケートの自由意見	74

序章 調査の概要

1 調査の目的

平成29年度に策定した白岡市第5期障害者基本計画及び令和2年度に策定した白岡市第6期障害福祉計画は、令和5年度に計画期間が満了となります。そのため、アンケート調査を実施して、障がい者福祉に関する市民の意識や実態、今後の意向を把握し、次期計画策定のための基礎資料とするものです。

2 調査方法

項目	内容	
調査地域	白岡市全域	
調査期間	令和4年11月16日～令和5年1月11日 (お礼状を兼ねた督促状の配布1回)	
調査方法	郵送配布 郵送回収及びインターネットによる回答	
調査対象	障がい者アンケート	白岡市の障がい者の方から約2,000名 (令和4年10月現在、障害者手帳所持者及び障害福祉サービス利用者)
	一般アンケート	18歳以上の市民の方から約1,000名

3 回収結果

項目	標本数	回収数		回収率	
障がい者 アンケート	1,995	1,126	郵送	983	56.4%
			インターネット	143	
一般 アンケート	1,000	451	郵送	324	45.1%
			インターネット	127	

4 調査内容

①障がい者アンケート

項目	内容
回答者の属性等	調査の記入者、性別、年齢、手帳の区分等、身体等の状況
生活状況	現在の暮らし、今後の暮らしの希望、生活費、経済状況
教育や就労、社会参加	平日の昼間の過ごし方、今後の過ごし方の希望、園や学校のことなどで特に困ること、1か月の給料、働きやすい環境のために重要なこと
障害福祉サービスなど	障害福祉サービス・障害児通所支援の利用状況、利用しているサービス、サービスの満足度、計画相談支援・障害児相談支援の利用状況と利用していない理由、充実してほしい福祉サービス
相談	身近な相談相手、悩みや困りごとの相談先、「福祉の総合相談窓口」の周知状況、相談先の周知状況、相談体制の評価
防災	災害時に不安に思うこと、災害に備えていること
住みやすいまちづくり	住みよさ意識、差別を感じた経験、障がいへの理解の深まり、制度等の周知状況、コロナ禍の影響、住みやすいまちづくりに必要なこと

②一般アンケート

項目	内容
回答者の属性等	性別、年齢
障がいなどのある人との関わり	日常生活で障がいのある人との関わり（身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者、難病患者）
障がいなどのある人への理解について	障がいへの理解の深まり、地域社会での差別・偏見、差別や偏見の内容、地域移行した障がい者とのお付き合い、障がい者が地域で生活していくために重要なこと、共に生きる社会のために必要なこと、障がいに関するマーク等の周知状況
だれもが住みやすいまちづくりについて	制度等の周知状況、「福祉の総合相談窓口」の周知状況、住みよさ意識、住みやすいまちづくりに必要なこと

5 集計と表記

①回答率について

回答は、質問ごとに各項目の回答者数を回答者総数で除し、百分率（パーセント）で表示しました。算出された回答率は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。そのため、質問によっては、1人の回答者が選択肢から1つだけ選んで回答する場合（単数回答）でも、回答率の合計が100%にならないものもあります。

また、1人の回答者が選択肢から2つ以上選んで回答をしてもよい場合（複数回答）では、回答率の合計は100%を上回ることもあります。

②表、グラフ、本文中の表記について

表、グラフ中では、回答率（%）とともに、その設問に回答すべき数（回答者総数）も表示しています。ただし、スペースの都合により省略している場合もあります。

また、表、グラフ、本文中において、回答選択肢の表記は、スペースの都合により簡略化している場合があります。

③「障がい」と「障害」の表記について

この調査では、障がいの「害」という漢字の表記について、法律などで規定されている名称や引用、施設名などの固有名詞を除いて、可能な限りひらがなで表記しています。このため、「がい」と「害」の字が混在しています。

第1章 障がい者アンケート

1 回答者の属性等

(1) 性別

問1 あなたの性別をお答えください。[1つに○]

「男性」が56.1%、「女性」が43.0%

性別については、男性が56.1%、女性が43.0%となっています。

図 性別

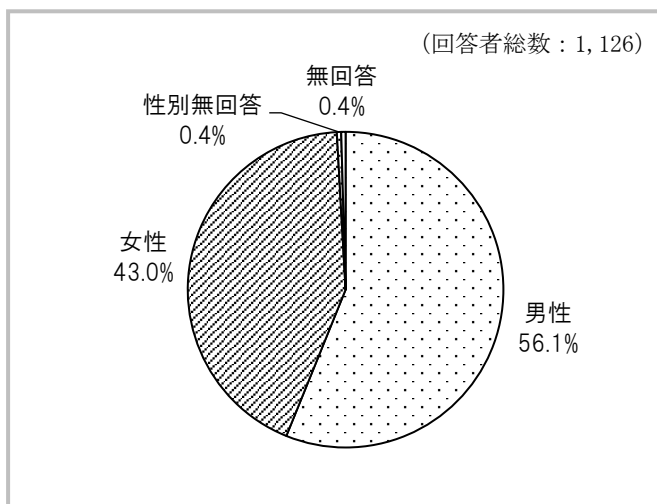


表 性別

単位：人 (%)

項目	回答数 (構成比)
回答者総数 (人)	1,126
男性	632 (56.1)
女性	484 (43.0)
性別無回答	5 (0.4)
無回答	5 (0.4)

(2) 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。[1つに○]

「75歳以上」が37.0%

年齢構成については、「75歳以上」が37.0%、「65～74歳」が18.2%、「50～64歳」が17.2%となっています。

65歳以上の高齢者は55.2%を占めています。

図 年齢

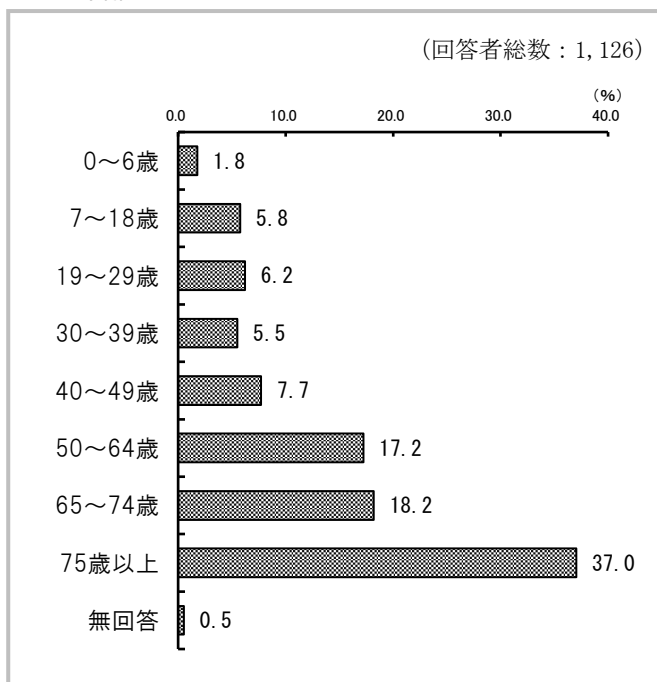


表 年齢

単位：人 (%)

項目	回答数 (構成比)
回答者総数 (人)	1,126
0～6歳	20 (1.8)
7～18歳	65 (5.8)
19～29歳	70 (6.2)
30～39歳	62 (5.5)
40～49歳	87 (7.7)
50～64歳	194 (17.2)
65～74歳	205 (18.2)
75歳以上	417 (37.0)
無回答	6 (0.5)

(3) 手帳の種類

問3 次のような手帳を持っていますか。[あてはまるものすべてに○]

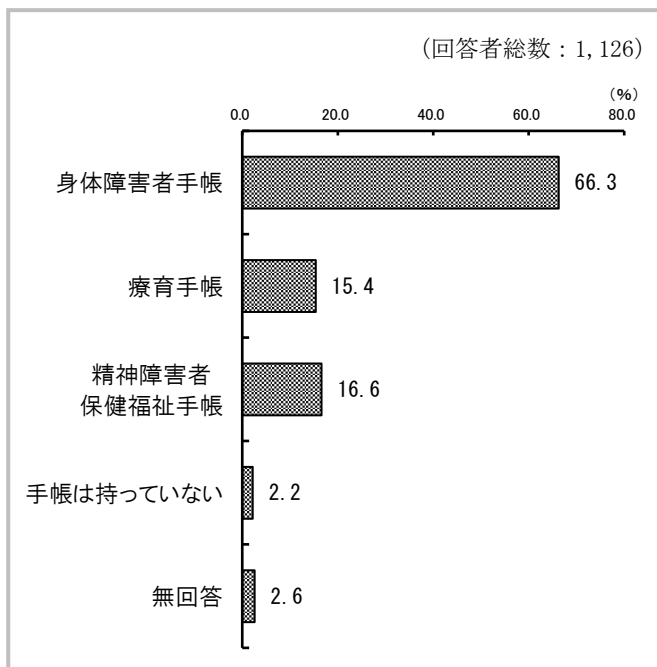
「身体障害者手帳」が66.3%

所持している手帳の種類については、「身体障害者手帳」が66.3%、「療育手帳」が15.4%、「精神障害者保健福祉手帳」が16.6%となっています。

表 手帳の種類 単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	1,126
身体障害者手帳	746 (66.3)
療育手帳	173 (15.4)
精神障害者保健福祉手帳	187 (16.6)
手帳は持っていない	25 (2.2)
無回答	29 (2.6)

図 手帳の種類



【手帳の種類別にみた年齢構成】

手帳の種類別に年齢構成をみると、『身体障害者手帳』では、「75歳以上」が51.5%と多くなっています。『療育手帳』では、「19～29歳」が27.2%、「7～18歳」が26.6%で、約半数を占めています。『精神障害者保健福祉手帳』では、「50～64歳」が31.6%、「40～49歳」が18.7%となっています。

■ 手帳の種類別にみた年齢構成

単位：人（%）

項目	全体	手帳の種類		
		身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
回答者総数	1,126	746	173	187
0～6歳	20 (1.8)	2 (0.3)	15 (8.7)	0 (0.0)
7～18歳	65 (5.8)	11 (1.5)	46 (26.6)	4 (2.1)
19～29歳	70 (6.2)	7 (0.9)	47 (27.2)	18 (9.6)
30～39歳	62 (5.5)	9 (1.2)	16 (9.2)	34 (18.2)
40～49歳	87 (7.7)	34 (4.6)	21 (12.1)	35 (18.7)
50～64歳	194 (17.2)	123 (16.5)	16 (9.2)	59 (31.6)
65～74歳	205 (18.2)	174 (23.3)	4 (2.3)	22 (11.8)
75歳以上	417 (37.0)	384 (51.5)	6 (3.5)	12 (6.4)
無回答	6 (0.5)	2 (0.3)	2 (1.2)	3 (1.6)

注) 手帳の種類には、「手帳なし」及び無回答の数を除く。

○身体障害者手帳の等級

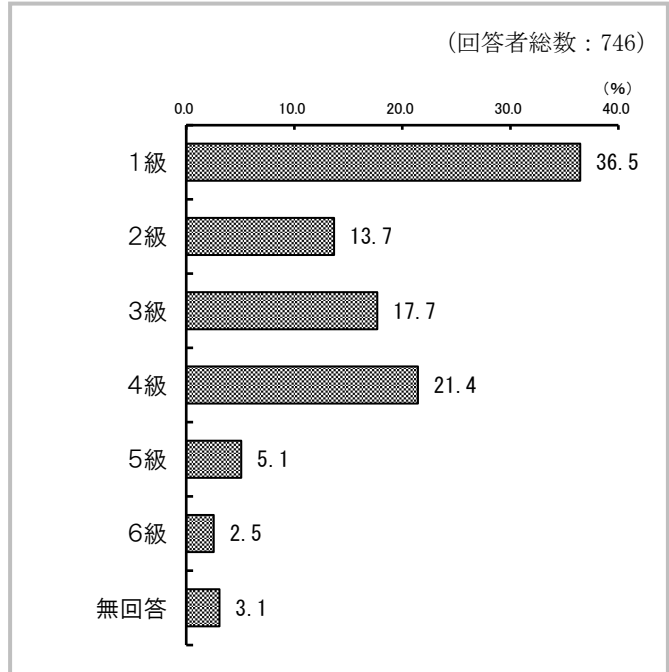
「1級」が36.5%、「4級」が21.4%

身体障害者手帳所持者の等級については、「1級」が36.5%、「2級」が13.7%、「3級」が17.7%、「4級」が21.4%となっています。

表 身体障害者手帳の等級 単位：人（%）

回答者総数（人）	746
項目	回答数（構成比）
1級	272（36.5）
2級	102（13.7）
3級	132（17.7）
4級	160（21.4）
5級	38（5.1）
6級	19（2.5）
無回答	23（3.1）

図 身体障害者手帳の等級



○身体の主な障がい

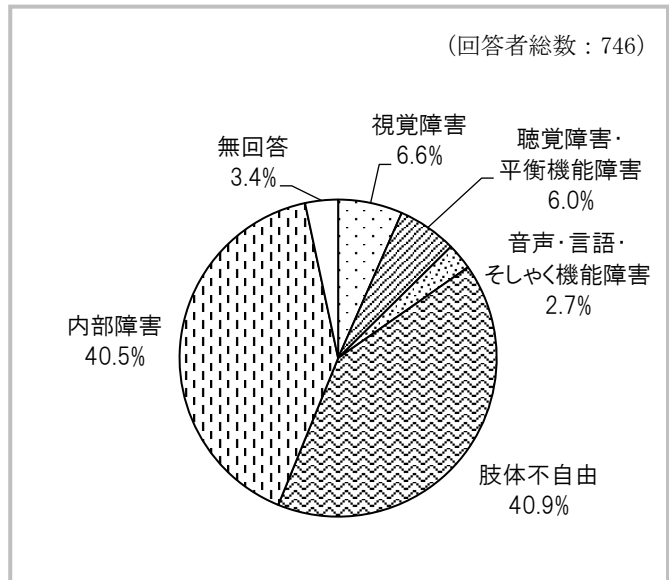
「肢体不自由」が40.9%、「内部障害」が40.5%

身体障害者手帳所持者の主な障がいについては、「肢体不自由」が40.9%で最も多く、次に「内部障害」が40.5%となっています。

表 身体 of 主な障がい 単位：人（%）

回答者総数（人）	746
項目	回答数（構成比）
視覚障害	49（6.6）
聴覚障害・平衡機能障害	45（6.0）
音声・言語・そしゃく機能障害	20（2.7）
肢体不自由	305（40.9）
内部障害	302（40.5）
無回答	25（3.4）

図 身体 of 主な障がい



○療育手帳の程度

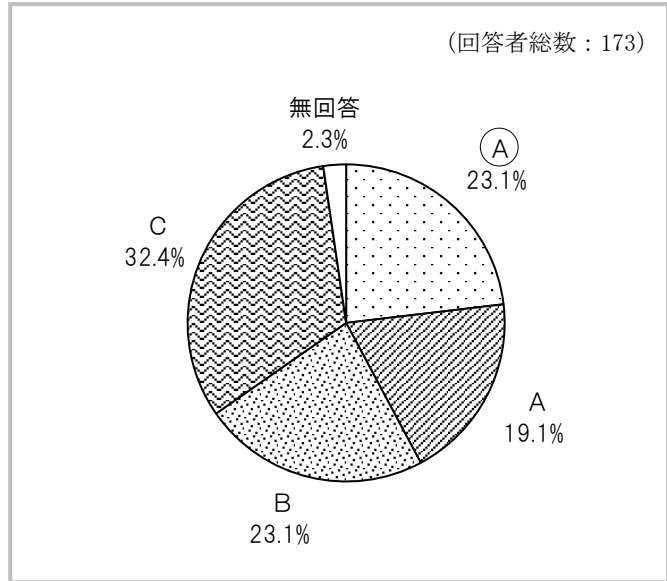
「C（軽度）」が32.4%

療育手帳所持者の程度については、「**Ⓐ**（最重度）」が23.1%、「**A**（重度）」が19.1%、「**B**（中度）」が23.1%、「**C**（軽度）」が32.4%となっています。

表 療育手帳の程度 単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	173
Ⓐ （最重度）	40（23.1）
A （重度）	33（19.1）
B （中度）	40（23.1）
C （軽度）	56（32.4）
無回答	4（2.3）

図 療育手帳の程度



○精神障害者保健福祉手帳の等級

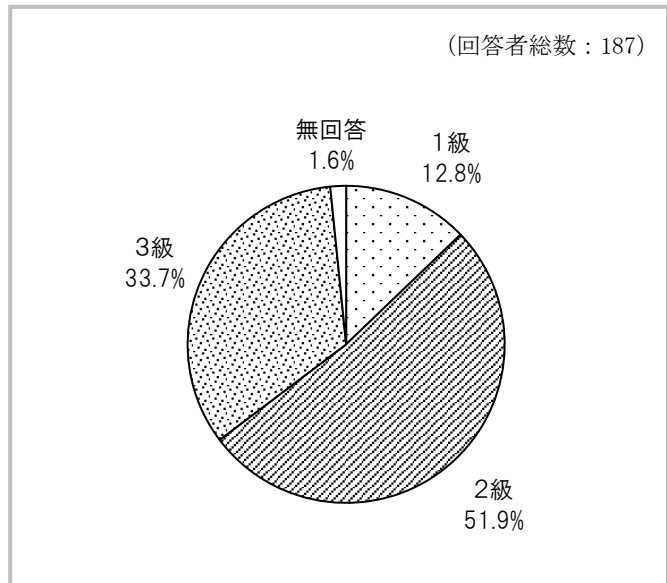
「2級」が51.9%

精神障害者保健福祉手帳所持者の等級については、「1級」が12.8%、「2級」が51.9%、「3級」が33.7%となっています。

表 精神障害者保健福祉手帳の等級

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	187
1級	24（12.8）
2級	97（51.9）
3級	63（33.7）
無回答	3（1.6）

図 精神障害者保健福祉手帳の等級



(4) 身体等のその他の状況

問4 次のいずれかにあてはまりますか。[あてはまるものすべてに○]

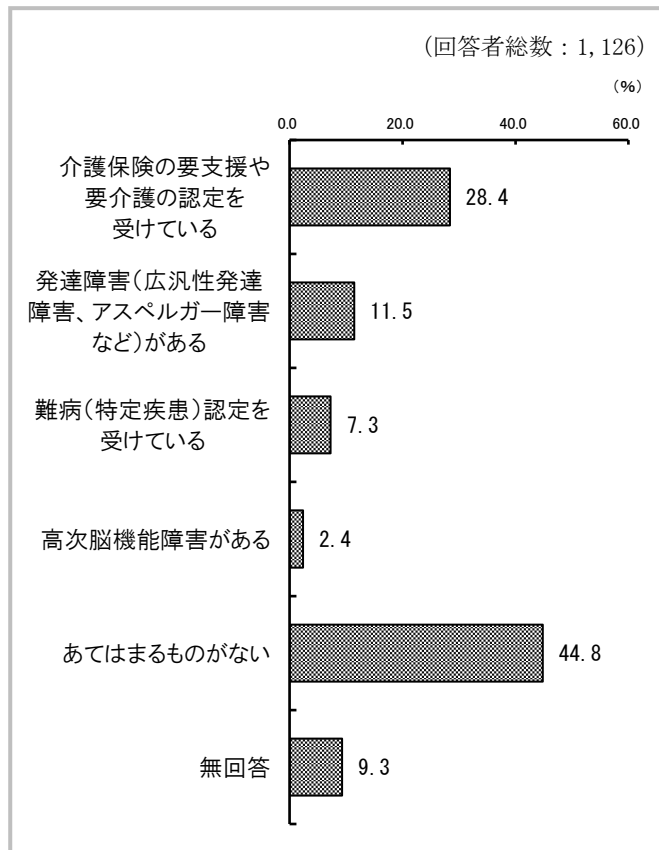
「介護保険の認定を受けている」が28.4%

身体等のその他の状況については、「介護保険の要支援や要介護の認定を受けている」が28.4%、「発達障害（広汎性発達障害、アスペルガー障害など）がある」が11.5%、「難病（特定疾患）認定を受けている」が7.3%、「高次脳機能障害がある」が2.4%となっています。

表 身体等のその他の状況 単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	1,126
介護保険の要支援や要介護の認定を受けている	320 (28.4)
発達障害（広汎性発達障害、アスペルガー障害など）がある	129 (11.5)
難病（特定疾患）認定を受けている	82 (7.3)
高次脳機能障害がある	27 (2.4)
あてはまるものがない	505 (44.8)
無回答	105 (9.3)

図 身体等のその他の状況



2 生活状況について

(1) 現在の暮らし

問5 現在、どのように（どこで）暮らしていますか。[1つに○]

「家族と一緒に」が57.8%

現在の暮らしについては、「家族と一緒に」が57.8%で最も多く、次に「夫や妻、パートナーと一緒に」が21.6%となっています。また、「ひとり暮らし」は10.5%となっています。

図 現在の暮らし

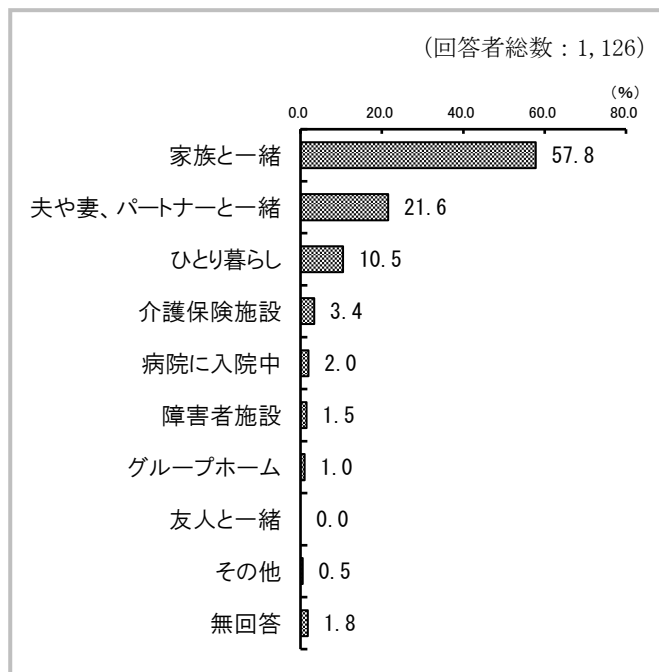


表 現在の暮らし 単位：人 (%)

項目	回答数 (構成比)
回答者総数 (人)	1,126
家族と一緒に	651 (57.8)
夫や妻、パートナーと一緒に	243 (21.6)
ひとり暮らし	118 (10.5)
介護保険施設	38 (3.4)
病院に入院中	22 (2.0)
障害者施設	17 (1.5)
グループホーム	11 (1.0)
友人と一緒に	0 (0.0)
その他	6 (0.5)
無回答	20 (1.8)

【手帳の種類別】

現在の暮らしの状況を手帳の種類別にみると、手帳の種類にかかわらず「家族と一緒に」が最も多く、『身体障害者手帳』では50.5%、『療育手帳』では85.5%、『精神障害者保健福祉手帳』では66.3%となっています。

■ 現在の暮らし—手帳の種類別

単位：人 (%)

項目	全体	手帳の種類		
		身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
回答者総数	1,126	746	173	187
家族と一緒に	651 (57.8)	377 (50.5)	148 (85.5)	124 (66.3)
夫や妻、パートナーと一緒に	243 (21.6)	219 (29.4)	2 (1.2)	25 (13.4)
ひとり暮らし	118 (10.5)	88 (11.8)	1 (0.6)	24 (12.8)
介護保険施設	38 (3.4)	34 (4.6)	2 (1.2)	1 (0.5)
病院に入院中	22 (2.0)	12 (1.6)	3 (1.7)	8 (4.3)
障害者施設	17 (1.5)	6 (0.8)	11 (6.4)	3 (1.6)
グループホーム	11 (1.0)	3 (0.4)	5 (2.9)	2 (1.1)
友人と一緒に	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	6 (0.5)	5 (0.7)	1 (0.6)	0 (0.0)
無回答	20 (1.8)	2 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)

注) 手帳の種類には、「手帳なし」及び無回答の数を除く。

(2) 今後の暮らしの希望

問6 今後(将来)、どのように(どこで)暮らしたいですか。[1つに○]

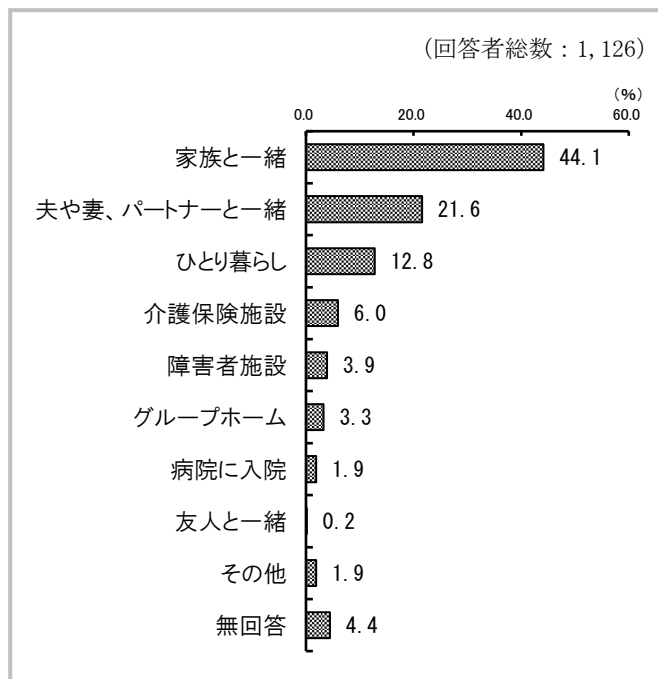
「家族と一緒に」が44.1%

今後の暮らしの希望については、「家族と一緒に」が44.1%で最も多く、次に「夫や妻、パートナーと一緒に」が21.6%、「ひとり暮らし」が12.8%となっています。

表 今後の暮らしの希望 単位：人(%)

回答者総数(人)	1,126
項目	回答数(構成比)
家族と一緒に	497(44.1)
夫や妻、パートナーと一緒に	243(21.6)
ひとり暮らし	144(12.8)
介護保険施設	67(6.0)
障害者施設	44(3.9)
グループホーム	37(3.3)
病院に入院	21(1.9)
友人と一緒に	2(0.2)
その他	21(1.9)
無回答	50(4.4)

図 今後の暮らしの希望



【手帳の種類別】

今後の暮らしの希望を手帳の種類別にみると、手帳の種類にかかわらず、「家族と一緒に」が多くなっています。また、『療育手帳』では「障害者施設」(15.6%)や「グループホーム」(12.7%)が、『精神障害者保健福祉手帳』では「ひとり暮らし」(25.1%)も多くなっています。

■ 今後の暮らしの希望—手帳の種類別

単位：人(%)

項目	全体	手帳の種類		
		身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
回答者総数	1,126	746	173	187
家族と一緒に	497(44.1)	341(45.7)	88(50.9)	72(38.5)
夫や妻、パートナーと一緒に	243(21.6)	205(27.5)	11(6.4)	30(16.0)
ひとり暮らし	144(12.8)	76(10.2)	12(6.9)	47(25.1)
介護保険施設	67(6.0)	58(7.8)	3(1.7)	4(2.1)
障害者施設	44(3.9)	17(2.3)	27(15.6)	5(2.7)
グループホーム	37(3.3)	8(1.1)	22(12.7)	6(3.2)
病院に入院	21(1.9)	14(1.9)	2(1.2)	6(3.2)
友人と一緒に	2(0.2)	0(0.0)	1(0.6)	1(0.5)
その他	21(1.9)	7(0.9)	4(2.3)	10(5.3)
無回答	50(4.4)	20(2.7)	3(1.7)	6(3.2)

注) 手帳の種類には、「手帳なし」及び無回答の数を除く。

(3) 生活費

問7 あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。[1つに○]

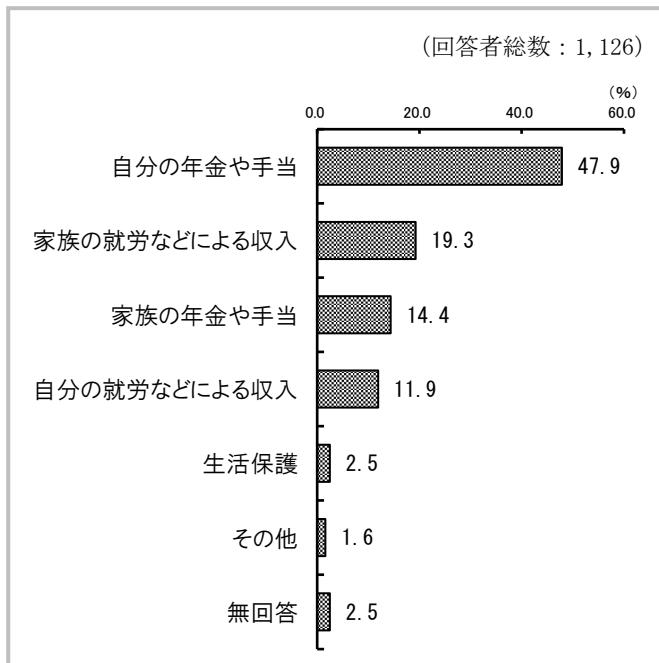
「自分の年金や手当」が47.9%

生活費については、「自分の年金や手当」が47.9%で最も多く、次に「家族の就労などによる収入」が19.3%、「家族の年金や手当」が14.4%となっています。

表 生活費 単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	1,126
自分の年金や手当	539 (47.9)
家族の就労などによる収入	217 (19.3)
家族の年金や手当	162 (14.4)
自分の就労などによる収入	134 (11.9)
生活保護	28 (2.5)
その他	18 (1.6)
無回答	28 (2.5)

図 生活費



(4) 経済状況

問8 現在の暮らしの状況を、経済的にみてどう感じますか。[1つに○]

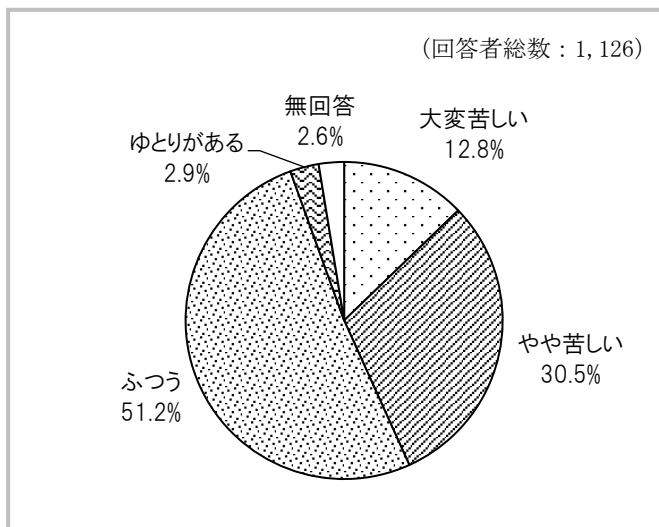
「ふつう」が51.2%

経済状況については、「ふつう」が51.2%で約半数を占めています。また、「大変苦しい」は12.8%、「やや苦しい」は30.5%で、これらを合わせると43.3%となり、経済的に苦しいと感じている人は約4割となっています。

表 経済状況 単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	1,126
大変苦しい	144 (12.8)
やや苦しい	343 (30.5)
ふつう	577 (51.2)
ゆとりがある	33 (2.9)
無回答	29 (2.6)

図 経済状況



3 教育や就労、社会参加について

(1) 平日の昼間の過ごし方

問9 平日の昼間は、主にどこで（何をして）過ごしていますか。[1つに○]

「一般の企業などで働いている」が15.5%

平日の昼間の過ごし方については、「一般の企業などで働いている（自営も含む）」が15.5%、「治療やリハビリを受けている」11.9%、「事業所（作業所）やデイケアに通っている」が11.1%となっています。

また、「幼稚園や保育園、こども園、障害児通所施設、学校などに通っている」は8.2%となっています。

「特に何もしていない」は、17.7%です。

図 平日の昼間の過ごし方

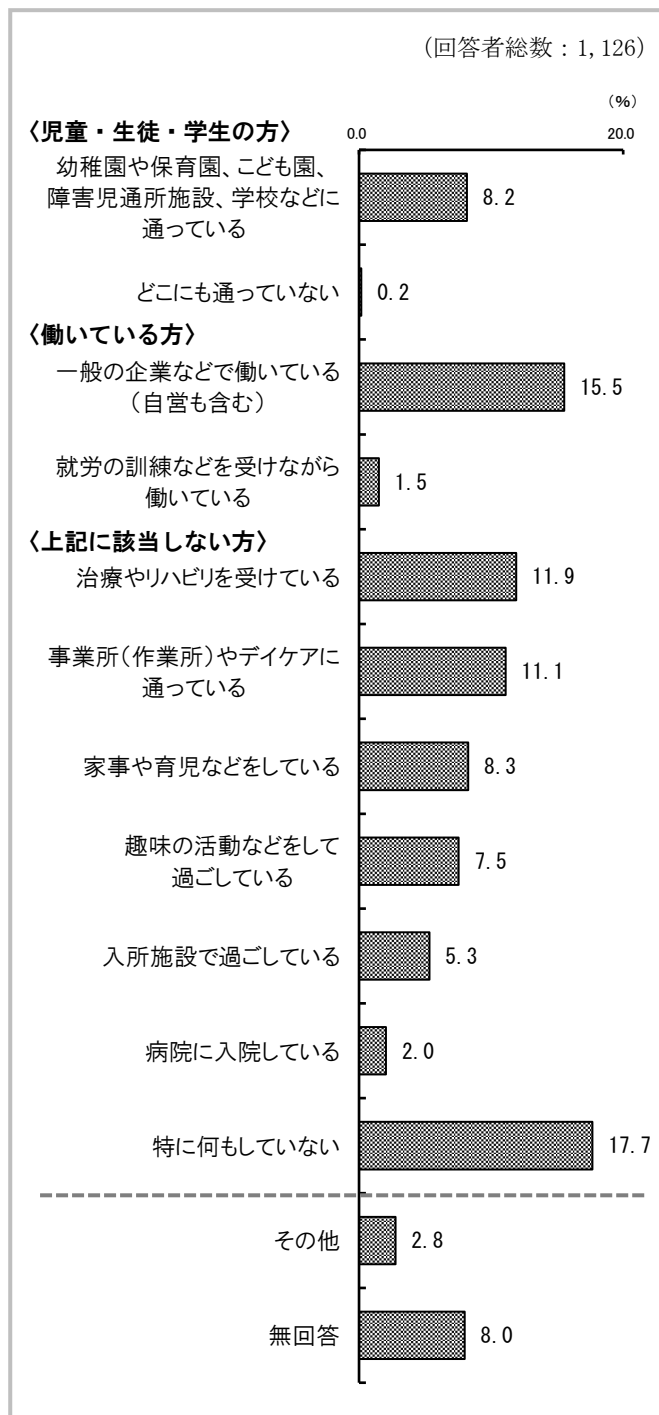


表 平日の昼間の過ごし方 単位：人 (%)

回答者総数 (人)	1,126
項目	回答数 (構成比)
〈児童・生徒・学生の方〉	
幼稚園や保育園、こども園、障害児通所施設、学校などに通っている	92 (8.2)
どこにも通っていない	2 (0.2)
〈働いている方〉	
一般の企業などで働いている（自営も含む）	175 (15.5)
就労の訓練を受けながら働いている	17 (1.5)
〈上記に該当しない方〉	
治療やリハビリを受けている	134 (11.9)
事業所（作業所）やデイケアに通っている	125 (11.1)
家事や育児などを行っている	93 (8.3)
趣味の活動などをして過ごしている	85 (7.5)
入所施設で過ごしている	60 (5.3)
病院に入院している	23 (2.0)
特に何もしていない	199 (17.7)
その他	31 (2.8)
無回答	90 (8.0)

【手帳の種類別】

平日の昼間の過ごし方を手帳の種類別にみると、『身体障害者手帳』では、「特に何もしていない」が21.8%、「一般の企業などで働いている（自営も含む）」が14.7%となっています。

『療育手帳』では、「幼稚園や保育園、こども園、障害児通所施設、学校などに通っている」が37.6%、「事業所（作業所）やデイケアに通っている」が23.1%となっています。

『精神障害者保健福祉手帳』では、「一般の企業などで働いている（自営も含む）」が20.9%、「事業所（作業所）やデイケアに通っている」が14.4%となっています。

■ 平日の昼間の過ごし方—手帳の種類別

単位：人（%）

項目	全体	手帳の種類		
		身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
回答者総数（人）	1,126	746	173	187
〈児童・生徒・学生の方〉				
幼稚園や保育園、こども園、障害児通所施設、学校などに通っている	92（8.2）	14（1.9）	65（37.6）	5（2.7）
どこにも通っていない	2（0.2）	0（0.0）	1（0.6）	1（0.5）
〈働いている方〉				
一般の企業などで働いている（自営も含む）	175（15.5）	110（14.7）	26（15.0）	39（20.9）
就労の訓練などを受けながら働いている	17（1.5）	4（0.5）	9（5.2）	5（2.7）
〈上記に該当しない方〉				
治療やリハビリを受けている	134（11.9）	111（14.9）	1（0.6）	17（9.1）
事業所（作業所）やデイケアに通っている	125（11.1）	61（8.2）	40（23.1）	27（14.4）
家事や育児などを行っている	93（8.3）	63（8.4）	1（0.6）	24（12.8）
趣味の活動などをして過ごしている	85（7.5）	65（8.7）	4（2.3）	15（8.0）
入所施設で過ごしている	60（5.3）	45（6.0）	11（6.4）	5（2.7）
病院に入院している	23（2.0）	12（1.6）	2（1.2）	9（4.8）
特に何もしていない	199（17.7）	163（21.8）	5（2.9）	26（13.9）
その他	31（2.8）	20（2.7）	3（1.7）	7（3.7）
無回答	90（8.0）	78（10.5）	5（2.9）	7（3.7）

注）手帳の種類には、「手帳なし」及び無回答の数を除く。

(2) 学校・仕事以外の方の今後の過ごし方の希望

【問9で「治療やリハビリを受けている」、「事業所（作業所）やデイケアに通っている」、「家事や育児などを行っている」、「趣味の活動などをして過ごしている」、「入所施設で過ごしている」、「病院に入院している」、「特に何もしていない」を選んだ方が回答】

問10 今後（将来）、どのように過ごしたいと思いますか。[1つに○]

「今の生活を続けたい」が65.9%

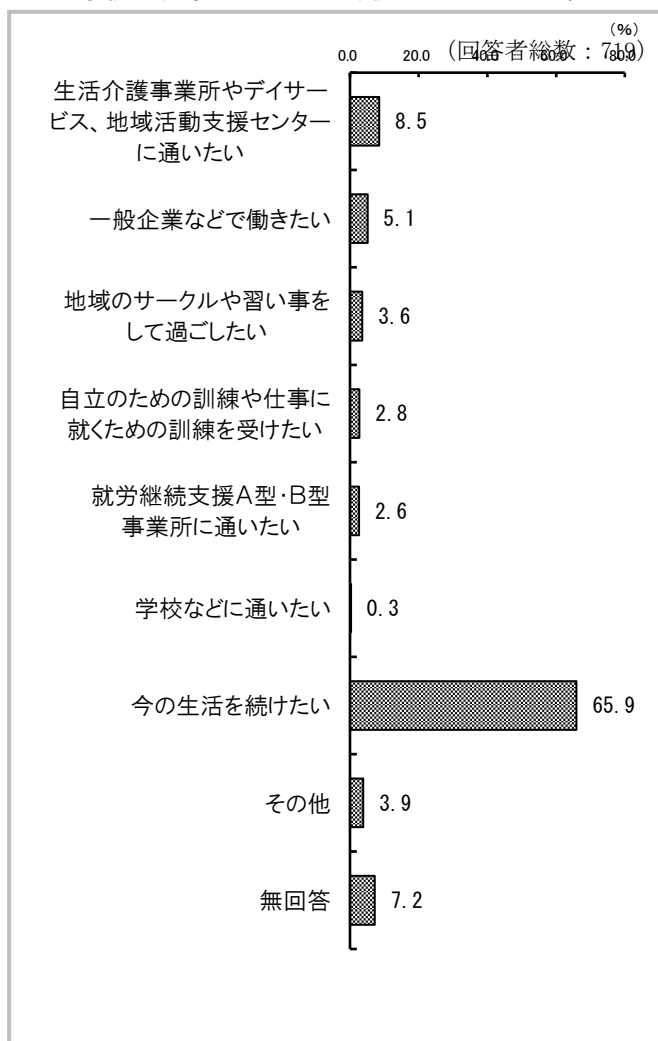
児童・生徒・学生ではない、または働いていない方の今後の過ごし方の希望については、「今の生活を続けたい」が65.9%となっています。

また、「生活介護事業所やデイサービス、地域活動支援センターに通いたい」は8.5%、「一般企業などで働きたい」は5.1%となっています。

表 学校・仕事以外の方の今後の過ごし方の希望
単位：人（%）

回答者総数（人）	719
項目	回答数（構成比）
生活介護事業所やデイサービス、地域活動支援センターに通いたい	61（8.5）
一般企業などで働きたい	37（5.1）
地域のサークルや習い事をして過ごしたい	26（3.6）
自立のための訓練や仕事に就くための訓練を受けたい	20（2.8）
就労継続支援A型・B型事業所に通いたい	19（2.6）
学校などに通いたい	2（0.3）
今の生活を続けたい	474（65.9）
その他	28（3.9）
無回答	52（7.2）

図 学校・仕事以外の方の今後の過ごし方の希望



(3) 園や学校のことなどで特に困ること

【問9で「幼稚園や保育園、こども園、障害児通所施設、学校などに通っている」、「どこにも通っていない」を選んだ児童・生徒・学生の方が回答】

問11 園や学校のことなどで、特に困ることはありますか。[あてはまるものすべてに○]

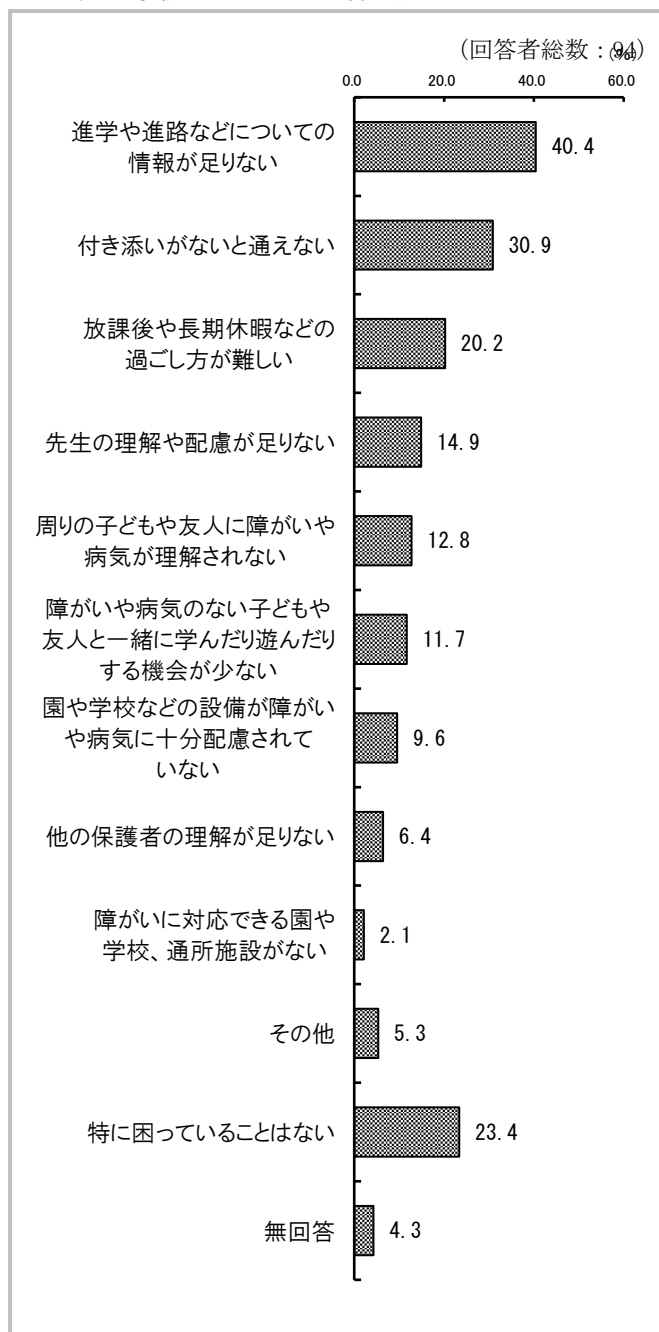
「進学や進路などの情報が足りない」が40.4%

児童・生徒・学生の方が、園や学校のことなどで特に困ることについては、「進学や進路などについての情報が足りない」が40.4%で最も多く、次に「付き添いがないと通えない」が30.9%、「放課後や長期休暇などの過ごし方が難しい」が20.2%となっています。

表 園や学校のことなどで特に困ること

単位：人（％）	
回答者総数（人）	94
項目	回答数（構成比）
進学や進路などについての情報が足りない	38 (40.4)
付き添いがないと通えない	29 (30.9)
放課後や長期休暇などの過ごし方が難しい	19 (20.2)
先生の理解や配慮が足りない	14 (14.9)
周りの子どもや友人に障がいや病気が理解されない	12 (12.8)
障がいや病気がない子どもや友人と一緒に学んだり遊んだりする機会が少ない	11 (11.7)
園や学校などの設備が障がいや病気に十分配慮されていない	9 (9.6)
他の保護者の理解が足りない	6 (6.4)
障がいに対応できる園や学校、通所施設がない	2 (2.1)
その他	5 (5.3)
特に困っていることはない	22 (23.4)
無回答	4 (4.3)

図 園や学校のことなどで特に困ること



【年齢別（18歳以下）】

園や学校のことなどで特に困ることを18歳以下でみると、『0～6歳』では「付き添いがないと通えない」が45.0%で多くなっています。

『7～18歳』では「進学や進路などについての情報が足りない」が44.4%で最も多く、次に「付き添いがないと通えない」が23.8%、「放課後や長期休暇などの過ごし方が難しい」が20.6%となっています。

一方、「特に困っていることはない」は、『0～6歳』では20.0%、『7～18歳』では27.0%となっています。

■ 園や学校のことなどで特に困ること一年齢別（18歳以下）

単位：人（%）

項目	全体	年齢別（18歳以下）	
		0～6歳	7～18歳
回答者総数（人）	94	20	63
進学や進路などについての情報が足りない	38 (40.4)	6 (30.0)	28 (44.4)
付き添いがないと通えない	29 (30.9)	9 (45.0)	15 (23.8)
放課後や長期休暇などの過ごし方が難しい	19 (20.2)	4 (20.0)	13 (20.6)
先生の理解や配慮が足りない	14 (14.9)	2 (10.0)	11 (17.5)
周りの子どもや友人に障がいや病気が理解されない	12 (12.8)	1 (5.0)	9 (14.3)
障がいや病気のない子どもや友人と一緒に学んだり遊んだりする機会が少ない	11 (11.7)	2 (10.0)	9 (14.3)
園や学校などの設備が障がいや病気に十分配慮されていない	9 (9.6)	3 (15.0)	4 (6.3)
他の保護者の理解が足りない	6 (6.4)	1 (5.0)	5 (7.9)
障がいに対応できる園や学校、通所施設がない	2 (2.1)	0 (0.0)	2 (3.2)
その他	5 (5.3)	1 (5.0)	3 (4.8)
特に困っていることはない	22 (23.4)	4 (20.0)	17 (27.0)
無回答	4 (4.3)	0 (0.0)	2 (3.2)

注)「全体」には、19歳以上の回答を含む。

(4) 働いている方の1か月の給料

【問9で「一般の企業などで働いている（自営も含む）」、「就労の訓練などを受けながら働いている」を選んだ方が回答】

問12 あなたの1か月の給料はどのくらいですか。[1つに○]

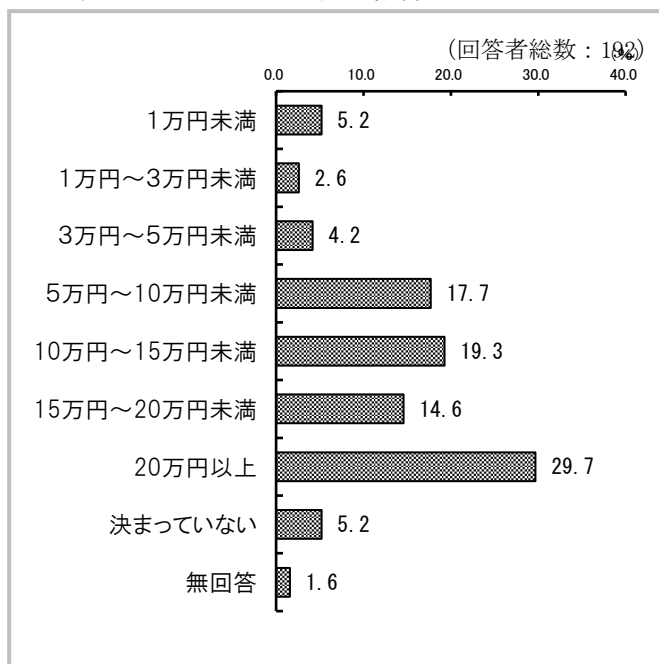
「20万円以上」が29.7%

働いている方の1か月の給料については、「20万円以上」が29.7%で最も多く、次に「10万円～15万円未満」が19.3%、「5万円～10万円未満」が17.7%となっています。

表 働いている方の1か月の給料

単位：人（%）	
回答者総数（人）	192
項目	回答数（構成比）
1万円未満	10（5.2）
1万円～3万円未満	5（2.6）
3万円～5万円未満	8（4.2）
5万円～10万円未満	34（17.7）
10万円～15万円未満	37（19.3）
15万円～20万円未満	28（14.6）
20万円以上	57（29.7）
決まっていない	10（5.2）
無回答	3（1.6）

図 働いている方の1か月の給料



【手帳の種類別】

働いている方の1か月の給料を手帳の種類別にみると、『身体障害者手帳』では、「20万円以上」が42.1%となっています。『療育手帳』では、「10万円～15万円未満」が31.4%となっていますが、「5万円～10万円未満」と「1万円未満」がそれぞれ22.9%となっています。『精神障害者保健福祉手帳』では、「5万円～10万円未満」が27.3%、「10万円～15万円未満」が25.0%、「15万円～20万円未満」が22.7%となっています。

■ 働いている方の1か月の給料－手帳の種類別

単位：人（%）

項目	全体	手帳の種類		
		身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
回答者総数	192	114	35	44
1万円未満	10 (5.2)	2 (1.8)	8 (22.9)	1 (2.3)
1万円～3万円未満	5 (2.6)	1 (0.9)	1 (2.9)	1 (2.3)
3万円～5万円未満	8 (4.2)	6 (5.3)	1 (2.9)	1 (2.3)
5万円～10万円未満	34 (17.7)	16 (14.0)	8 (22.9)	12 (27.3)
10万円～15万円未満	37 (19.3)	16 (14.0)	11 (31.4)	11 (25.0)
15万円～20万円未満	28 (14.6)	14 (12.3)	5 (14.3)	10 (22.7)
20万円以上	57 (29.7)	48 (42.1)	1 (2.9)	6 (13.6)
決まっていない	10 (5.2)	8 (7.0)	0 (0.0)	2 (4.5)
無回答	3 (1.6)	3 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)

注) 手帳の種類には、「手帳なし」及び無回答の数を除く。

(5) 働きやすい環境のために重要なこと

【問9で「一般の企業などで働いている（自営も含む）」、「就労の訓練などを受けながら働いている」を選んだ方が回答】

問13 もっと働きやすい環境にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。
[3つ以内で○]

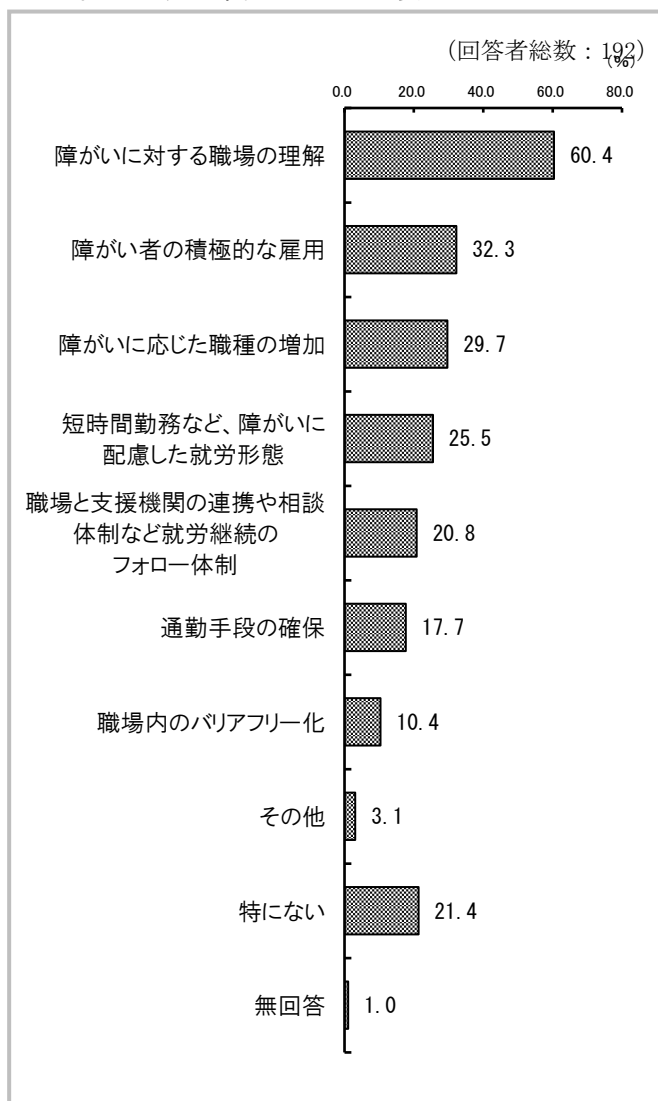
「障がいに対する職場の理解」が60.4%

働きやすい環境のために重要なことについては、「障がいに対する職場の理解」が60.4%で最も多く、次に「障がい者の積極的な雇用」が32.3%、「障がいに応じた職種増加」が29.7%となっています。

表 働きやすい環境のために重要なこと

単位：人（%）	
回答者総数（人）	192
項目	回答数（構成比）
障がいに対する職場の理解	116 (60.4)
障がい者の積極的な雇用	62 (32.3)
障がいに応じた職種の増加	57 (29.7)
短時間勤務など、障がいに対応した就労形態	49 (25.5)
職場と支援機関の連携や相談体制など就労継続のフォロー体制	40 (20.8)
通勤手段の確保	34 (17.7)
職場内のバリアフリー化	20 (10.4)
その他	6 (3.1)
特になし	41 (21.4)
無回答	2 (1.0)

図 働きやすい環境のために重要なこと



4 障害福祉サービスなどについて

(1) 障害福祉サービス・障害児通所支援の利用状況

問14 「障害福祉サービス」または「障害児通所支援」を利用していますか。[1つに○]

「利用している」が24.5%

障害福祉サービス・障害児通所支援の利用状況については、「利用している」が24.5%、「利用していない」が63.7%となっています。

図 障害福祉サービス・障害児通所支援の利用状況

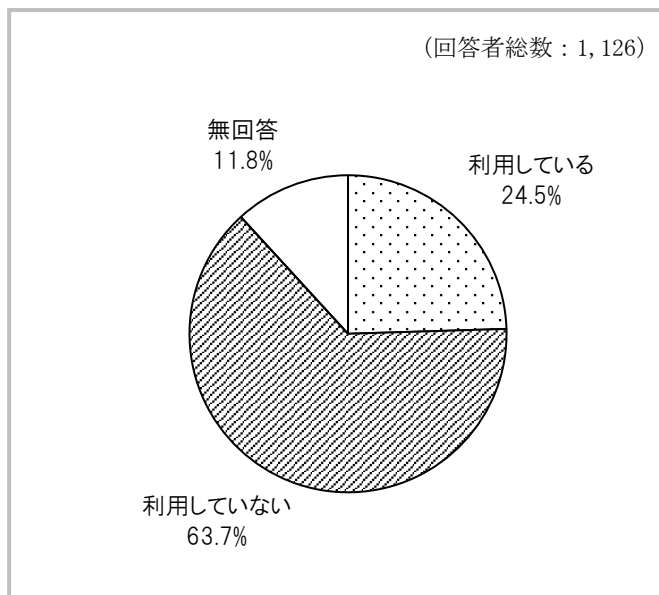


表 障害福祉サービス・障害児通所支援の利用状況

単位：人（%）

回答者総数（人）	1,126
項目	回答数（構成比）
利用している	276 (24.5)
利用していない	717 (63.7)
無回答	133 (11.8)

【手帳の種類別】

障害福祉サービス・障害児通所支援の利用状況を手帳の種類別にみると、「利用している」という割合は、『身体障害者手帳』では17.3%、『療育手帳』では63.6%、『精神障害者保健福祉手帳』では19.8%となっています。

■ 障害福祉サービス・障害児通所支援の利用状況－手帳の種類別

単位：人（%）

項目	全体	手帳の種類		
		身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
回答者総数	1,126	746	173	187
利用している	276 (24.5)	129 (17.3)	110 (63.6)	37 (19.8)
利用していない	717 (63.7)	516 (69.2)	54 (31.2)	131 (70.1)
無回答	133 (11.8)	101 (13.5)	9 (5.2)	19 (10.2)

注) 手帳の種類には、「手帳なし」及び無回答の数を除く。

(2) 利用しているサービス

【問14で「利用している」を選んだ方が回答】

問15 利用しているサービスはなんですか。[あてはまるものすべてに○]

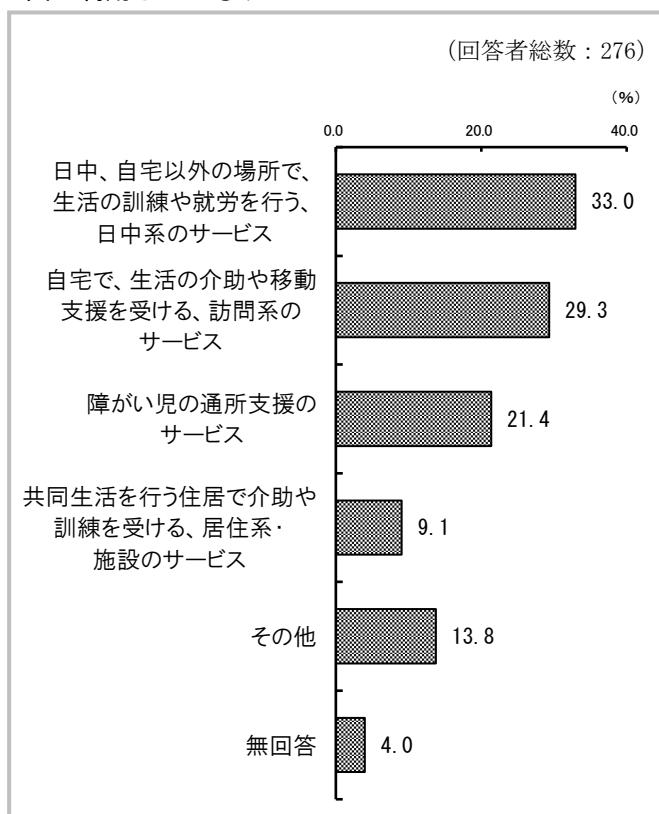
「日中系のサービス」が33.0%

利用しているサービスについては、「日中、自宅以外の場所で、生活の訓練や就労を行う、日中系のサービス」が33.0%、「自宅で、生活の介助や移動支援を受ける、訪問系のサービス」が29.3%、「障がい児の通所支援のサービス」が21.4%となっています。

表 利用しているサービス 単位：人（%）

回答者総数（人）	276
項目	回答数（構成比）
日中、自宅以外の場所で、生活の訓練や就労を行う、日中系のサービス （生活介護、療養介護、短期入所、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援）	91 (33.0)
自宅で、生活の介助や移動支援を受ける、訪問系のサービス （居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援）	81 (29.3)
障がい児の通所支援のサービス （児童発達支援、医療型児童発達支援、居宅訪問型児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援）	59 (21.4)
共同生活を行う住居で介助や訓練を受ける、居住系・施設のサービス （共同生活援助、自立生活援助、施設入所支援）	25 (9.1)
その他	38 (13.8)
無回答	11 (4.0)

図 利用しているサービス



(3) サービスの満足度

【問14で「利用している」を選んだ方が回答】

問16 問15で利用しているサービスの満足度はいかがですか。[1つに○]

満足と感じている人は83.3%

利用しているサービスの満足度については、「満足」が31.9%、「ほぼ満足」が51.4%で、これらを合わせると83.3%となり、約8割が満足と感じています。

一方、「やや不満」は7.2%、「不満」は1.8%は、これらを合わせると不満と感じている人は9.0%となっています。

不満を感じる理由を自由記入でたずねたところ、日数や時間など希望に沿った利用がしにくいことや、送迎や交通手段の問題、サービスの内容に関する事など、様々な意見がありました。

図 サービスの満足度

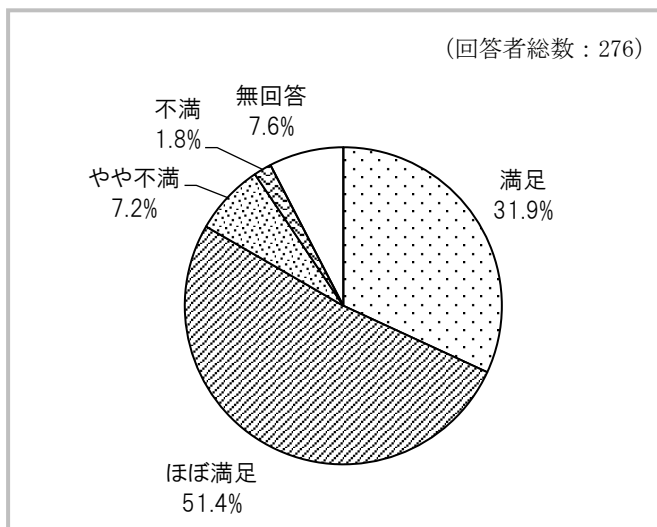


表 サービスの満足度 単位：人 (%)

項目	回答数 (構成比)
回答者総数 (人)	276
満足	88 (31.9)
ほぼ満足	142 (51.4)
やや不満	20 (7.2)
不満	5 (1.8)
無回答	21 (7.6)

(4) 計画相談支援・障害児相談支援の利用状況

【問14で「利用している」を選んだ方が回答】

問17 「計画相談支援」または「障害児相談支援」を利用していますか。[1つに○]

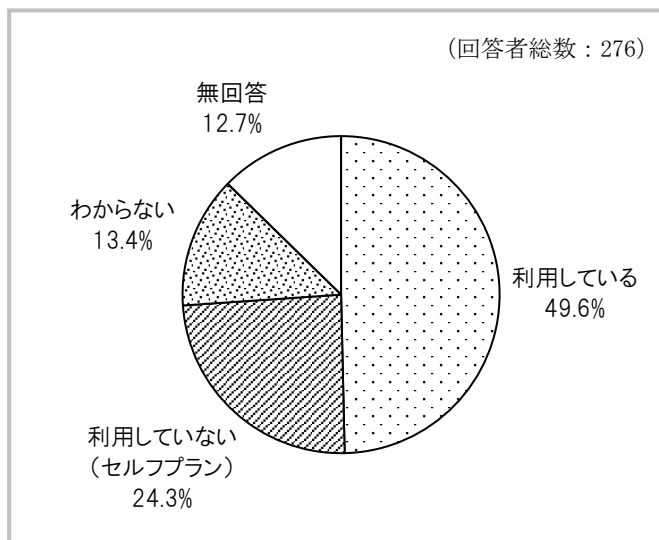
「利用している」が49.6%

計画相談支援・障害児相談支援の利用状況については、「利用している」が49.6%、「利用していない(セルフプラン)」が24.3%となっています。

表 計画相談支援・障害児相談支援の利用状況

単位：人 (%)	
回答者総数 (人)	276
項目	回答数 (構成比)
利用している	137 (49.6)
利用していない(セルフプラン)	67 (24.3)
わからない	37 (13.4)
無回答	35 (12.7)

図 計画相談支援・障害児相談支援の利用状況



(5) 計画相談支援・障害児相談支援を利用していない理由

【問17で「利用していない(セルフプラン)」を選んだ方が回答】

問18 利用していない主な理由は何ですか。[1つに○]

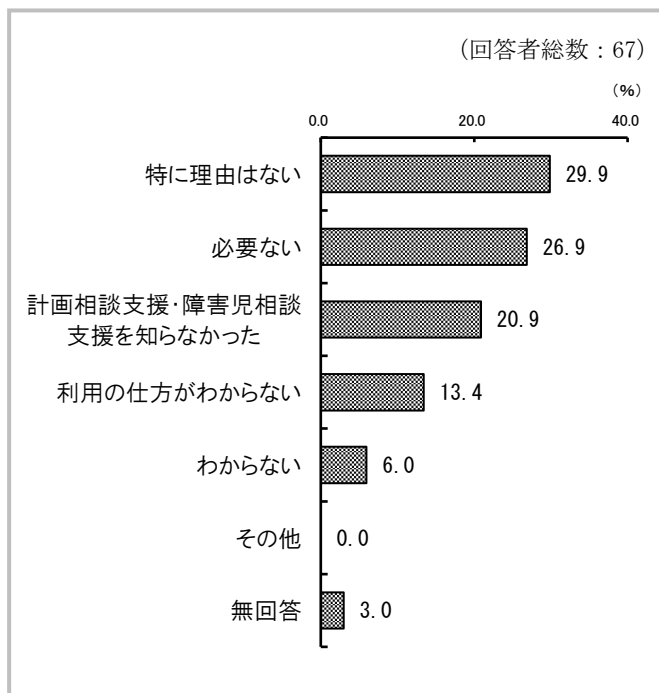
「特に理由はない」が29.9%

計画相談支援・障害児相談支援を利用していない理由については、「特に理由はない」が29.9%で最も多く、次に「必要ない」が26.9%、「計画相談支援・障害児相談支援を知らなかった」が20.9%となっています。

表 計画相談支援・障害児相談支援を利用していない理由

単位：人 (%)	
回答者総数 (人)	67
項目	回答数 (構成比)
特に理由はない	20 (29.9)
必要ない	18 (26.9)
計画相談支援・障害児相談支援を知らなかった	14 (20.9)
利用の仕方がわからない	9 (13.4)
わからない	4 (6.0)
その他	0 (0.0)
無回答	2 (3.0)

図 計画相談支援・障害児相談支援を利用していない理由



(6) 充実してほしいサービス

問19 以下の項目から、充実してほしいものはありますか。[あてはまるものすべてに○]

「情報提供や相談・調整」が29.7%

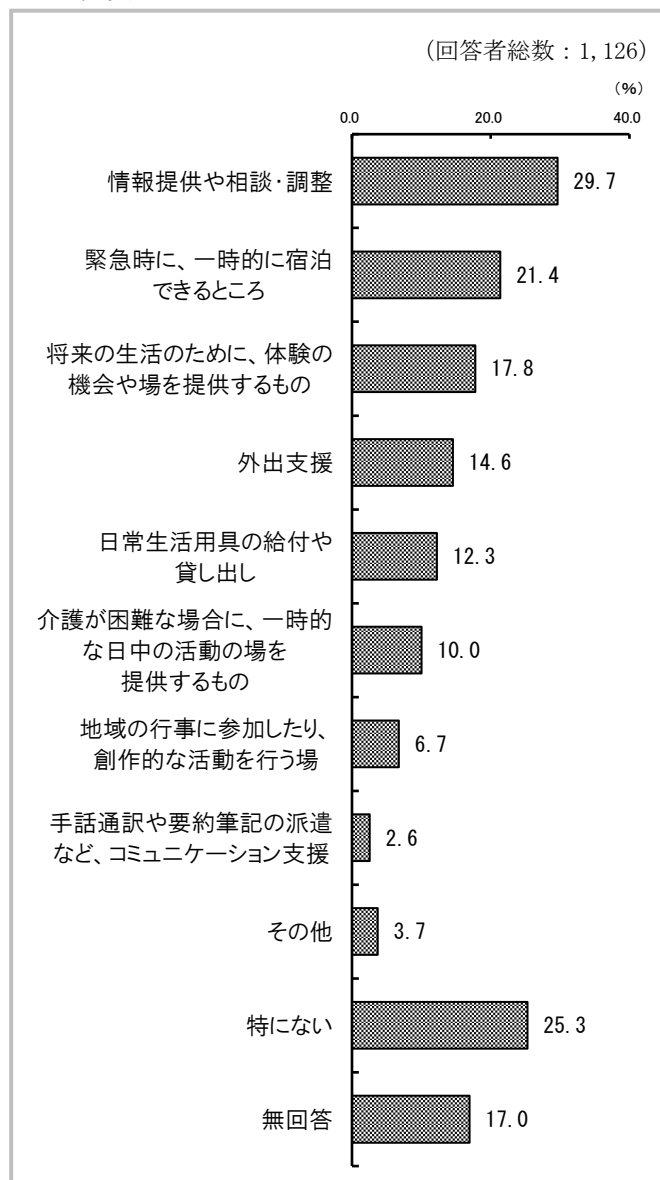
充実してほしいサービスについては、「情報提供や相談・調整」が29.7%で最も多く、次に「緊急時に、一時的に宿泊できる場所」が21.4%、「将来の生活のために、体験の機会や場を提供するもの」が17.8%となっています。

充実してほしいサービスの内容を自由記入でたずねたところ、相談体制、ショートステイや緊急一時保護、就労支援、外出支援、グループホーム、余暇活動など、様々な内容がありました。

表 充実してほしいサービス 単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	1,126
情報提供や相談・調整	334 (29.7)
緊急時に、一時的に宿泊できる場所	241 (21.4)
将来の生活のために、体験の機会や場を提供するもの	200 (17.8)
外出支援	164 (14.6)
日常生活用具の給付や貸し出し	138 (12.3)
介護が困難な場合に、一時的な日中の活動の場を提供するもの	113 (10.0)
地域の行事に参加したり、創作的な活動を行う場	76 (6.7)
手話通訳や要約筆記の派遣など、コミュニケーション支援	29 (2.6)
その他	42 (3.7)
特にない	285 (25.3)

図 充実してほしいサービス



5 相談について

(1) 身近な相談相手の有無

問20 困ったり不安になったりしたときに、身近に相談できる相手がありますか。[1つに○]

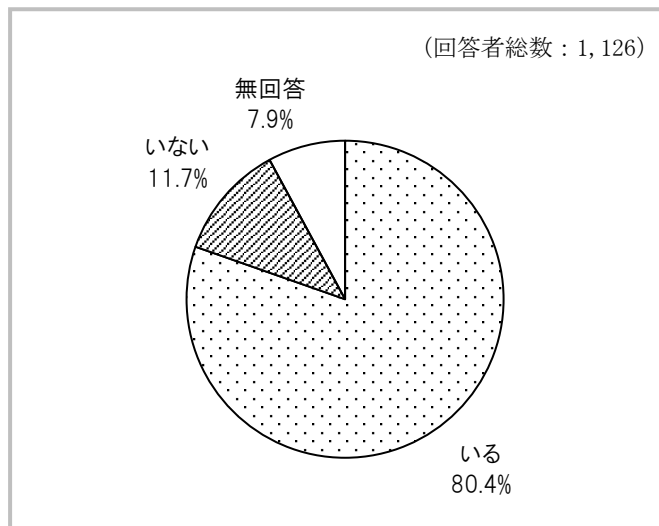
「いる」が80.4%

身近な相談相手については、「いる」が80.4%、「いない」が11.7%となっています。

表 身近な相談相手の有無 単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	1,126
いる	905 (80.4)
いない	132 (11.7)
無回答	89 (7.9)

図 身近な相談相手の有無



【手帳の種類別】

身近な相談相手の有無を手帳の種類別にみると、「いる」という割合は、『身体障害者手帳』では80.3%、『療育手帳』では82.1%、『精神障害者保健福祉手帳』では77.5%となっています。

■ 身近な相談相手の有無－手帳の種類別

単位：人（%）

項目	全体	手帳の種類		
		身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
回答者総数	1,126	746	173	187
いる	905 (80.4)	599 (80.3)	142 (82.1)	145 (77.5)
いない	132 (11.7)	82 (11.0)	18 (10.4)	33 (17.6)
無回答	89 (7.9)	65 (8.7)	13 (7.5)	9 (4.8)

注) 手帳の種類には、「手帳なし」及び無回答の数を除く。

(2) 悩みや困りごとの相談先

問21 悩みや困りごとを相談するのは誰(どこ)ですか。[3つ以内で○]

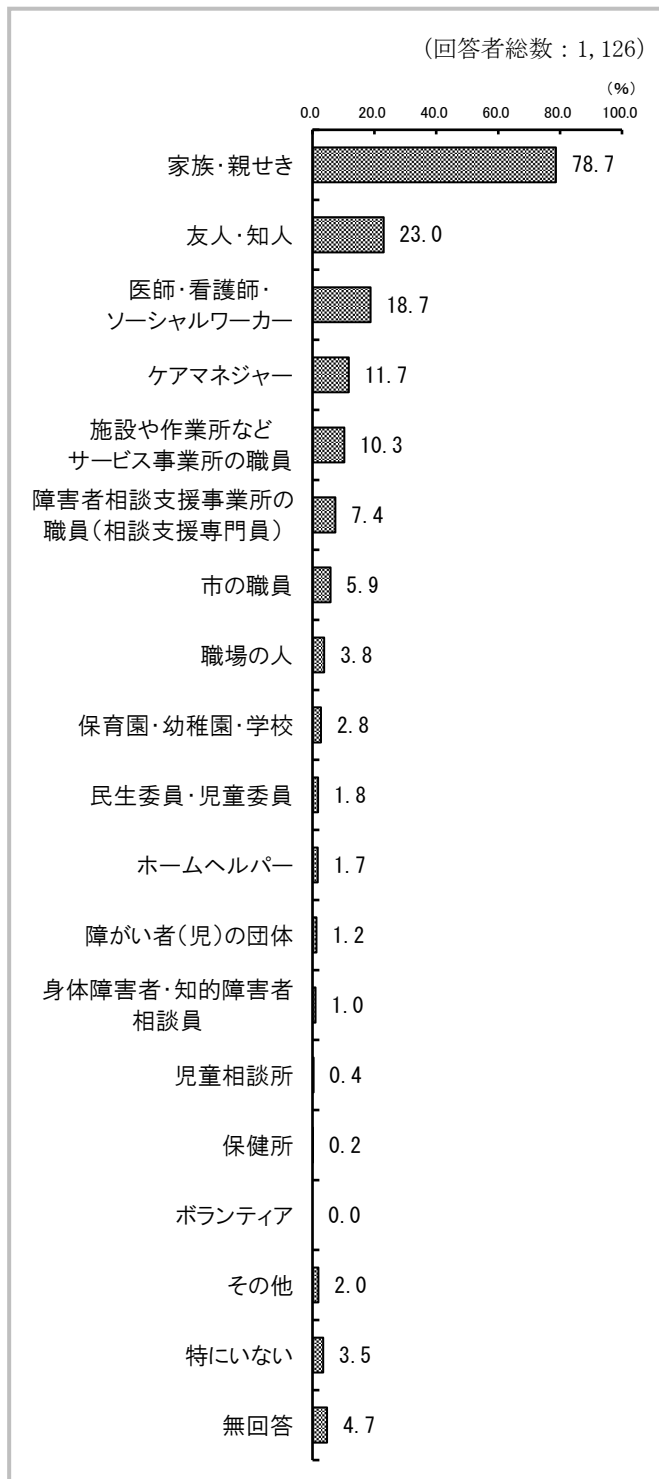
「家族・親せき」が78.7%

悩みや困りごとの相談先については、「家族・親せき」が78.7%で最も多く、次に「友人・知人」が23.0%、「医師・看護師・ソーシャルワーカー」が18.7%となっています。

表 悩みや困りごとの相談先 単位：人(%)

回答者総数(人)	1,126
項目	回答数(構成比)
家族・親せき	886(78.7)
友人・知人	259(23.0)
医師・看護師・ソーシャルワーカー	211(18.7)
ケアマネジャー	132(11.7)
施設や作業所などサービス事業所の職員	116(10.3)
障害者相談支援事業所の職員(相談支援専門員)	83(7.4)
市の職員	66(5.9)
職場の人	43(3.8)
保育園・幼稚園・学校	31(2.8)
民生委員・児童委員	20(1.8)
ホームヘルパー	19(1.7)
障がい者(児)の団体	14(1.2)
身体障害者・知的障害者相談員	11(1.0)
児童相談所	4(0.4)
保健所	2(0.2)
ボランティア	0(0.0)
その他	22(2.0)
特にいない	39(3.5)
無回答	53(4.7)

図 悩みや困りごとの相談先



(3) 「福祉の総合相談窓口」の周知状況

問22 白岡市では、「福祉の総合相談窓口」を令和4年7月に開設しました。あなたは、「福祉の総合相談窓口」を知っていますか。[1つに○]

「名前も内容も知らない」が67.1%

「福祉の総合相談窓口」の周知状況については、「だいたい内容も知っている」が6.1%、「名前は聞いたことはある」が21.8%、「名前も内容も知らない」が67.1%となっています。

図 「福祉の総合相談窓口」の周知状況

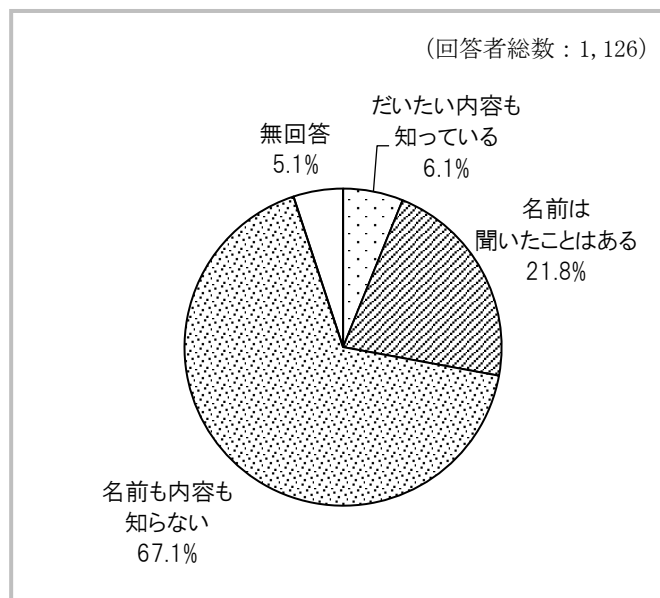


表 「福祉の総合相談窓口」の周知状況

単位：人 (%)

項目	回答数 (構成比)
回答者総数 (人)	1,126
だいたい内容も知っている	69 (6.1)
名前は聞いたことはある	245 (21.8)
名前も内容も知らない	755 (67.1)
無回答	57 (5.1)

(4) 相談支援先の周知状況

問23 障がい者の相談支援先を知っていますか。[知っているものすべてに○]

「たいよう」が 7.0%

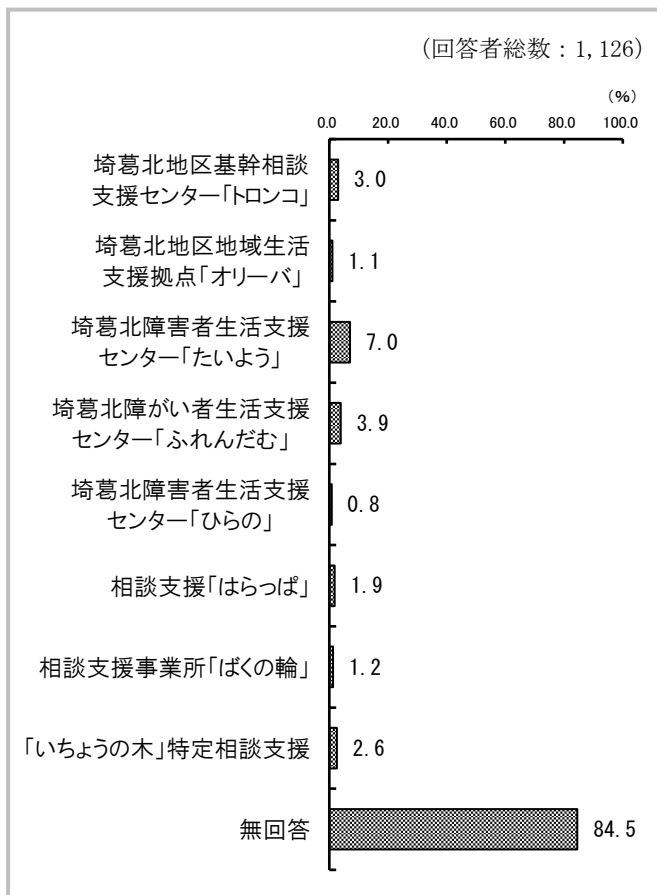
障がい者の相談支援先で知っているものを選択してもらったところ、埼玉北障害者生活支援センター「たいよう」が 7.0%、埼玉北障がい者生活支援センター「ふれんだむ」が 3.9%、埼玉北地区基幹相談支援センター「トロンコ」が 3.0%となっています。

一方、一つも選択しなかった割合は 84.5%となっています。

表 相談支援先の周知状況 単位：人 (%)

項目	回答数 (構成比)
回答者総数 (人)	1,126
埼玉北地区基幹相談支援センター「トロンコ」	34 (3.0)
埼玉北地区地域生活支援拠点「オリーブ」	12 (1.1)
埼玉北障害者生活支援センター「たいよう」	79 (7.0)
埼玉北障がい者生活支援センター「ふれんだむ」	44 (3.9)
埼玉北障害者生活支援センター「ひらの」	9 (0.8)
相談支援「はらっぱ」	21 (1.9)
相談支援事業所「ばくの輪」	14 (1.2)
「いちょうの木」特定相談支援	29 (2.6)
無回答	952 (84.5)

図 相談支援先の周知状況



(5) 相談体制の評価

問24 現在の相談体制はどのように感じますか。[1つに○]

「わからない」が59.8%

相談体制の評価については、「十分」が4.5%、「ほぼ十分」が9.3%で、これらを合わせると、十分であると評価している人は13.8%となっています。

一方、「やや不十分」は5.9%、「不十分」は8.4%となっています。

また、「わからない」が59.8%となっています。

図 相談体制の評価

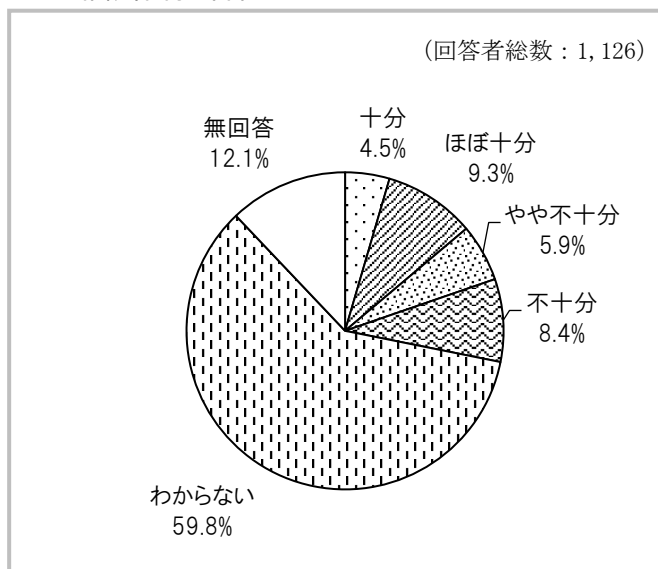


表 相談体制の評価 単位：人 (%)

項目	回答数 (構成比)
回答者総数 (人)	1,126
十分	51 (4.5)
ほぼ十分	105 (9.3)
やや不十分	66 (5.9)
不十分	95 (8.4)
わからない	673 (59.8)
無回答	136 (12.1)

6 防災について

(1) 災害時に不安に思うこと

問25 災害時の避難（または対処）で不安に思うことはなんですか。[あてはまるものすべてに○]

「避難所での生活」が68.7%

災害時に不安に思うことについては、「避難所での生活」が68.7%で最も多く、次に「避難所への移動」が43.8%、「避難情報の入手」が34.9%となっています。

図 災害時に不安に思うこと

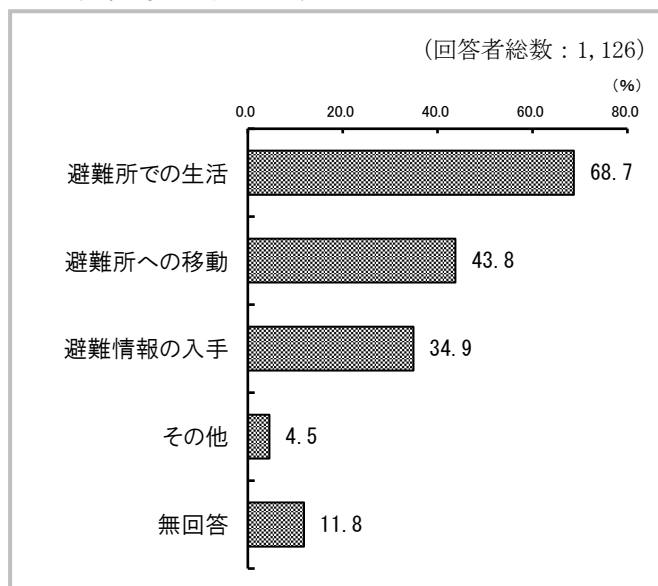


表 災害時に不安に思うこと 単位: 人 (%)

項目	回答数 (構成比)
回答者総数 (人)	1,126
避難所での生活	774 (68.7)
避難所への移動	493 (43.8)
避難情報の入手	393 (34.9)
その他	51 (4.5)
無回答	133 (11.8)

【手帳の種類別】

災害時に不安に思うことについて手帳の種類別にみると、「避難所での生活」は、『身体障害者手帳』では64.9%、『療育手帳』では79.2%、『精神障害者保健福祉手帳』では72.2%となっています。また、『身体障害者手帳』では「避難所への移動」が47.6%となっており、『療育手帳』や『精神障害者保健福祉手帳』の割合より約10ポイント多くなっています。

■ 災害時に不安に思うこと－手帳の種類別

単位: 人 (%)

項目	全体	手帳の種類		
		身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
回答者総数	1,126	746	173	187
避難所での生活	774 (68.7)	484 (64.9)	137 (79.2)	135 (72.2)
避難所への移動	493 (43.8)	355 (47.6)	64 (37.0)	69 (36.9)
避難情報の入手	393 (34.9)	259 (34.7)	60 (34.7)	69 (36.9)
その他	51 (4.5)	33 (4.4)	5 (2.9)	14 (7.5)
無回答	133 (11.8)	94 (12.6)	18 (10.4)	22 (11.8)

注) 手帳の種類には、「手帳なし」及び無回答の数を除く。

(2) 災害に備えていること

問26 災害に備えていることはありますか。[あてはまるものすべてに○]

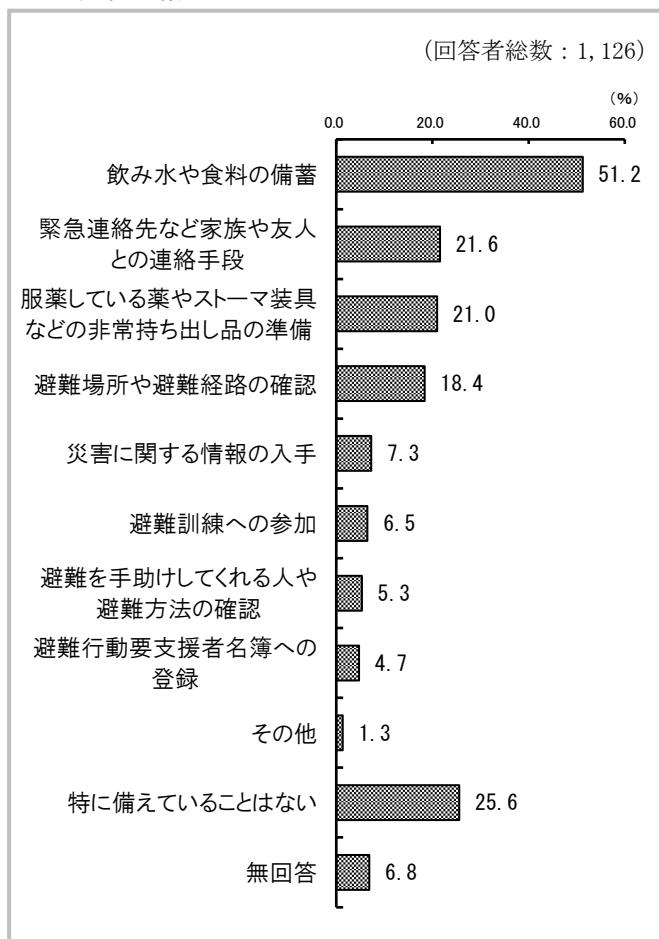
「飲み水や食料の備蓄」が51.2%

災害に備えていることについては、「飲み水や食料の備蓄」が51.2%で最も多く、次に「緊急連絡先など家族や友人との連絡手段」が21.6%、「服薬している薬やストーマ装具などの非常持ち出し品の準備」が21.0%となっています。

表 災害に備えていること 単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	1,126
飲み水や食料の備蓄	577 (51.2)
緊急連絡先など家族や友人との連絡手段	243 (21.6)
服薬している薬やストーマ装具などの非常持ち出し品の準備	236 (21.0)
避難場所や避難経路の確認	207 (18.4)
災害に関する情報の入手	82 (7.3)
避難訓練への参加	73 (6.5)
避難を手助けしてくれる人や避難方法の確認	60 (5.3)
避難行動要支援者名簿への登録	53 (4.7)
その他	15 (1.3)
特に備えていることはない	288 (25.6)
無回答	77 (6.8)

図 災害に備えていること



7 住みやすいまちづくりについて

(1) 住みよさ意識

問27 あなたにとって、白岡市は住みやすいまちだと感じますか。[1つに○]

住みやすいと感じている人が75.9%

住みよさ意識については、「住みやすい」が23.1%、「まあまあ住みやすい」が52.8%で、これらを合わせると、住みやすいと感じている人が75.9%となっています。

一方、「あまり住みやすくない」は13.1%、「住みやすくない」は5.2%となっています。

住みやすくないところについて自由記入でたずねたところ、交通や移動手段に関すること、買い物や商業施設に関することなどの記載がありました。

図 住みよさ意識

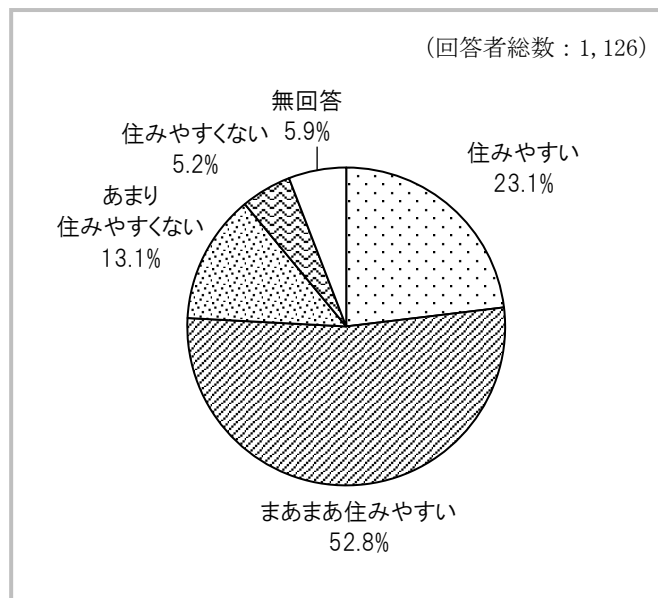


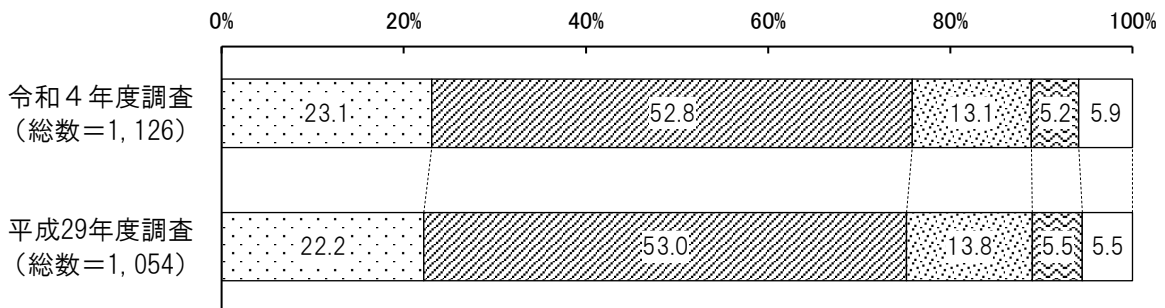
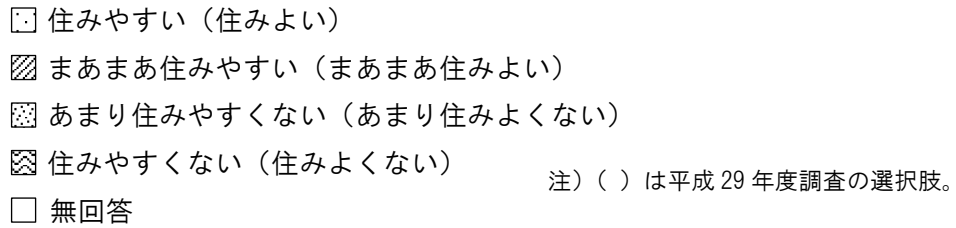
表 住みよさ意識 単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	1,126
住みやすい	260 (23.1)
まあまあ住みやすい	594 (52.8)
あまり住みやすくない	148 (13.1)
住みやすくない	58 (5.2)
無回答	66 (5.9)

【時系列比較】

住みよさ意識について前回の調査と比較してみると、「住みやすい」、「まあまあ住みやすい」ともに前回とほぼ変わらない割合となっています。

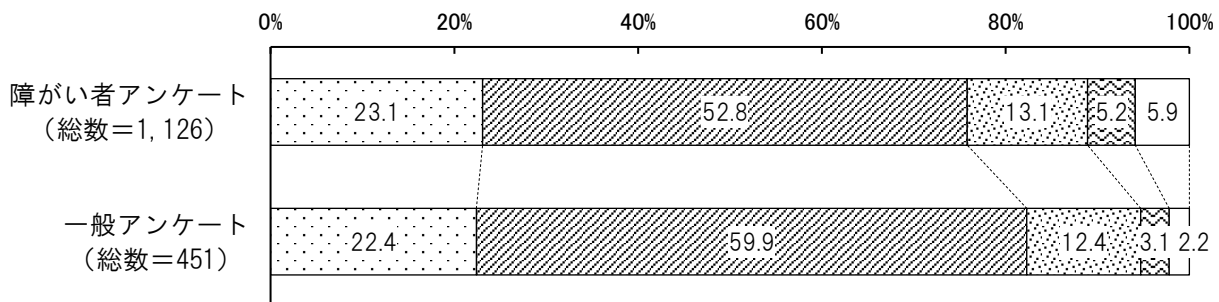
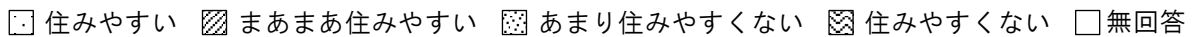
■ 住みよさ意識—時系列比較



【一般アンケートとの比較】

住みよさ意識について一般アンケートと比較してみると、「住みやすい」の割合はほぼ変わりませんが、「まあまあ住みやすい」は7.1ポイント少なく、住みよいと感じている人の割合は、一般アンケートより少なくなっています。

■ 住みよさ意識—一般アンケートとの比較



(2) 差別を感じた経験

問28 以下のような場面で、障がいや病気などがあるために差別や偏見、いやな思いをした経験がありますか。[特に強く感じるものを2つ以内で○]

「移動・外出」が17.0%

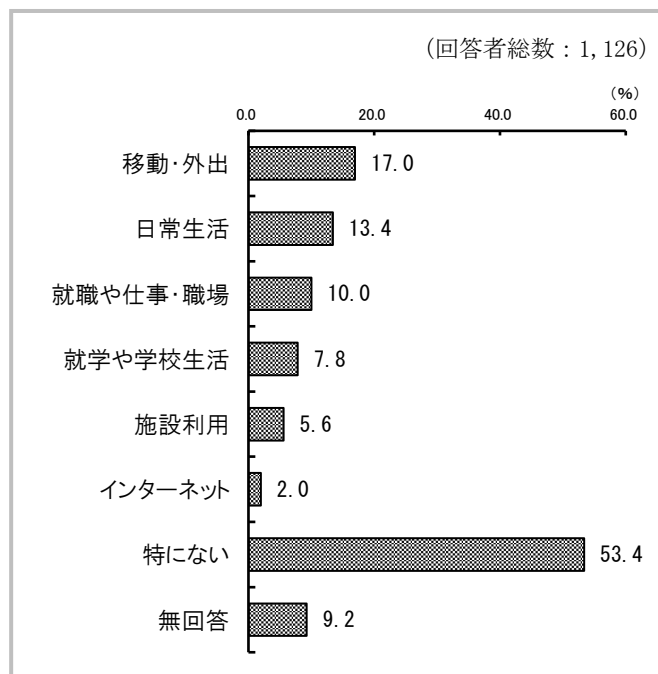
差別を感じた経験については、「移動・外出」が17.0%で最も多く、次に「日常生活」が13.4%、「就職や仕事・職場」が10.0%となっています。

また、「特にない」は53.4%となっています。

表 差別を感じた経験 単位：人（%）

回答者総数（人）	1,126
項目	回答数（構成比）
移動・外出	191 (17.0)
日常生活	151 (13.4)
就職や仕事・職場	113 (10.0)
就学や学校生活	88 (7.8)
施設利用	63 (5.6)
インターネット	22 (2.0)
特にない	601 (53.4)
無回答	104 (9.2)

図 差別を感じた経験



【手帳の種類別】

差別を感じた経験について手帳の種類別にみると、『身体障害者手帳』では「移動・外出」が15.3%、「日常生活」が10.2%となっています。『療育手帳』では、「就学や学校生活」が30.6%、「移動・外出」が26.0%となっています。『精神障害者保健福祉手帳』では、「日常生活」が25.1%、「就職や仕事・職場」が22.5%となっています。

また、「特にない」は、『身体障害者手帳』では60.9%、『療育手帳』では33.5%、『精神障害者保健福祉手帳』では38.0%となっています。

■ 差別を感じた経験－手帳の種類別

単位：人（%）

項目	全体	手帳の種類		
		身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
回答者総数	1,126	746	173	187
移動・外出	191 (17.0)	114 (15.3)	45 (26.0)	34 (18.2)
日常生活	151 (13.4)	76 (10.2)	31 (17.9)	47 (25.1)
就職や仕事・職場	113 (10.0)	50 (6.7)	21 (12.1)	42 (22.5)
就学や学校生活	88 (7.8)	17 (2.3)	53 (30.6)	18 (9.6)
施設利用	63 (5.6)	36 (4.8)	13 (7.5)	15 (8.0)
インターネット	22 (2.0)	10 (1.3)	0 (0.0)	10 (5.3)
特にない	601 (53.4)	454 (60.9)	58 (33.5)	71 (38.0)
無回答	104 (9.2)	75 (10.1)	13 (7.5)	12 (6.4)

注) 手帳の種類には、「手帳なし」及び無回答の数を除く。

(3) 障がいへの理解の深まり

問29 あなたの身の回りで、障がいへの理解は深まっていると感じますか。[1つに○]

理解が深まっていると感じている人は26.6%

障がいへの理解の深まりについては、「かなり深まっている」が3.3%、「まあまあ深まっている」が23.3%で、理解が深まっていると感じている人は26.6%となっています。

一方、「あまり深まっていない」は19.0%、「まったく深まっていない」は6.1%で、理解が深まっていないと感じている人は25.1%となっています。

また、「どちらともいえない」は39.4%で多くなっています。

図 障がいへの理解の深まり

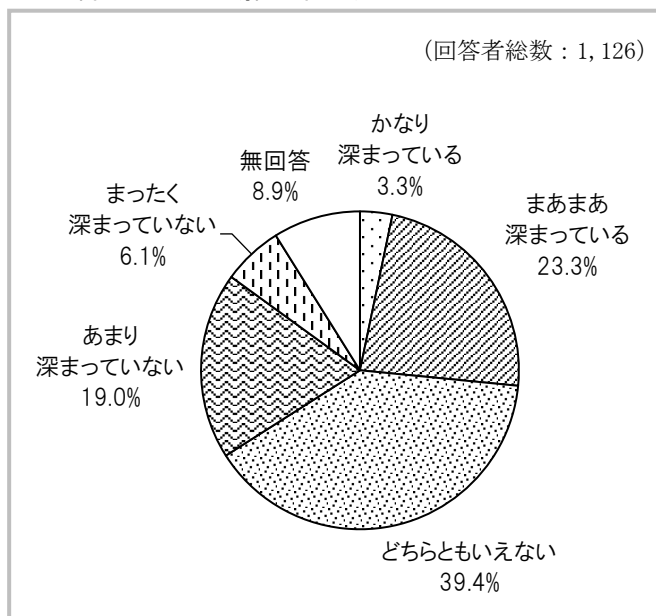


表 障がいへの理解の深まり 単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	1,126
かなり深まっている	37（3.3）
まあまあ深まっている	262（23.3）
どちらともいえない	444（39.4）
あまり深まっていない	214（19.0）
まったく深まっていない	69（6.1）
無回答	100（8.9）

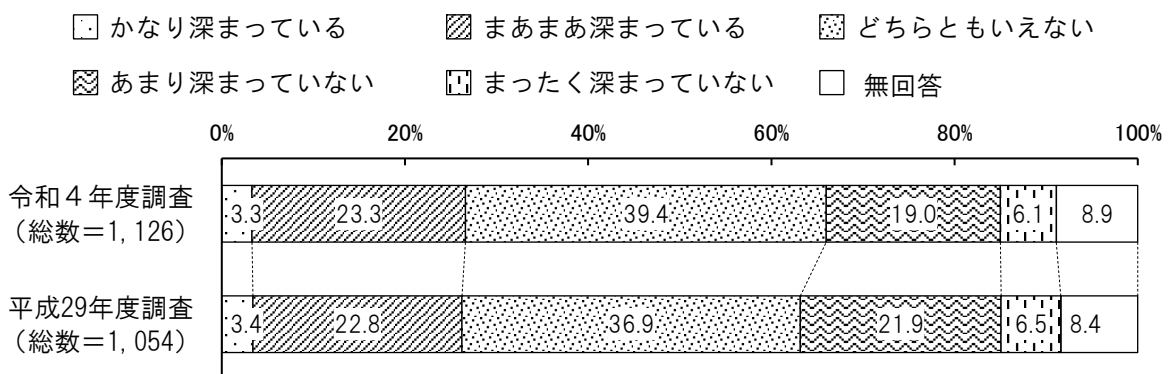
【時系列比較】

障がいへの理解の深まりについて前回の調査と比較してみると、「かなり深まっている」、「まあまあ深まっている」ともに前回とほぼ変わらない割合となっています。

一方、「あまり深まっていない」は 2.9ポイント、「まったく深まっていない」は 0.4ポイント減少し、理解が深まっていないと感じている人は 3.3ポイント減少しました。

また、「どちらともいえない」は 2.5ポイント増加しました。

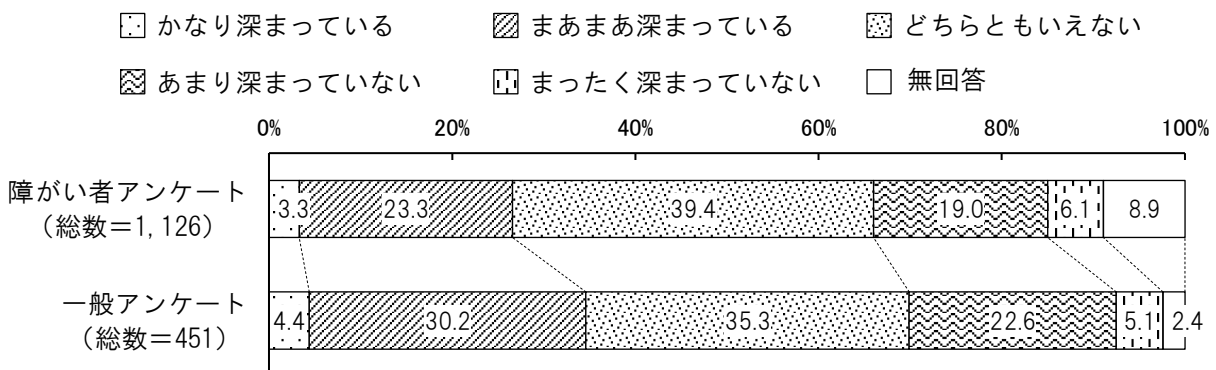
■ 障がいへの理解の深まり—時系列比較



【一般アンケートとの比較】

障がいへの理解の深まりについて一般アンケートと比較してみると、「かなり深まっている」は 1.1ポイント、「まあまあ深まっている」は 6.9ポイント少なくなっており、障がい者アンケートのほうが理解が深まっているという割合は少なくなっています。

■ 障がいへの理解の深まり—一般アンケートとの比較



(4) 制度等の周知状況

問30 次の(ア)～(ウ)について知っていますか。[1つずつ○]

(ア) 障害者差別解消法

「名前も内容も知らない」が65.4%

障害者差別解消法の周知状況については、「だいたい内容も知っている」が5.2%、「名前は聞いたことはある」が15.9%、「名前も内容も知らない」が65.4%となっています。

図 制度等の周知状況：障害者差別解消法

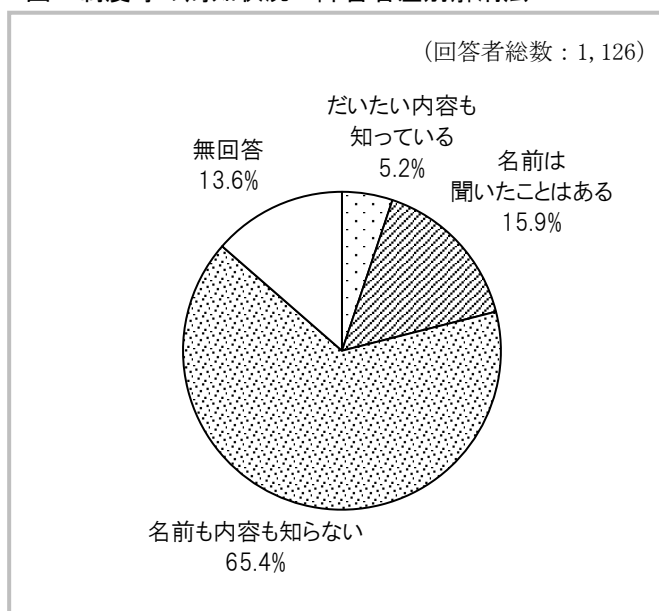


表 制度等の周知状況：障害者差別解消法

単位：人 (%)

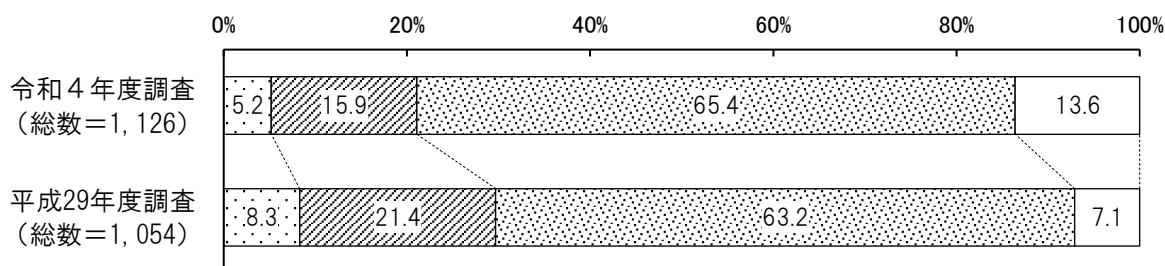
回答者総数 (人)	1,126
項目	回答数 (構成比)
だいたい内容も知っている	58 (5.2)
名前は聞いたことはある	179 (15.9)
名前も内容も知らない	736 (65.4)
無回答	153 (13.6)

【時系列比較】

障害者差別解消法の周知状況について前回の調査と比較してみると、「だいたい内容も知っている」が3.1ポイント、「名前は聞いたことはある」が5.5ポイント減少しています。一方、「名前も内容も知らない」は2.2ポイント増加しています。

■ 制度等の周知状況：障害者差別解消法一時系列比較

□ だいたい内容も知っている ■ 名前は聞いたことはある ▨ 名前も内容も知らない □ 無回答



(イ) 成年後見制度

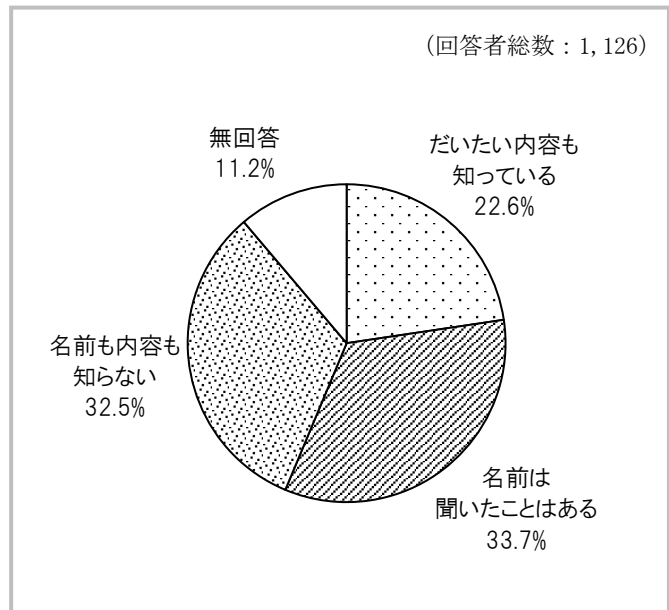
「名前は聞いたことはある」が33.7%

成年後見制度の周知状況については、「だいたい内容も知っている」が22.6%、「名前は聞いたことはある」が33.7%、「名前も内容も知らない」が32.5%となっています。

表 制度等の周知状況：成年後見制度

単位：人（%）	
回答者総数（人）	1,126
項目	回答数（構成比）
だいたい内容も知っている	255 (22.6)
名前は聞いたことはある	379 (33.7)
名前も内容も知らない	366 (32.5)
無回答	126 (11.2)

図 制度等の周知状況：成年後見制度

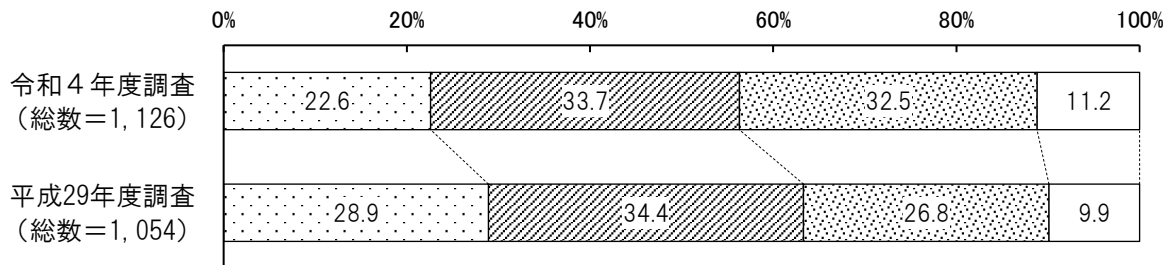


【時系列比較】

成年後見制度の周知状況について前回の調査と比較してみると、「だいたい内容も知っている」が6.3ポイント、「名前は聞いたことはある」が0.7ポイント減少しています。一方、「名前も内容も知らない」は5.7ポイント増加しています。

■ 制度等の周知状況：成年後見制度—時系列比較

□ だいたい内容も知っている ▨ 名前は聞いたことはある ▩ 名前も内容も知らない □ 無回答



(ウ) 成年後見サポートセンター

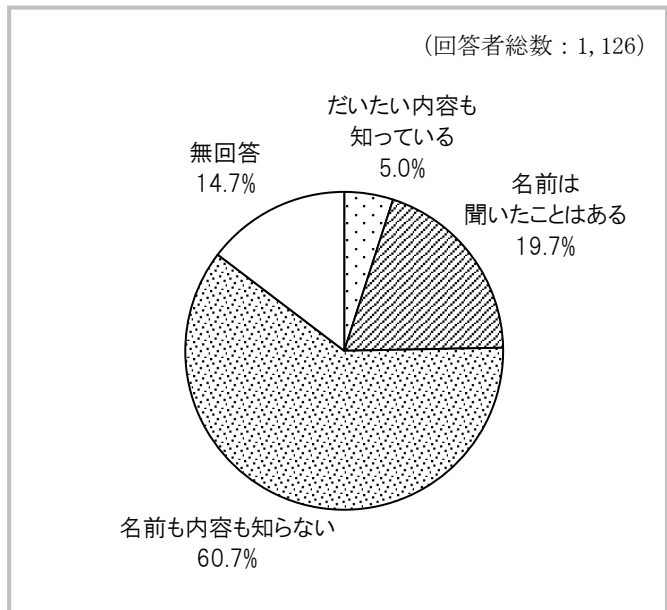
「名前も内容も知らない」が60.7%

成年後見サポートセンターの周知状況については、「だいたい内容も知っている」が5.0%、「名前は聞いたことはある」が19.7%、「名前も内容も知らない」が60.7%となっています。

表 制度等の周知状況：成年後見サポートセンター
単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	1,126
だいたい内容も知っている	56（5.0）
名前は聞いたことはある	222（19.7）
名前も内容も知らない	683（60.7）
無回答	165（14.7）

図 制度等の周知状況：成年後見サポートセンター



(5) コロナ禍の影響

問31 令和2年以降の新型コロナウイルス感染症の流行に関連して、困ったことはありますか。
[あてはまるものすべてに○]

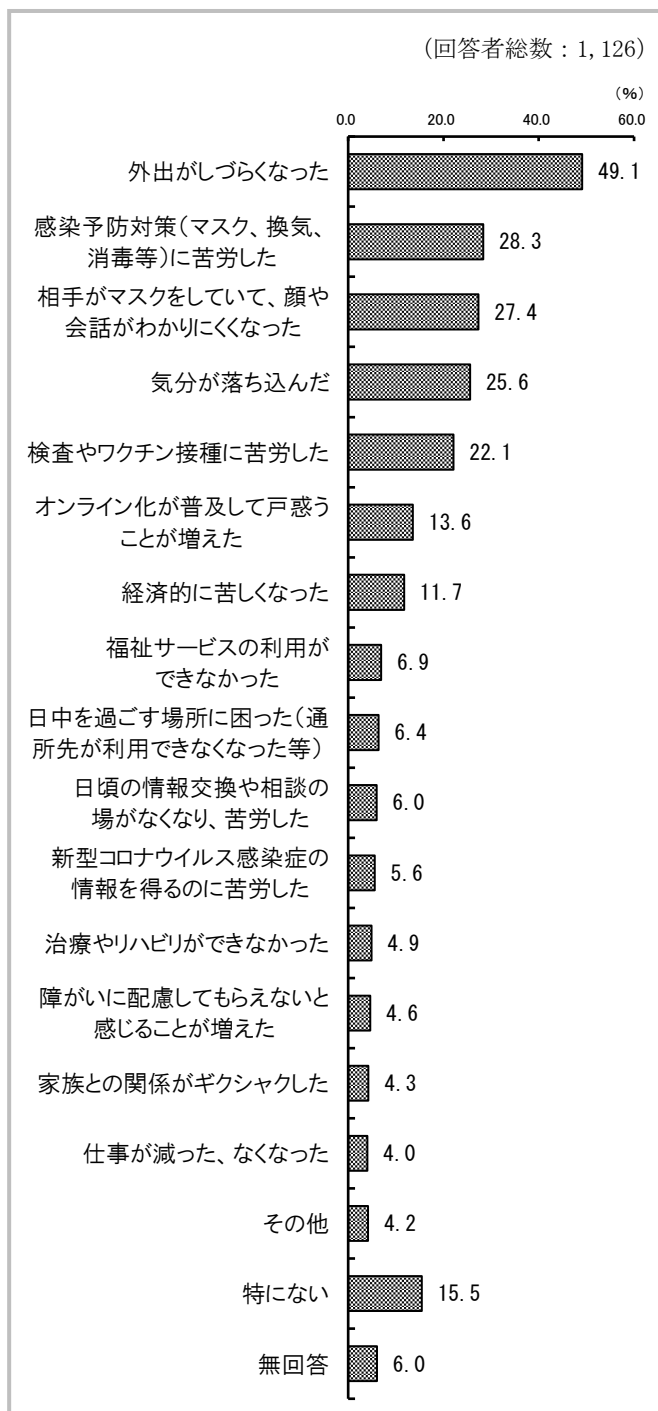
「外出がしづらくなった」が49.1%

コロナ禍の影響については、「外出がしづらくなった」が49.1%で最も多く、次に「感染予防対策（マスク、換気、消毒等）に苦労した」が28.3%、「相手がマスクをしていて、顔や会話がわかりにくくなった」が27.4%となっています。

表 コロナ禍の影響 単位：人（%）

回答者総数（人）	1,126
項目	回答数（構成比）
外出がしづらくなった	553 (49.1)
感染予防対策（マスク、換気、消毒等）に苦労した	319 (28.3)
相手がマスクをしていて、顔や会話がわかりにくくなった	308 (27.4)
気分が落ち込んだ	288 (25.6)
検査やワクチン接種に苦労した	249 (22.1)
オンライン化が普及して戸惑うことが増えた	153 (13.6)
経済的に苦しくなった	132 (11.7)
福祉サービスの利用ができなかった	78 (6.9)
日中を過ごす場所に困った（通所先が利用できなくなった等）	72 (6.4)
日頃の情報交換や相談の場がなくなり、苦労した	67 (6.0)
新型コロナウイルス感染症の情報を得るのに苦労した	63 (5.6)
治療やリハビリができなかった	55 (4.9)
障がいに配慮してもらえないと感じることが増えた	52 (4.6)
家族との関係がギクシャクした	48 (4.3)
仕事が減った、なくなった	45 (4.0)
その他	47 (4.2)
特にない	174 (15.5)
無回答	68 (6.0)

図 コロナ禍の影響



(6) 住みやすいまちづくりに必要なこと

問32 障がいがある人にとって住みやすいまちをつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。[4つ以内で○]

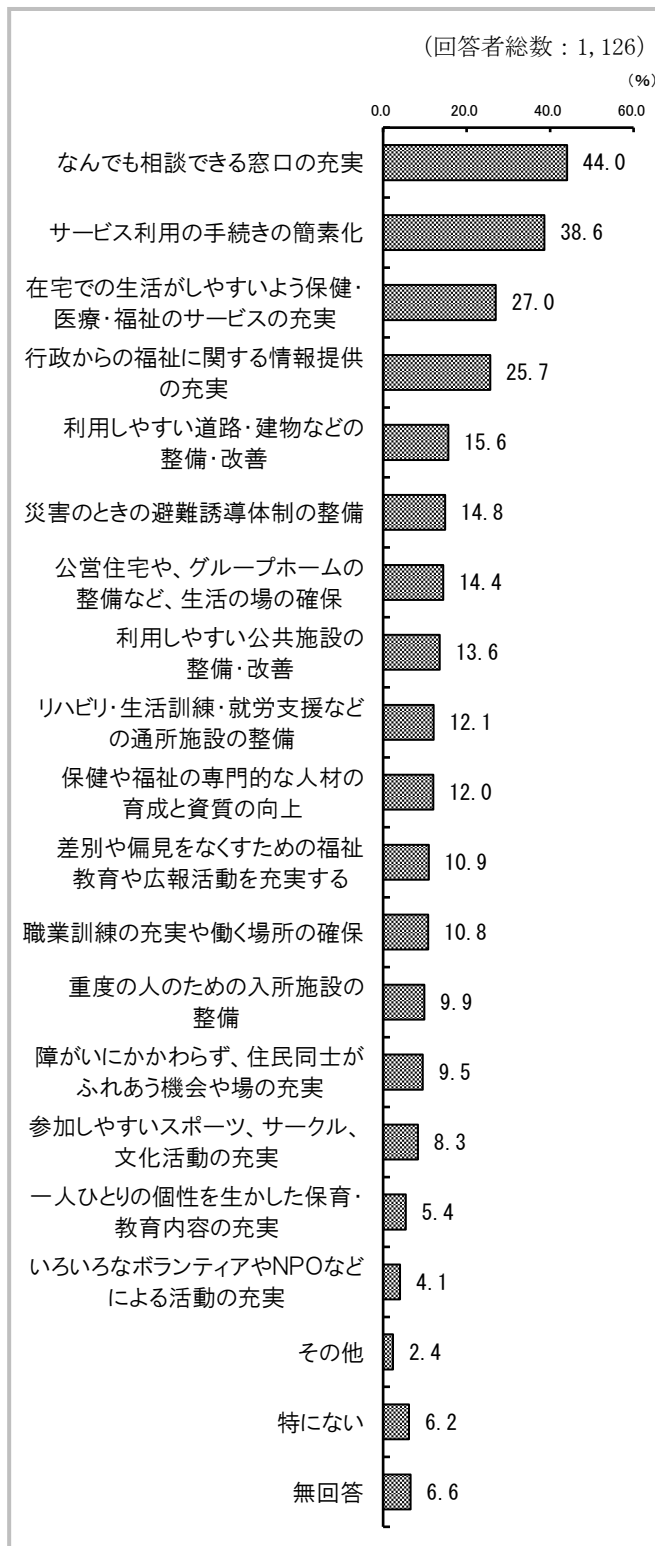
「なんでも相談できる窓口の充実」が44.0%

障がいがある人にとって住みやすいまちづくりに必要なことについては、「なんでも相談できる窓口の充実」が44.0%で最も多く、次に「サービス利用の手続きの簡素化」が38.6%、「在宅での生活がしやすいよう保健・医療・福祉のサービスの充実」が27.0%となっています。

表 住みやすいまちづくりに必要なこと

単位：人（%）	
回答者総数（人）	1,126
項目	回答数（構成比）
なんでも相談できる窓口の充実	496 (44.0)
サービス利用の手続きの簡素化	435 (38.6)
在宅での生活がしやすいよう保健・医療・福祉のサービスの充実	304 (27.0)
行政からの福祉に関する情報提供の充実	289 (25.7)
利用しやすい道路・建物などの整備・改善	176 (15.6)
災害のときの避難誘導體制の整備	167 (14.8)
障がいに配慮した公営住宅や、グループホームの整備など、生活の場の確保	162 (14.4)
利用しやすい公共施設の整備・改善	153 (13.6)
リハビリ・生活訓練・就労支援などの通所施設の整備	136 (12.1)
保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上	135 (12.0)
差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動を充実する	123 (10.9)
職業訓練の充実や働く場所の確保	122 (10.8)
重度の人のための入所施設の整備	111 (9.9)
障がいの有無にかかわらず、住民同士がふれあう機会や場の充実	107 (9.5)
参加しやすいスポーツ、サークル、文化活動の充実	94 (8.3)
一人ひとりの個性を生かした保育・教育内容の充実	61 (5.4)
いろいろなボランティアやNPOなどによる活動の充実	46 (4.1)
その他	27 (2.4)
特にない	70 (6.2)
無回答	74 (6.6)

図 住みやすいまちづくりに必要なこと



8 障がい者アンケートのまとめ

①回答者の属性等について

調査回答者の性別については、男性が56.1%、女性が43.0%となっています。年齢構成については、後期高齢者の「75歳以上」が37.0%で多く、次に前期高齢者の「65～74歳」が18.2%となっており、これらを合わせると65歳以上の高齢者が55.2%を占めています。本市の高齢化率（総人口に占める65歳以上の割合）は、調査時点の令和4年12月1日現在で28.2%です。手帳所持者の年齢構成からみると、障がい者も高齢化が進んでいるとともに、高齢になって手帳を取得する方も多いことがうかがえます。

所持している手帳の種類については、「身体障害者手帳」が66.3%で多くなっています。身体障害の等級については、「1級」が36.5%で多く、「2級」が13.7%、「3級」が17.7%、「4級」が21.4%となっています。主な障がいについては、「肢体不自由」が40.9%で最も多く、次に「内部障害」が40.5%となっています。

「療育手帳」を持っている人は15.4%で、程度については、「㊤（最重度）」が23.1%、「A（重度）」が19.1%、「B（中度）」が23.1%、「C（軽度）」が32.4%となっており、「C（軽度）」が多くなっています。

「精神障害者保健福祉手帳」を持っている人は16.6%で、等級については、「1級」が12.8%、「2級」が51.9%、「3級」が33.7%となっており、「2級」が多くなっています。

手帳の種類別に年齢構成をみると、『身体障害者手帳』では、「75歳以上」が51.5%と多くなっています。『療育手帳』では、「19～29歳」が27.2%で多く、次に「7～18歳」が26.6%で、これらの年齢層で約半数を占めています。『精神障害者保健福祉手帳』では、「50～64歳」が31.6%、「40～49歳」が18.7%となっています。

身体等のその他の状況については、「介護保険の要支援や要介護の認定を受けている」が28.4%、「発達障害（広汎性発達障害、アスペルガー障害など）がある」が11.5%、「難病（特定疾患）認定を受けている」が7.3%、「高次脳機能障害がある」が2.4%となっています。

回答者の属性を前回の調査と比較すると、『身体障害者手帳』の「内部障害」は4.7ポイント増加、『療育手帳』の「C（軽度）」は6.8ポイント増加しています。また、『精神障害者保健福祉手帳』の「2級」は9.6ポイント減少しているものの、「3級」は10ポイント増加しており、回答者の属性に変化がみられます。

②生活状況について

現在の暮らしについては、「家族と一緒に」が57.8%で最も多く、次に「夫や妻、パートナーと一緒に」が21.6%となっています。今後の暮らしの希望についても、「家族と一緒に」が44.1%で最も多いものの、現在の暮らしの割合より少なくなっています。一方、「ひとり暮らし」、「介護保険施設」、「障害者施設」、「グループホーム」といった項目では、現在の割合より今後の希望の割合の方が少し多くなっています。

今後の暮らしの希望を手帳の種類別にみると、手帳の種類にかかわらず、「家族と一緒に」が多くなっています。また、『療育手帳』では「障害者施設」(15.6%)や「グループホーム」(12.7%)が、『精神障害者保健福祉手帳』では「ひとり暮らし」(25.1%)が、現在の暮らしの割合よりも多くなっています。

生活費については、「自分の年金や手当」が47.9%で最も多く、次に「家族の就労などによる収入」が19.3%、「家族の年金や手当」が14.4%となっています。

経済状況については、「ふつう」が51.2%で約半数を占めています。また、「大変苦しい」は12.8%、「やや苦しい」は30.5%で、これらを合わせると43.3%となり、経済的に苦しいと感じている人は約4割となっています。

一人ひとりが希望する暮らしを安心して送ることができるよう、住まいの確保や生活を支えるサービスの充実が重要となっています。

③教育や就労、社会参加について

平日の昼間の過ごし方については、「一般の企業などで働いている（自営も含む）」が15.5%、「治療やリハビリを受けている」11.9%、「事業所（作業所）やデイケアに通っている」が11.1%となっています。また、「幼稚園や保育園、こども園、障害児通所施設、学校などに通っている」は8.2%となっています。

手帳の種類別にみると、『身体障害者手帳』では、「特に何もしていない」が21.8%、「一般の企業などで働いている（自営も含む）」が14.7%となっています。

『療育手帳』では、「幼稚園や保育園、こども園、障害児通所施設、学校などに通っている」が37.6%、「事業所（作業所）やデイケアに通っている」が23.1%となっています。

『精神障害者保健福祉手帳』では、「一般の企業などで働いている（自営も含む）」が20.9%、「事業所（作業所）やデイケアに通っている」が14.4%となっています。

児童・生徒・学生ではない、または働いていない方の今後の過ごし方の希望については、「今の生活を続けたい」が65.9%となっています。また、「生活介護事業所やデイサービス、地域活動支援センターに通いたい」は8.5%、「一般企業などで働きたい」は5.1%となっています。

児童・生徒・学生の18歳以下の方が、園や学校のことなどで特に困ることについては、『0～6歳』では「付き添いがないと通えない」が45.0%が多くなっています。また、『7～18歳』では「進学や進路などについての情報が足りない」が44.4%で多く、「付き添いがないと通えない」が23.8%、「放課後や長期休暇などの過ごし方が難しい」が20.6%となっています。通園・通学や、放課後、休日などの過ごし方といった日常のこととともに、進学や進路といった将来に関することについてもあげられています。

一般企業で働いている、または就労の訓練などを受けながら働いている方の、1か月の給料については、「20万円以上」が29.7%で最も多く、次に「10万円～15万円未満」が19.3%、「5万円～10万円未満」が17.7%となっています。手帳の種類別にみると、『身体障害者手帳』では、「20万円以上」が42.1%が多くなっています。『療育手帳』では、「10万円～15万円未満」が31.4%、「5万円～10万円未満」と「1万円未満」がそれぞれ22.9%となっ

ています。『精神障害者保健福祉手帳』では、「5万円～10万円未満」が27.3%、「10万円～15万円未満」が25.0%、「15万円～20万円未満」が22.7%となっています。

働きやすい環境のために重要なことについては、「障がいに対する職場の理解」が60.4%で最も多く、次に「障がい者の積極的な雇用」が32.3%、「障がいに応じた職種の増加」が29.7%となっています。働いて収入を得ることは、本人の生きがいや生活の糧を得る上で大切なものです。働きやすいよう、障がいについて職場の理解を深めることが重要となっています。

④障害福祉サービスなどについて

障害福祉サービス・障害児通所支援の利用状況については、「利用している」が24.5%となっています。手帳の種類別にみると、「利用している」という割合は、『身体障害者手帳』では17.3%、『療育手帳』では63.6%、『精神障害者保健福祉手帳』では19.8%となっています。

利用しているサービスについては、「日中、自宅以外の場所で、生活の訓練や就労を行う、日中系のサービス」が33.0%、「自宅で、生活の介助や移動支援を受ける、訪問系のサービス」が29.3%、「障がい児の通所支援のサービス」が21.4%となっています。

利用しているサービスの満足度については、「満足」が31.9%、「ほぼ満足」が51.4%で、約8割が満足と感じています。前回の調査の満足度と比較してみると、「満足」と「ほぼ満足」の合計は6.6ポイント増加しました。一方、「やや不満」(7.2%)、「不満」(1.8%)を合わせると不満と感じている人は9.0%となっており、その理由については、日数や時間など希望に沿った利用がしにくいことや、送迎や交通手段の問題、サービスの内容に関することなどがあげられています。

計画相談支援・障害児相談支援の利用状況については、「利用している」が49.6%、「利用していない(セルフプラン)」が24.3%となっています。

計画相談支援・障害児相談支援を利用していない理由については、「特に理由はない」が29.9%で最も多く、次に「必要ない」が26.9%、「計画相談支援・障害児相談支援を知らなかった」が20.9%となっています。サービス等の利用を希望する方が計画相談支援・障害児相談支援の利用につながるよう、相談支援の一層の周知が必要となっています。

充実してほしいサービスについては、「情報提供や相談・調整」が29.7%で最も多く、次に「緊急時に、一時的に宿泊できる場所」が21.4%、「将来の生活のために、体験の機会や場を提供するもの」が17.8%となっています。充実してほしいサービスの内容を自由記入でたずねたところ、相談体制、ショートステイや緊急一時保護、就労支援、外出支援、グループホーム、余暇活動など、様々な記載がありました。

情報提供や相談支援体制、緊急時の対応の充実とともに、ライフステージや将来を見据えたサービス提供など、多様な支援が求められています。

⑤相談について

身近な相談相手については、「いる」が80.4%、「いない」が11.7%となっています。手帳の種類別にみると、「いる」という割合は、『身体障害者手帳』では80.3%、『療育手帳』では82.1%、『精神障害者保健福祉手帳』では77.5%となっています。

悩みや困りごとの相談先については、「家族・親せき」が78.7%で最も多く、次に「友人・知人」が23.0%、「医師・看護師・ソーシャルワーカー」が18.7%となっています。

令和4年7月に開設した「福祉の総合相談窓口」の周知状況については、「だいたい内容も知っている」が6.1%、「名前は聞いたことはある」が21.8%、「名前も内容も知らない」が67.1%となっています。「福祉の総合相談窓口」は開設して間もないことから、周知状況は高くありません。困りごとを受け止め、相談できる窓口として、今後も広く周知を進めていくことが重要です。

障がい者の相談支援先で知っているものを選択してもらったところ、埼玉北障害者生活支援センター「たいよう」が7.0%、埼玉北障がい者生活支援センター「ふれんだむ」が3.9%、埼玉北地区基幹相談支援センター「トロンコ」が3.0%となっています。一方、一つも選択しなかった割合は84.5%となっています。

相談体制の評価については、「わからない」が59.8%で多く、「十分」は4.5%、「ほぼ十分」は9.3%で、十分であると評価している人は13.8%となっています。

障がい者福祉に関する相談は、障がい者の相談支援先をはじめとして整備されており、さらに「福祉の総合相談窓口」などを含め、さまざまな福祉の相談支援体制が整備されてきています。しかし、障がい者の相談支援先の周知状況が低い結果であるなど、相談体制の周知が課題となっています。まずは相談事業に関する周知を進め、利用につなげることが重要です。

⑥防災について

災害時に不安に思うことについては、「避難所での生活」が68.7%で最も多く、次に「避難所への移動」が43.8%、「避難情報の入手」が34.9%となっています。手帳の種類別にみると、「避難所での生活」は、『身体障害者手帳』では64.9%、『療育手帳』では79.2%、『精神障害者保健福祉手帳』では72.2%となっています。また、『身体障害者手帳』では「避難所への移動」が47.6%となっており、『療育手帳』や『精神障害者保健福祉手帳』の割合より約10ポイント多くなっています。障がいの内容によって不安の感じ方も様々です。日ごろから、地域における障がいの理解を深めるとともに、災害時の避難行動について、地域の支え合いを促進していくことが求められます。

災害に備えていることについては、「飲み水や食料の備蓄」が51.2%で最も多く、次に「緊急連絡先など家族や友人との連絡手段」が21.6%、「服薬している薬やストーマ装具などの非常持ち出し品の準備」が21.0%となっています。備蓄や持ち出し品、連絡手段など、障がいに応じた備えについて意識を高め、対策を促すことが重要です。

⑦住みやすいまちづくりについて

住みよさ意識については、「住みやすい」が23.1%、「まあまあ住みやすい」が52.8%で、これらを合わせると、住みやすいと感じている人が75.9%となっています。前回の調査と比較してみると、住みやすいと感じている人の割合は、前回とほぼ変わらない割合となっています。また、一般アンケートと比較してみると、「住みやすい」の割合はほぼ変わりませんが、「まあまあ住みやすい」は7.1ポイント少なく、住みよいと感じている人の割合は、一般アンケートより少なくなっています。

さらに、住みやすくないところについて自由記入でたずねたところ、交通や移動手段に関すること、買い物や商業施設に関することなどの記載がありました。

障がいや病気などがあるために差別を感じた経験については、「移動・外出」が17.0%で最も多く、次に「日常生活」が13.4%、「就職や仕事・職場」が10.0%となっています。手帳の種類別にみると、『身体障害者手帳』では「移動・外出」が15.3%、「日常生活」が10.2%となっています。『療育手帳』では、「就学や学校生活」が30.6%、「移動・外出」が26.0%となっています。『精神障害者保健福祉手帳』では、「日常生活」が25.1%、「就職や仕事・職場」が22.5%となっています。また、「特にない」は、『身体障害者手帳』では60.9%で多いものの、『療育手帳』では33.5%、『精神障害者保健福祉手帳』では38.0%となっています。

全体では「移動・外出」が多くなっていますが、『療育手帳』や『精神障害者保健福祉手帳』では、生活の多くを過ごす学校や職場において差別や偏見を感じるという割合も多くなっています。障がいの理解を一層深め、生活の様々な場面で差別や偏見がなくなるよう、今後も引き続き理解促進に取り組んでいくことが重要となっています。

障がいへの理解の深まりについては、「かなり深まっている」が3.3%、「まあまあ深まっている」が23.3%で、理解が深まっていると感じている人は26.6%となっています。一方、「あまり深まっていない」は19.0%、「まったく深まっていない」は6.1%で、理解が深まっていないと感じている人は25.1%となっています。また、「どちらともいえない」は39.4%で多くなっています。前回の調査と比較してみると、理解が深まっていると感じている人の割合は前回とほぼ変わらない割合となっています。一般アンケートと比較してみると、「かなり深まっている」は1.1ポイント、「まあまあ深まっている」は6.9ポイント少なくなっており、障がい者アンケートのほうが理解が深まっているという割合が少なくなっています。

障害者差別解消法の周知状況については、「だいたい内容も知っている」が5.2%、「名前は聞いたことはある」が15.9%、「名前も内容も知らない」が65.4%となっています。前回の調査と比較してみると、「だいたい内容も知っている」が3.1ポイント、「名前は聞いたことはある」が5.5ポイント減少しています。

成年後見制度の周知状況については、「だいたい内容も知っている」が22.6%、「名前は聞いたことはある」が33.7%、「名前も内容も知らない」が32.5%となっています。前回

の調査と比較してみると、「だいたい内容も知っている」が 6.3ポイント、「名前は聞いたことはある」が 0.7ポイント減少しています。継続的な周知が必要となっています。

成年後見サポートセンターの周知状況については、「だいたい内容も知っている」が 5.0%、「名前は聞いたことはある」が19.7%、「名前も内容も知らない」が60.7%となっています。

コロナ禍の影響については、「外出がしづらくなった」が49.1%で最も多く、次に「感染予防対策（マスク、換気、消毒等）に苦勞した」が28.3%、「相手がマスクをしていて、顔や会話がわかりにくくなった」が27.4%となっています。

障がいがある人にとって住みやすいまちづくりに必要なことについては、「なんでも相談できる窓口の充実」が44.0%で最も多く、次に「サービス利用の手続きの簡素化」が38.6%、「在宅での生活がしやすいよう保健・医療・福祉のサービスの充実」が27.0%となっています。障がいの種類や内容によって、生活実態や必要とされる支援は様々であることが推察されますが、まずは不安や困りごとを相談できる相談支援の利用を進めるとともに、適切なサービス提供につなげていくことが重要となっています。

第2章 一般アンケート

1 回答者の属性

(1) 性別

問1 性別をお答えください。[1つに○]

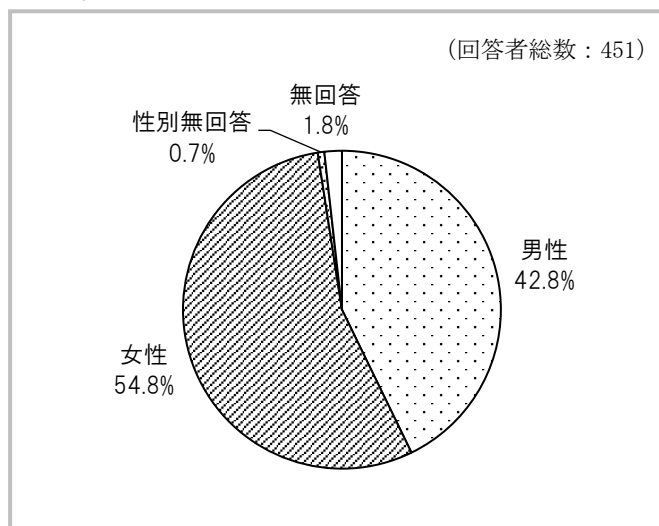
「男性」が42.8%、「女性」が54.8%

性別については、「男性」が42.8%、「女性」が54.8%となっています。

表 性別 単位：人 (%)

回答者総数 (人)	451
項目	回答数 (構成比)
男性	193 (42.8)
女性	247 (54.8)
性別無回答	3 (0.7)
無回答	8 (1.8)

図 性別



(2) 年齢

問2 年齢をお答えください。[1つに○]

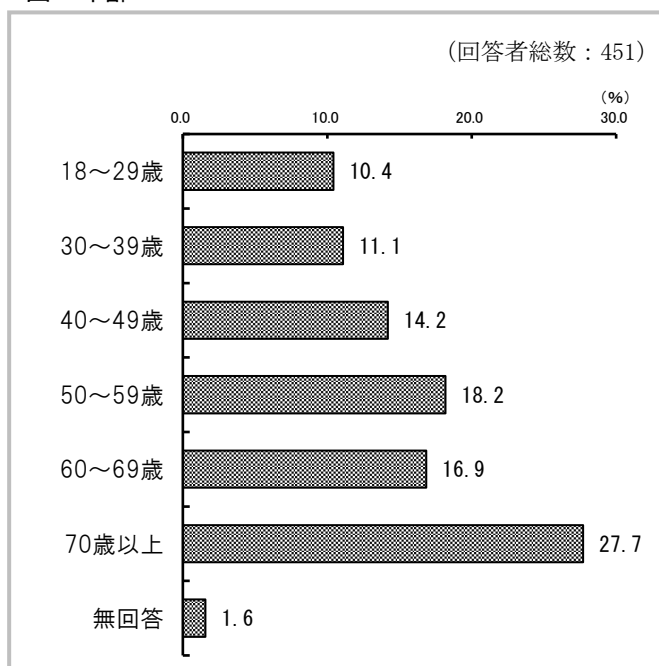
「70歳以上」が27.7%

年齢構成については、「70歳以上」が27.7%で最も多く、次に「50～59歳」が18.2%、「60～69歳」が16.9%となっています。

表 年齢 単位：人 (%)

回答者総数 (人)	451
項目	回答数 (構成比)
18～29歳	47 (10.4)
30～39歳	50 (11.1)
40～49歳	64 (14.2)
50～59歳	82 (18.2)
60～69歳	76 (16.9)
70歳以上	125 (27.7)
無回答	7 (1.6)

図 年齢



2 障がいのある人との関わりについて

(1) 日常生活での障がいのある人との関わり

問3 現在または今まで、障がいなどのある人と日常生活の中で関わる機会がありましたか。
[それぞれあてはまるものすべてに○]

(ア) 身体障がい者

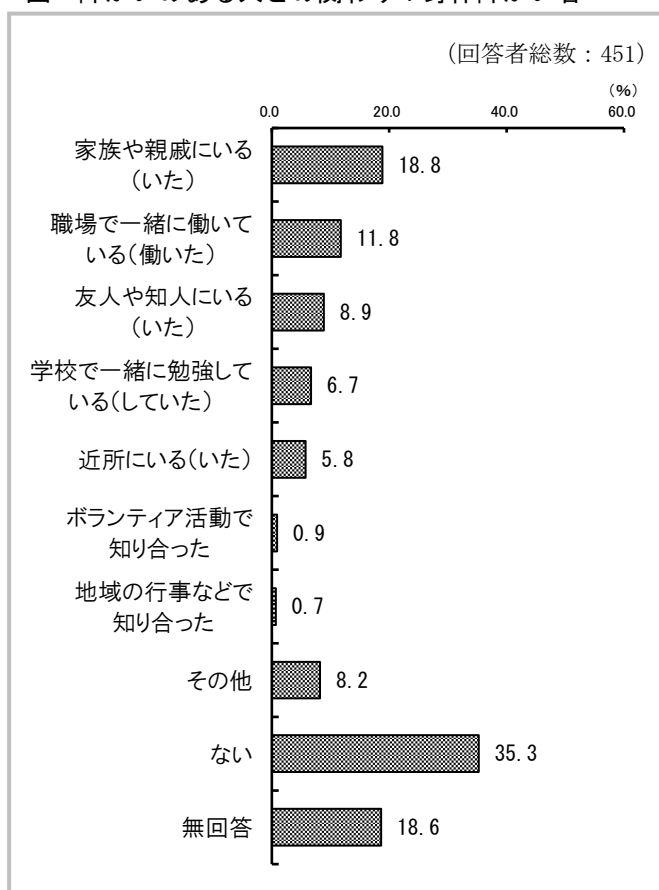
「家族や親戚にいる (いた)」が18.8%

日常生活で身体障がい者と関わる機会があったかについては、「家族や親戚にいる (いた)」が18.8%、「職場で一緒に働いている (働いた)」が11.8%、「友人や知人にいる (いた)」が 8.9%となっています。一方、「ない」は35.3%となっています。

表 障がいのある人との関わり：身体障がい者
単位：人 (%)

回答者総数 (人)	451
項目	回答数 (構成比)
家族や親戚にいる (いた)	85 (18.8)
職場で一緒に働いている (働いた)	53 (11.8)
友人や知人にいる (いた)	40 (8.9)
学校で一緒に勉強している (していた)	30 (6.7)
近所にいる (いた)	26 (5.8)
ボランティア活動で知り合った	4 (0.9)
地域の行事などで知り合った	3 (0.7)
その他	37 (8.2)
ない	159 (35.3)
無回答	84 (18.6)

図 障がいのある人との関わり：身体障がい者



(イ) 知的障がい者

「学校で一緒に勉強」が10.6%

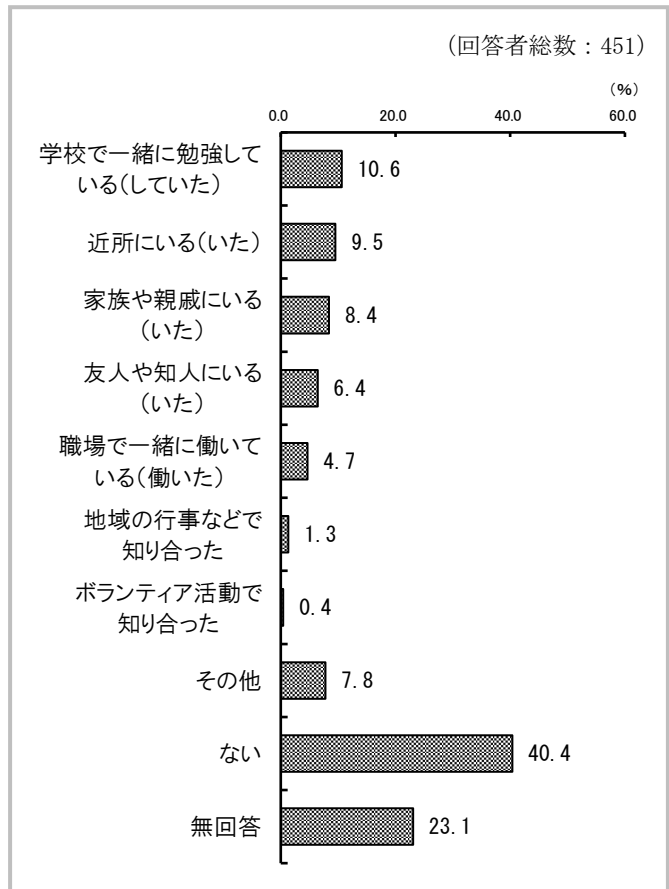
日常生活で知的障がい者と関わる機会があったかについては、「学校で一緒に勉強している(していた)」が10.6%、「近所にいる(いた)」が9.5%、「家族や親戚にいる(いた)」が8.4%となっています。

一方、「ない」は40.4%となっています。

表 障がいのある人との関わり：知的障がい者
単位：人（%）

回答者総数（人）	451
項目	回答数（構成比）
学校で一緒に勉強している(していた)	48 (10.6)
近所にいる(いた)	43 (9.5)
家族や親戚にいる(いた)	38 (8.4)
友人や知人にいる(いた)	29 (6.4)
職場で一緒に働いている(働いた)	21 (4.7)
地域の行事などで知り合った	6 (1.3)
ボランティア活動で知り合った	2 (0.4)
その他	35 (7.8)
ない	182 (40.4)
無回答	104 (23.1)

図 障がいのある人との関わり：知的障がい者



(ウ) 精神障がい者

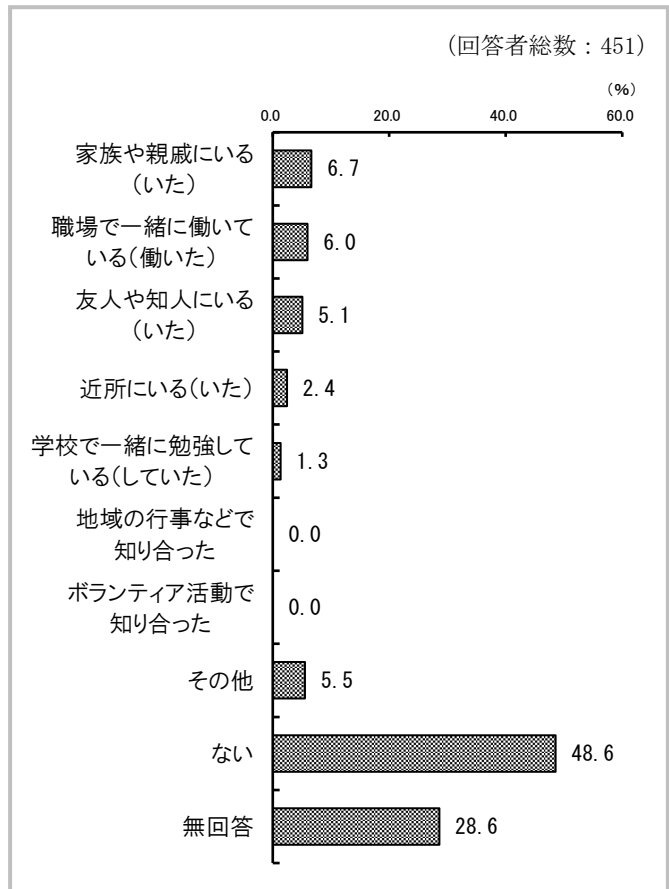
「家族や親戚にいる (いた)」が 6.7%

日常生活で精神障がい者に関わる機会があったかについては、「家族や親戚にいる (いた)」が 6.7%、「職場で一緒に働いている (働いた)」が 6.0%、「友人や知人にいる (いた)」が 5.1%となっています。一方、「ない」は48.6%となっています。

表 障がいのある人との関わり：精神障がい者
単位：人 (%)

回答者総数 (人)	451
項目	回答数 (構成比)
家族や親戚にいる (いた)	30 (6.7)
職場で一緒に働いている (働いた)	27 (6.0)
友人や知人にいる (いた)	23 (5.1)
近所にいる (いた)	11 (2.4)
学校で一緒に勉強している (していた)	6 (1.3)
地域の行事などで知り合った	0 (0.0)
ボランティア活動で知り合った	0 (0.0)
その他	25 (5.5)
ない	219 (48.6)
無回答	129 (28.6)

図 障がいのある人との関わり：精神障がい者



(エ) 発達障がい者

「家族や親戚にいる (いた)」が 9.5%

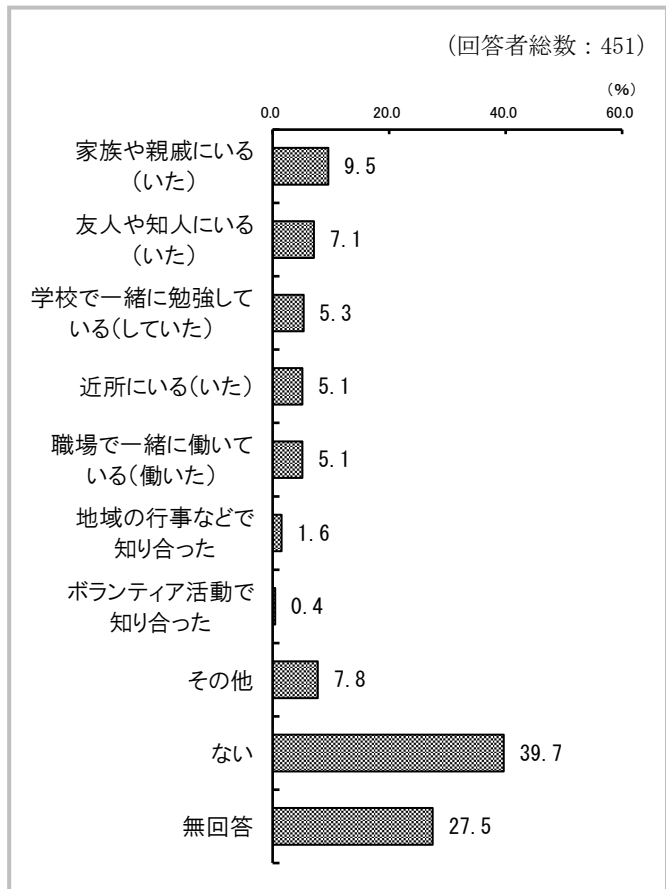
日常生活で発達障がい者と関わる機会があったかについては、「家族や親戚にいる (いた)」が 9.5%、「友人や知人にいる (いた)」が 7.1%、「学校で一緒に勉強している (していた)」が 5.3%となっています。

一方、「ない」は39.7%となっています。

表 障がいのある人との関わり：発達障がい者
単位：人 (%)

回答者総数 (人)	451
項目	回答数 (構成比)
家族や親戚にいる (いた)	43 (9.5)
友人や知人にいる (いた)	32 (7.1)
学校で一緒に勉強している (していた)	24 (5.3)
近所にいる (いた)	23 (5.1)
職場で一緒に働いている (働いた)	23 (5.1)
地域の行事などで知り合った	7 (1.6)
ボランティア活動で知り合った	2 (0.4)
その他	35 (7.8)
ない	179 (39.7)
無回答	124 (27.5)

図 障がいのある人との関わり：発達障がい者



(オ) 難病患者

「家族や親戚にいる (いた)」が 8.9%

日常生活で難病患者と関わる機会があったかについては、「家族や親戚にいる (いた)」が 8.9%、「友人や知人にいる (いた)」が 5.3%、「職場で一緒に働いている (働いた)」が 1.8%となっています。

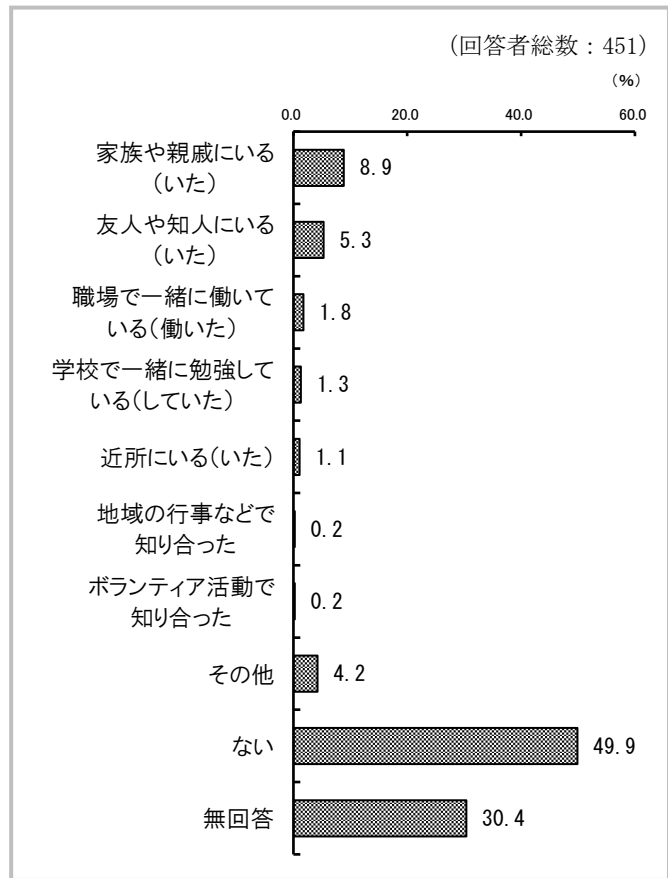
一方、「ない」は49.9%となっています。

表 障がいのある人との関わり：難病患者

単位：人 (%)

回答者総数 (人)	451
項目	回答数 (構成比)
家族や親戚にいる (いた)	40 (8.9)
友人や知人にいる (いた)	24 (5.3)
職場で一緒に働いている (働いた)	8 (1.8)
学校で一緒に勉強している (していた)	6 (1.3)
近所にいる (いた)	5 (1.1)
地域の行事などで知り合った	1 (0.2)
ボランティア活動で知り合った	1 (0.2)
その他	19 (4.2)
ない	225 (49.9)
無回答	137 (30.4)

図 障がいのある人との関わり：難病患者



3 障がいなどのある人への理解について

(1) 障がいへの理解の深まり

問4 あなたの身の回りで、障がいへの理解は深まっていると感じますか。[1つに○]

理解が深まっていると感じている人は34.6%

障がいへの理解の深まりについては、「かなり深まっている」が4.4%、「まあまあ深まっている」が30.2%で、これらを合わせると、理解が深まっていると感じている人は34.6%となっています。

一方、「あまり深まっていない」は22.6%、「まったく深まっていない」は5.1%で、理解が深まっていないと感じている人は27.7%となっています。

また、「どちらともいえない」は35.3%となっています。

図 障がいへの理解の深まり

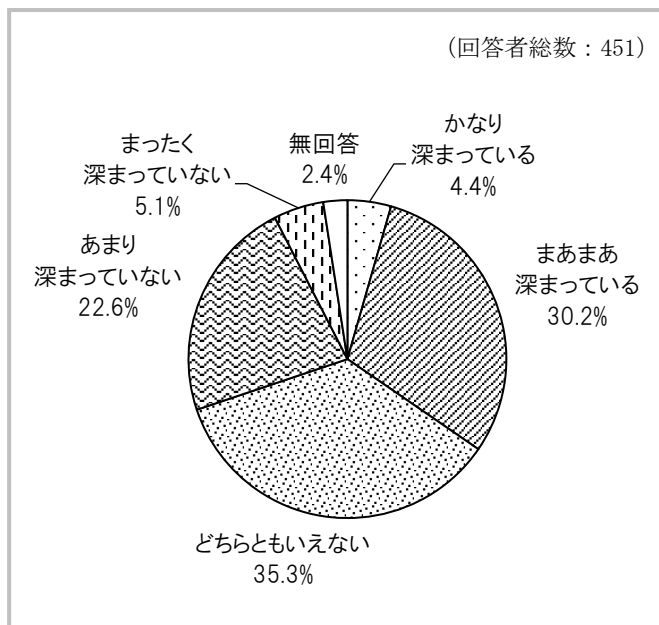


表 障がいへの理解の深まり 単位：人 (%)

回答者総数 (人)	451
項目	回答数 (構成比)
かなり深まっている	20 (4.4)
まあまあ深まっている	136 (30.2)
どちらともいえない	159 (35.3)
あまり深まっていない	102 (22.6)
まったく深まっていない	23 (5.1)
無回答	11 (2.4)

(2) 地域社会での差別・偏見

問5 あなたの身の回りで、障がいなどのある人への差別・偏見があると思いますか。[1つに○]

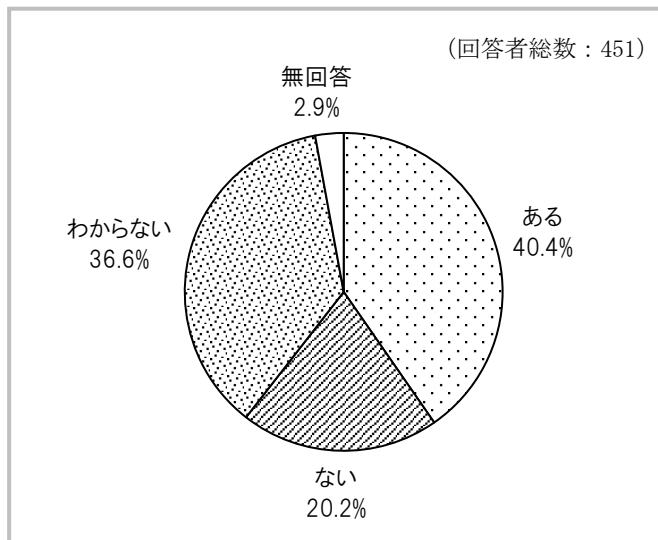
「ある」が40.4%

地域社会での差別・偏見については、「ある」が40.4%、「ない」が20.2%、「わからない」が36.6%となっています。

表 地域社会での差別・偏見 単位：人 (%)

項目	回答数 (構成比)
回答者総数 (人)	451
ある	182 (40.4)
ない	91 (20.2)
わからない	165 (36.6)
無回答	13 (2.9)

図 地域社会での差別・偏見



(3) 差別や偏見の内容

【問5で「ある」を選んだ方が回答】

問6 それはどのようなことですか。[あてはまるものすべてに○]

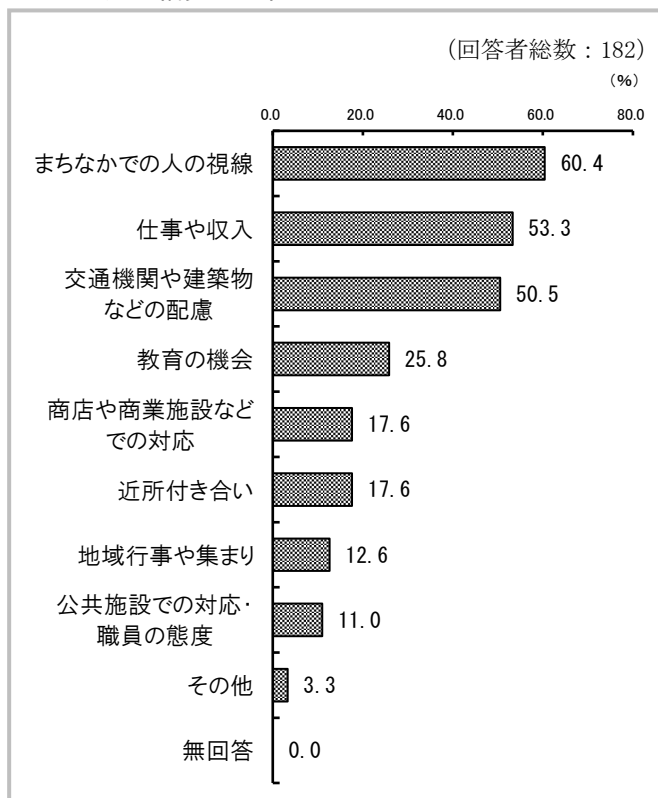
「まちなかでの人の視線」が60.4%

地域社会での差別・偏見があると回答した人にその内容をたずねたところ、「まちなかでの人の視線」が60.4%で最も多く、次に「仕事や収入」が53.3%、「交通機関や建築物などの配慮」が50.5%となっています。

表 差別や偏見の内容 単位：人 (%)

項目	回答数 (構成比)
回答者総数 (人)	182
まちなかでの人の視線	110 (60.4)
仕事や収入	97 (53.3)
交通機関や建築物などの配慮	92 (50.5)
教育の機会	47 (25.8)
商店や商業施設などでの対応	32 (17.6)
近所付き合い	32 (17.6)
地域行事や集まり	23 (12.6)
公共施設での対応・職員の態度	20 (11.0)
その他	6 (3.3)
無回答	0 (0.0)

図 差別や偏見の内容



(4) 地域移行した障がい者とのお付き合い

問7 施設や病院に入所・入院している障がいのある人が、退所・退院して地域の中で生活できるような環境づくりを進めています。もし、障がいなどのある人があなたの近所に引っ越してきたとしたら、同じ地域の住民としてどのように考えますか。[1つに○]

ふつうに近所付き合いができるが53.7%

地域移行した障がい者とのお付き合いについては、「できることがあれば、手助けや協力をしたい」が30.6%、「手助けはあまりできないが、ふつうに近所付き合いができと思う」が53.7%となっています。

一方、「あまり近所付き合いはしないと思う」は6.4%となっています。

図 地域移行した障がい者とのお付き合い

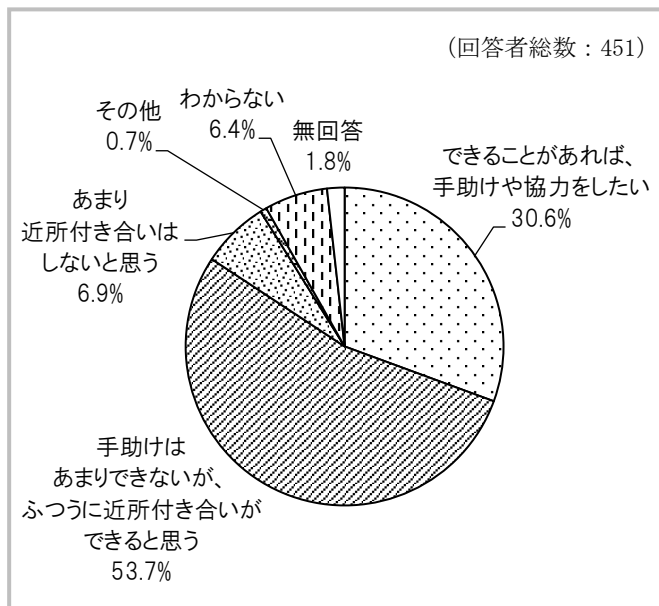


表 地域移行した障がい者とのお付き合い

単位：人（%）

回答者総数（人）	451
項目	回答数（構成比）
できることがあれば、手助けや協力をしたい	138 (30.6)
手助けはあまりできないが、ふつうに近所付き合いができと思う	242 (53.7)
あまり近所付き合いはしないと思う	31 (6.9)
その他	3 (0.7)
わからない	29 (6.4)
無回答	8 (1.8)

(5) 障がい者が地域で生活していくために重要なこと

問8 障がいなどのある人が地域の中で生活していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。[3つ以内で○]

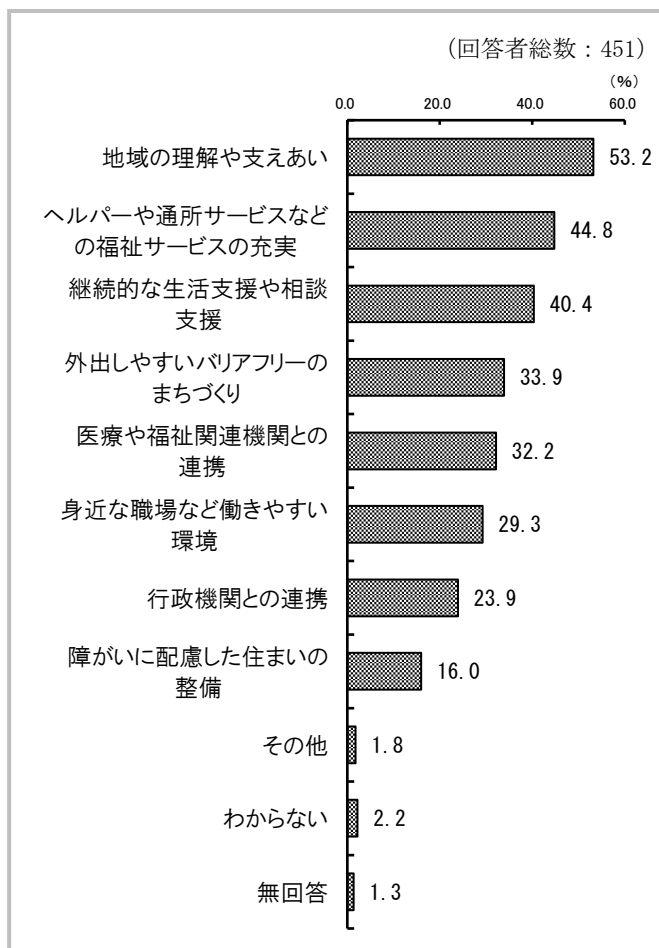
「地域の理解や支えあい」が53.2%

障がい者が地域で生活していくために重要なことについては、「地域の理解や支えあい」が53.2%で最も多く、次に「ヘルパーや通所サービスなどの福祉サービスの充実」が44.8%、「継続的な生活支援や相談支援」が40.4%となっています。

表 障がい者が地域で生活していくために重要なこと
単位：人（%）

回答者総数（人）	451
項目	回答数（構成比）
地域の理解や支えあい	240 (53.2)
ヘルパーや通所サービスなどの福祉サービスの充実	202 (44.8)
継続的な生活支援や相談支援	182 (40.4)
外出しやすいバリアフリーのまちづくり	153 (33.9)
医療や福祉関連機関との連携	145 (32.2)
身近な職場など働きやすい環境	132 (29.3)
行政機関との連携	108 (23.9)
障がいに配慮した住まいの整備	72 (16.0)
その他	8 (1.8)
わからない	10 (2.2)
無回答	6 (1.3)

図 障がい者が地域で生活していくために重要なこと



(6) 共に生きる社会のために必要なこと

問9 障がいのある人とない人がお互いに理解しあい、共に生きる社会をつくっていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。[3つ以内で○]

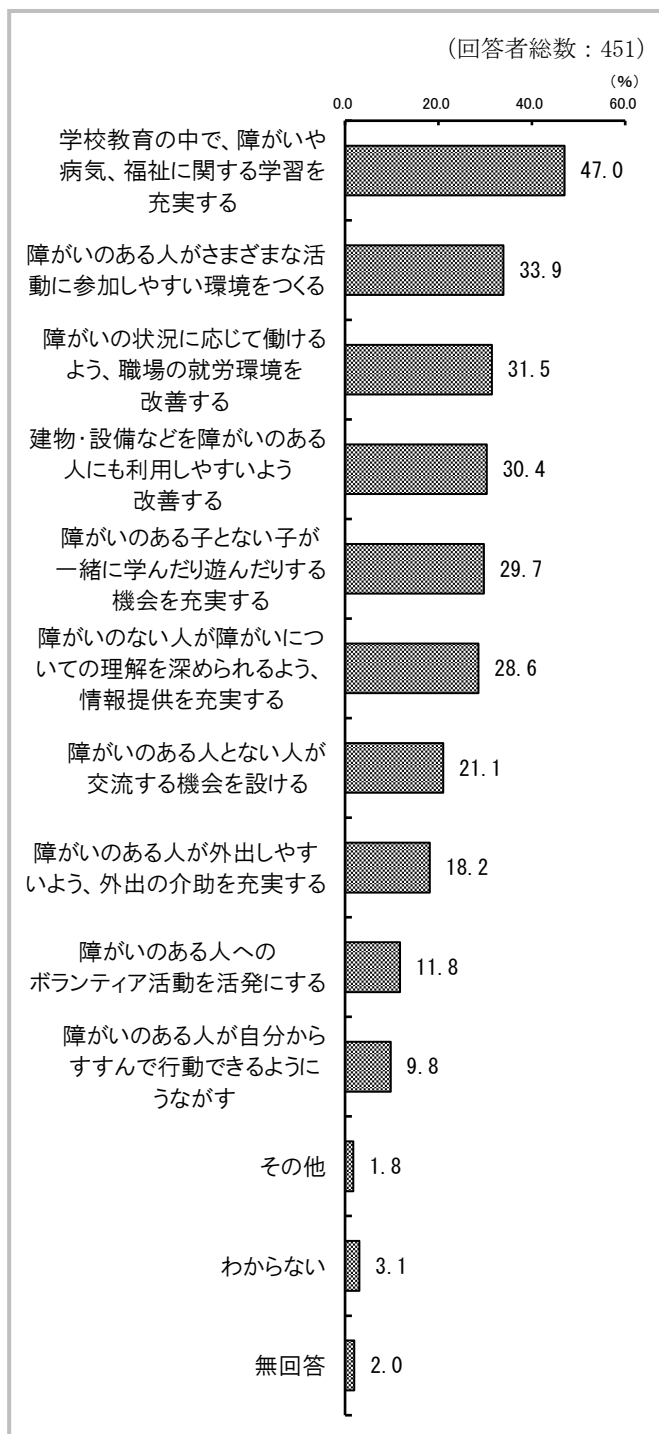
学校教育での学習を充実するが47.0%

共に生きる社会のために必要なことについては、「学校教育の中で、障がいや病気、福祉に関する学習を充実する」が47.0%で最も多く、次に「障がいのある人がさまざまな活動に参加しやすい環境をつくる」が33.9%、「障がいの状況に応じて働けるよう、職場の就労環境を改善する」が31.5%となっています。

表 共に生きる社会のために必要なこと

単位：人（%）	
回答者総数（人）	451
項目	回答数（構成比）
学校教育の中で、障がいや病気、福祉に関する学習を充実する	212 (47.0)
障がいのある人がさまざまな活動に参加しやすい環境をつくる	153 (33.9)
障がいの状況に応じて働けるよう、職場の就労環境を改善する	142 (31.5)
建物・設備などを障がいのある人にも利用しやすいよう改善する	137 (30.4)
障がいのある子とない子が一緒に学んだり遊んだりする機会を充実する	134 (29.7)
障がいのない人が障がいについての理解を深められるよう、情報提供を充実する	129 (28.6)
障がいのある人とない人が交流する機会を設ける	95 (21.1)
障がいのある人が外出しやすいよう、外出の介助を充実する	82 (18.2)
障がいのある人へのボランティア活動を活発にする	53 (11.8)
障がいのある人が自分からすすんで行動できるようにうながす	44 (9.8)
その他	8 (1.8)
わからない	14 (3.1)
無回答	9 (2.0)

図 共に生きる社会のために必要なこと



(7) 差別や偏見を感じる場面

問10 障がいや病気などがある人が、差別や偏見をどのような場面で感じていると思いますか。特に思うものを選んでください。[2つ以内で○]

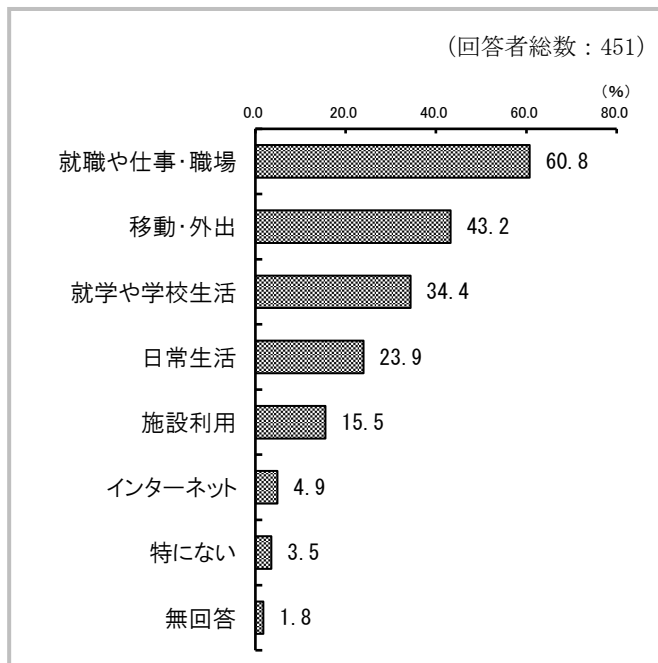
「就職や仕事・職場」が60.8%

差別や偏見を感じる場面については、「就職や仕事・職場」が60.8%で最も多く、次に「移動・外出」が43.2%、「就学や学校生活」で34.4%となっています。

表 差別や偏見を感じる場面 単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
就職や仕事・職場	274 (60.8)
移動・外出	195 (43.2)
就学や学校生活	155 (34.4)
日常生活	108 (23.9)
施設利用	70 (15.5)
インターネット	22 (4.9)
特にない	16 (3.5)
無回答	8 (1.8)

図 差別や偏見を感じる場面



(8) 障がいに関するマーク等の周知状況

問11 障がいに関する次のマーク等について、知っていますか。[1つずつ○]

『障がい者のための国際シンボルマーク』の「実物をみたことがある」が90.0%

障がいに関するマーク等の周知状況については、「実物をみたことがある」は、『障がい者のための国際シンボルマーク』で90.0%、『身体障害者標識（四つ葉のクローバーマーク）』で75.6%、『ヘルプマーク』で53.7%となっています。

一方、「知らない」は、『災害時聴覚障害者用支援バンダナ』で89.8%、『聴覚障害者のシンボルマーク』で72.5%、『オストメイトマーク』で59.2%、『「ハート・プラス」マーク』で53.2%となっています。

表 障がいに関するマーク等の周知状況

回答者総数：451

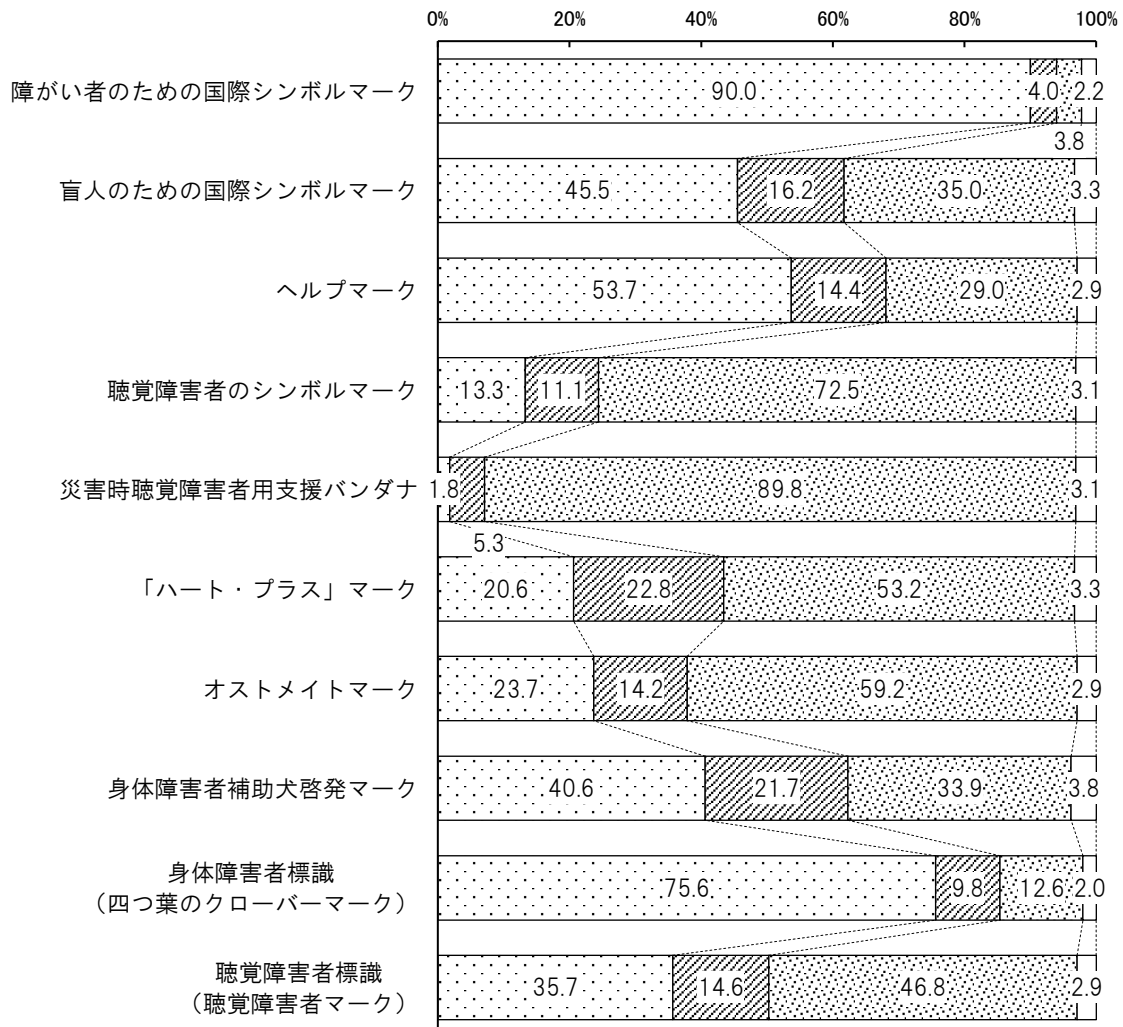
単位：人（%）

項目	実物をみた ことがある	名前を聞いた ことはある	知らない	無回答
(ア) 障がい者のための国際シンボルマーク	406 (90.0)	18 (4.0)	17 (3.8)	10 (2.2)
(イ) 盲人のための国際シンボルマーク	205 (45.5)	73 (16.2)	158 (35.0)	15 (3.3)
(ウ) ヘルプマーク	242 (53.7)	65 (14.4)	131 (29.0)	13 (2.9)
(エ) 聴覚障害者のシンボルマーク	60 (13.3)	50 (11.1)	327 (72.5)	14 (3.1)
(オ) 災害時聴覚障害者用支援バンダナ	8 (1.8)	24 (5.3)	405 (89.8)	14 (3.1)
(カ) 「ハート・プラス」マーク	93 (20.6)	103 (22.8)	240 (53.2)	15 (3.3)
(キ) オストメイトマーク	107 (23.7)	64 (14.2)	267 (59.2)	13 (2.9)
(ク) 身体障害者補助犬啓発マーク	183 (40.6)	98 (21.7)	153 (33.9)	17 (3.8)
(ケ) 身体障害者標識 (四つ葉のクローバーマーク)	341 (75.6)	44 (9.8)	57 (12.6)	9 (2.0)
(コ) 聴覚障害者標識 (聴覚障害者マーク)	161 (35.7)	66 (14.6)	211 (46.8)	13 (2.9)

図 障がいに関するマーク等の周知状況

(回答者総数：451)

□ 実物をみたことがある ▨ 名前を聞いたことはある ▩ 知らない □ 無回答



【参考 障がいに関するマーク等】

	<p>障がい者のための国際シンボルマーク 障がいのあるかたがたが利用できる建築物や公共輸送機関であることを示す、世界共通の国際シンボルマークです。</p>
	<p>盲人のための国際シンボルマーク 世界盲人連合が定めた世界共通のシンボルマークです。</p>
	<p>ヘルプマーク 外見から分からなくても援助や配慮を必要としているかたがたが、周囲のかたに配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるためのマークです。</p>
	<p>聴覚障害者のシンボルマーク 聴覚障害を示す耳が図案化されたマークです。</p>
	<p>災害時聴覚障害者用支援バンダナ 災害時に「耳が聞こえない」ことを周囲に周知し支援を求めたり、また、「手話ができる」かたが、迅速な支援ができるようにするために作成したものです。</p>
	<p>「ハート・プラス」マーク 心臓疾患などの内部障害があることを示すシンボルマークです。</p>
	<p>オストメイトマーク オストメイト（人工肛門・人工膀胱を保有するかた）を示すシンボルマークです。</p>
	<p>身体障害者補助犬啓発マーク 補助犬を啓発するために、補助犬を受け入れる店の入り口などに貼るマークです。</p>
	<p>身体障害者標識（四つ葉のクローバーマーク） 肢体不自由者が運転する自動車に貼る標識で、道路交通法に定められています。</p>
	<p>聴覚障害者標識（聴覚障害者マーク） 政令で定める程度の聴覚障害者が運転する自動車に貼る標識で、道路交通法に定められています。</p>

4 だれもが住みやすいまちづくりについて

(1) 制度等の周知状況

問12 次の(ア)～(エ)の項目について知っていますか。[1つずつ○]

『成年後見制度』を「だいたい内容も知っている」が33.7%

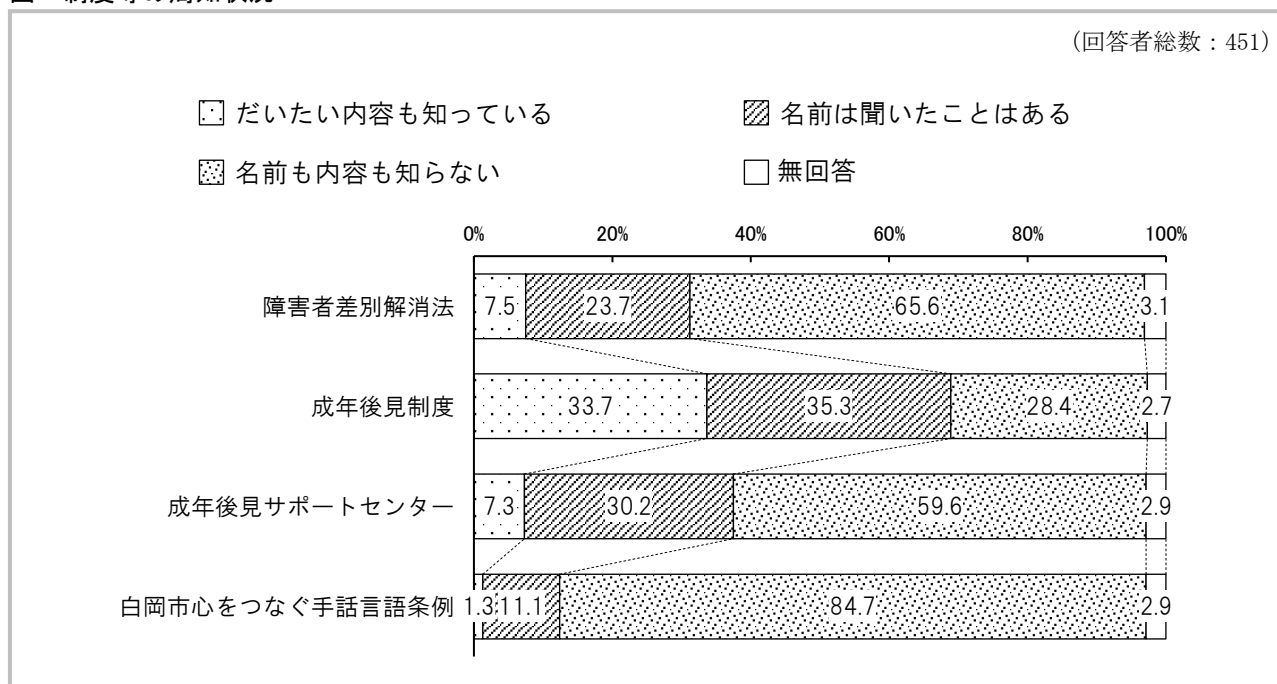
制度等の周知状況については、「だいたい内容も知っている」は、『成年後見制度』で33.7%となっています。「名前も内容も知らない」は、『障害者差別解消法』で65.6%、『成年後見サポートセンター』で59.6%、『白岡市心をつなぐ手話言語条例』で84.7%となっています。

表 制度等の周知状況

回答者総数：451 単位：人(%)

項目	だいたい内容も知っている	名前は聞いたことはある	名前も内容も知らない	無回答
(ア) 障害者差別解消法	34 (7.5)	107 (23.7)	296 (65.6)	14 (3.1)
(イ) 成年後見制度	152 (33.7)	159 (35.3)	128 (28.4)	12 (2.7)
(ウ) 成年後見サポートセンター	33 (7.3)	136 (30.2)	269 (59.6)	13 (2.9)
(エ) 白岡市心をつなぐ手話言語条例	6 (1.3)	50 (11.1)	382 (84.7)	13 (2.9)

図 制度等の周知状況



(2) 「福祉の総合相談窓口」の周知状況

問13 白岡市では、「福祉の総合相談窓口」を令和4年7月に開設しました。あなたは、「福祉の総合相談窓口」を知っていますか。[1つに○]

「名前も内容も知らない」が64.5%

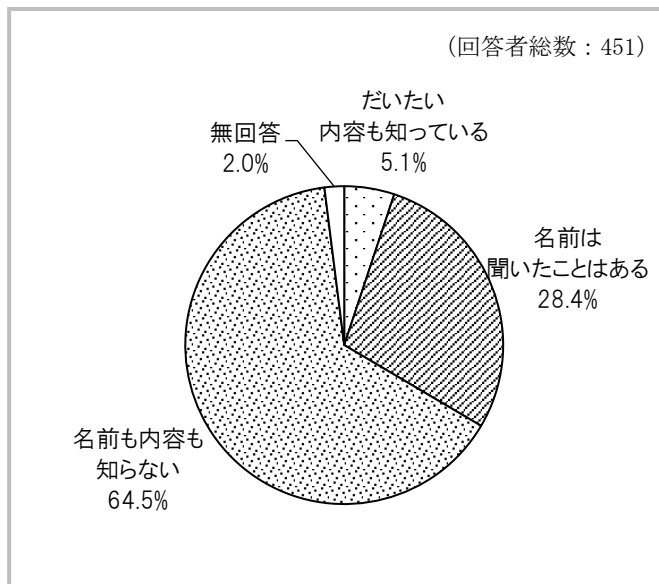
「福祉の総合相談窓口」の周知状況については、「だいたい内容も知っている」が5.1%、「名前は聞いたことはある」が28.4%、「名前も内容も知らない」が64.5%となっています。

表 「福祉の総合相談窓口」の周知状況

単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	451
だいたい内容も知っている	23（5.1）
名前は聞いたことはある	128（28.4）
名前も内容も知らない	291（64.5）
無回答	9（2.0）

図 「福祉の総合相談窓口」の周知状況



(3) 住みよさ意識

問14 あなたにとって、白岡市は住みやすいまちだと感じますか。[1つに○]

住みやすいと感じている人が82.3%

住みよさ意識については、「住みやすい」が22.4%、「まあまあ住みやすい」が59.9%で、これらを合わせると、住みやすいと感じている人は82.3%となっています。

一方、「あまり住みやすくない」は12.4%、「住みやすくない」は3.1%で、住みやすくないと感じている人は15.5%となっています。

住みやすくないところについて自由記入でたずねたところ、道路環境や交通安全、交通の便に関する事、買い物や商業施設に関する事などの記載がありました。

図 住みよさ意識

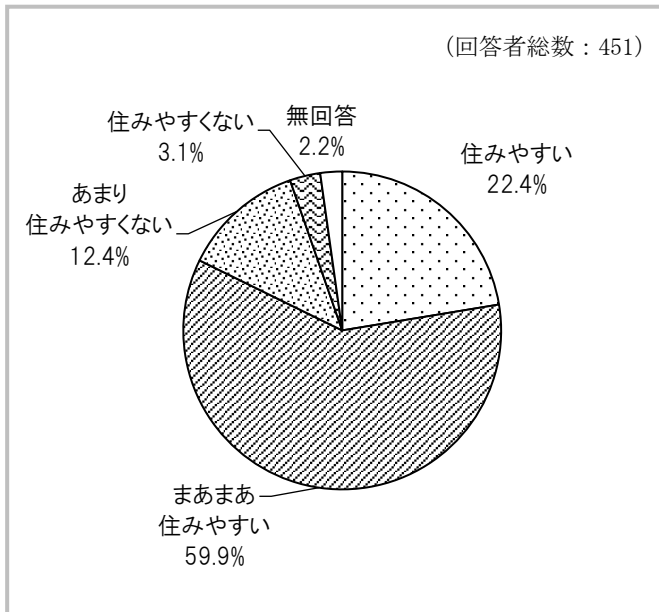


表 住みよさ意識 単位：人（%）

項目	回答数（構成比）
回答者総数（人）	451
住みやすい	101 (22.4)
まあまあ住みやすい	270 (59.9)
あまり住みやすくない	56 (12.4)
住みやすくない	14 (3.1)
無回答	10 (2.2)

(4) 住みやすいまちづくりに必要なこと

問15 障がいなどがある人にとって住みやすいまちをつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。[4つ以内で○]

「在宅サービスの充実」が39.0%

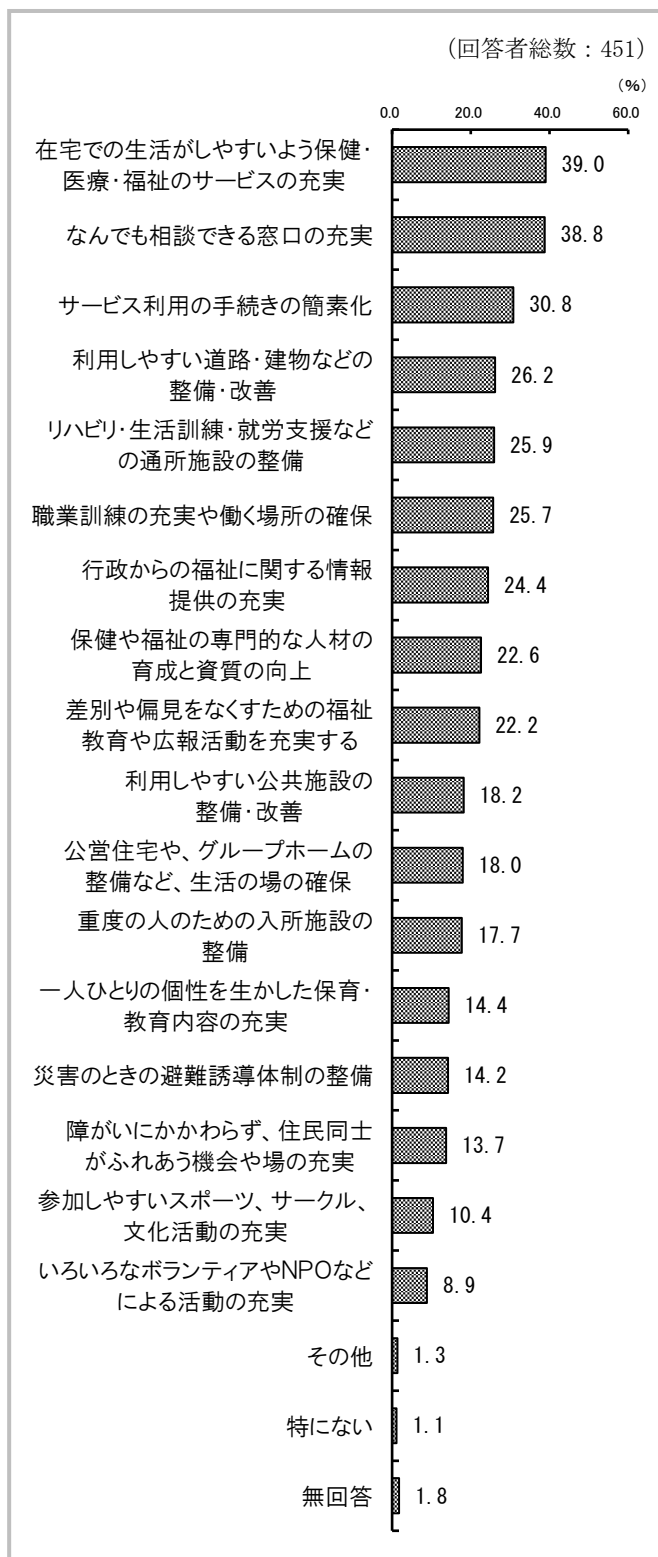
障がいなどがある人にとって住みやすいまちづくりに必要なことについては、「在宅での生活がしやすいよう保健・医療・福祉のサービスの充実」が39.0%で最も多く、次に「なんでも相談できる窓口の充実」が38.8%、「サービス利用の手続きの簡素化」が30.8%となっています。

表 住みやすいまちづくりに必要なこと

単位：人（%）

回答者総数（人）	451
項目	回答数（構成比）
在宅での生活がしやすいよう保健・医療・福祉のサービスの充実	176 (39.0)
なんでも相談できる窓口の充実	175 (38.8)
サービス利用の手続きの簡素化	139 (30.8)
利用しやすい道路・建物などの整備・改善	118 (26.2)
リハビリ・生活訓練・就労支援などの通所施設の整備	117 (25.9)
職業訓練の充実や働く場所の確保	116 (25.7)
行政からの福祉に関する情報提供の充実	110 (24.4)
保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上	102 (22.6)
差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動を充実する	100 (22.2)
利用しやすい公共施設の整備・改善	82 (18.2)
障がいに配慮した公営住宅や、グループホームの整備など、生活の場の確保	81 (18.0)
重度の人のための入所施設の整備	80 (17.7)
一人ひとりの個性を生かした保育・教育内容の充実	65 (14.4)
災害のときの避難誘導體制の整備	64 (14.2)
障がいの有無にかかわらず、住民同士がふれあう機会や場の充実	62 (13.7)
参加しやすいスポーツ、サークル、文化活動の充実	47 (10.4)
いろいろなボランティアやNPOなどによる活動の充実	40 (8.9)
その他	6 (1.3)
特にない	5 (1.1)
無回答	8 (1.8)

図 住みやすいまちづくりに必要なこと



5 一般アンケートのまとめ

①回答者の属性について

回答者の性別については、「男性」が42.8%、「女性」が54.8%となっています。年齢構成については、「70歳以上」が27.7%で最も多く、次に「50～59歳」が18.2%、「60～69歳」が16.9%となっています。

②障がいのある人との関わりについて

日常生活で障がいのある人との関わりがあったかについては、まず、身体障がい者では、「家族や親戚にいる(いた)」が18.8%、「職場で一緒に働いている(働いた)」が11.8%、「友人や知人にいる(いた)」が8.9%となっています。知的障がい者では、「学校で一緒に勉強している(していた)」が10.6%、「近所にいる(いた)」が9.5%、「家族や親戚にいる(いた)」が8.4%となっています。精神障がい者では、「家族や親戚にいる(いた)」が6.7%、「職場で一緒に働いている(働いた)」が6.0%、「友人や知人にいる(いた)」が5.1%となっています。発達障がい者では、「家族や親戚にいる(いた)」が9.5%、「友人や知人にいる(いた)」が7.1%、「学校で一緒に勉強している(していた)」が5.3%となっています。難病患者では、「家族や親戚にいる(いた)」が8.9%、「友人や知人にいる(いた)」が5.3%、「職場で一緒に働いている(働いた)」が1.8%となっています。

③障がいなどのある人への理解について

障がいへの理解の深まりについては、「かなり深まっている」が4.4%、「まあまあ深まっている」が30.2%で、これらを合わせると、理解が深まっていると感じている人は34.6%となっています。

地域社会での差別・偏見については、「ある」が40.4%となっており、その内容については、「まちなかでの人の視線」が60.4%で最も多く、次に「仕事や収入」が53.3%、「交通機関や建築物などの配慮」が50.5%となっています。また、地域社会での差別・偏見について前回の調査と比較すると、「ある」とした割合は15.2ポイント減少し、「ない」が8.3ポイント増加しましたが、「わからない」も7.2ポイント増加しました。

地域移行した障がい者とのお付き合いについては、「手助けはあまりできないが、ふつうに近所付き合いができると思う」が53.7%で多く、「できることがあれば、手助けや協力をしたい」は30.6%となっています。手助けについて積極的な意識のある人は約3割ですが、地域でのお付き合いについて肯定的な意識を持つ人は約8割を占めています。

障がい者が地域で生活していくために重要なことについては、「地域の理解や支えあい」が53.2%で最も多く、次に「ヘルパーや通所サービスなどの福祉サービスの充実」が44.8%、「継続的な生活支援や相談支援」が40.4%となっています。

共に生きる社会のために必要なことについては、「学校教育の中で、障がいや病気、福祉に関する学習を充実する」が47.0%で最も多く、次に「障がいのある人がさまざまな活動に参加しやすい環境をつくる」が33.9%、「障がいの状況に応じて働けるよう、職場の就労環境を改善する」が31.5%となっています。

差別や偏見を感じる場面については、「就職や仕事・職場」が60.8%で最も多く、次に「移動・外出」が43.2%、「就学や学校生活」で34.4%となっています。

学校や職場において、障がいについての理解促進や環境を改善していくこととともに、障がいのある人が活動しやすいような地域の環境づくりが求められています。

障がいに関するマーク等の周知状況については、「実物をみたことがある」という割合は、『障がい者のための国際シンボルマーク』で90.0%、『身体障害者標識（四つ葉のクローバーマーク）』で75.6%、『ヘルプマーク』で53.7%と多くなっています。一方、「知らない」という割合は、『災害時聴覚障害者用支援バンドナ』で89.8%、『聴覚障害者のシンボルマーク』で72.5%、『オストメイトマーク』で59.2%、『「ハート・プラス」マーク』で53.2%となっています。マークによって周知状況に差があることから、マークとその意味について周知していくことが必要です。

④だれもが住みやすいまちづくりについて

制度等の周知状況については、「だいたい内容も知っている」という割合は、『成年後見制度』で33.7%と多くなっています。「名前も内容も知らない」という割合は、『障害者差別解消法』で65.6%、『成年後見サポートセンター』で59.6%、『白岡市心をつなぐ手話言語条例』で84.7%となっています。

令和4年7月に開設した「福祉の総合相談窓口」の周知状況については、「だいたい内容も知っている」が5.1%、「名前は聞いたことはある」が28.4%、「名前も内容も知らない」が64.5%となっています。

住みよさ意識については、「住みやすい」が22.4%、「まあまあ住みやすい」が59.9%で、これらを合わせると、住みやすいと感じている人は82.3%となっています。また、住みやすくないところについて自由記入でたずねたところ、道路環境や交通安全、交通の便に関すること、買い物や商業施設に関する事などの記載がありました。

障がいなどがある人にとって住みやすいまちづくりに必要なことについては、「在宅での生活がしやすいよう保健・医療・福祉のサービスの充実」が39.0%で最も多く、次に「なんでも相談できる窓口の充実」が38.8%、「サービス利用の手続きの簡素化」が30.8%となっています。サービスの充実と相談窓口の充実の2項目が上位となっています。「福祉の総合相談窓口」は、福祉に関して誰もが気軽に相談でき、必要な支援につなげる相談窓口であることから、市民に浸透していくよう、周知活動により一層取り組んでいくことが必要です。

資 料

自由意見欄

調査票には、『障がい者福祉』についての意見、提案などを自由に記載していただく欄を設けました。寄せられたご意見の中から、抽出して紹介します。

なお、基本的に原文のままを掲載しますが、明らかな誤字・脱字や個人等を特定するような文章及び表現等については、修正・削除をしています。

(1) 障がい者アンケートの自由意見

自由意見記載内容
障害者の助成の情報などを、白岡市のホームページからスマホでも見やすいように発信してほしい。これからも障害者の意見や要望や提案を広く、多く聞いて障害者福祉を進めて欲しいです。
白岡市では広報などで障害者への差別や偏見をなくすよう福祉の充実を呼びかけているが、その点は良いのですが、まったくと言っていいほど福祉が充実していないと思います。そのことを分かってスピーディに変えていてもらいたいと思います。(これから高齢化が益々進むので)
市のHPから情報を調べたいとき、どこに書いてあるのかわからないときがあるので、わかりやすくしてほしい。
聴覚障害者には番号札か手招きして頂ければ大変に助かります。
障害者も年齢を重ねると内部障害でも運動機能低下を伴うと出来ない事が増して、災害時に避難先での生活が非常に不安です。日頃から災害時の情報を周知させて欲しい。
タクシー利用の場合、高額すぎる。交通の不便を感じる。駅までのバスやタクシー代などは安価にしてほしい。タクシー移動の為。
カラオケやスポーツジム等、一般の人から障害のある人までが出来る機械の配慮や、料金も割引になれば、幅広い方々の人に楽しく利用出来る事。
障がい者の住居やグループホーム、生活の場、入所施設を増やしてほしい。親なき後の為に施設を作ってほしい。
障がい者に対する手続きが多くて本人も大変疲れてしまう。苦痛になり泣いていたことも多くあった。特に小さい時は大変だった。障がいがあるのだからもう少し考えてほしいと思う。いろいろなお知らせも広報紙だけでなく個人に郵便で知らせてほしい。広報紙では小さく書いてあり、見づらい、わかりにくい。
障害年金について情報がもっとあればいいと思う。どのように手続きをするのか、市から連絡があれば助かります。

自由意見記載内容
白岡駅、新白岡駅、中央公民館の昇降設備やスロープが不十分で利用しづらい。
西口から市役所、図書館、味彩センター等は高齢のため出かけられない。週1回でも月1回でも送り迎えがあると良い。談話室みたいなものもほしい。
退院時に介護タクシーを利用、あまりに高額でびっくりした。その後、貸し出し介護車があることを知ったが、これも安くはなく、簡単には借りれない。手帳があればスムーズに車イス用介護車がレンタルできるといいのにと考えた。
私もそうでしたが、障がい者に対する気配りその他があまりなく、話しかけていいのか、知らんふりをしたらいいのかと考えてしまい、見て見ぬふりをする事が多く、いけないと思い、今は少し考え方をかえて暮らしています。
「福祉の総合相談窓口」の存在を初めて知りました。もっと広報活動して頂けるとありがたいです。
補聴器をしていても会話が理解しづらいので、電話での病院予約、検査結果が1人ではわかりません。白岡市役所をはじめ、窓口ではとてもよく対応していただけるのですが、1人で出かけることに不安を感じる場合があります。
物価や電気料の値上がりで困っている。
インターネットでの諸手続きの簡略化を推進してほしい。(窓口へ行かなくとも諸手続きができるように。)アウトプットも自宅のプリンターを利用できるようにしてほしい。※ DX化の推進
障がい者になって長い年月が過ぎ、退職した職場、住んでいる所、その他“変人扱い”も受けた。ある程度仕方ないとも思ったが、“障がい者”への理解度は海外(外国)と比べると、とても遅れていると思う。
学校生活において、理解している教職員がとても少ないと実感しました。自分事だとは思えず、外の生徒として全く関わりを持とうとしない人もたくさんいました。実際に関わらなければどのような対応が良いか一人一人違うので、理解が進みません。まずは教職員から障がいを理解して対応の仕方を考えていってほしいと思います。大人の行動を子供は良く見えていますので。
白岡市の障がい者がどのくらいいるか統計を知りたい。親の認識不足で ADHD やアスペルガーなど早期療育など受けられないお子様もいると思うので、学校(幼稚園)などと協力して把握することも大事なのではと思います。うちの近所でも大人になってひきこもってしまった人がいます。
児童発達支援サービスに通っていますが、保育園みたいに17時、18時まで預かってもらえないから、働けない。
障がい者施設の充実、就労の確保、障がい者手当の充実。障害者が住みやすい町づくりはイコール健全者にとっても住みやすい町ではないでしょうか？
身体障がい者へのリハビリを兼ねたスポーツサークル(プール教室など)を要望いたします。

自由意見記載内容
1. 障害者や高齢者にとり病院、買い物の不便さ。2. 駅前西口の不便さ。年々活気がなくなり、より不便になった事。
視覚障害の為、書類などもっとわかりやすく字の太さや大きさなど配慮してほしい。
昨年 12 月頃かと思いますが、公民館講座に参加させていただいた際、休憩時間にトイレを使おうとしたら、皆、同様にトイレに行き、使用しようとしたら和式のトイレでした。座れないので洋式のトイレが空くのを待って用を済ませました。その後、公民館には行っていないので改善されたかわかりませんが、まだのようでしたら、洋式にかえていただくと安心して利用できるかと思います。
車イスでも入れるトイレがもっとあればいいなと思います。介護者がコロナに感染した場合、介護されてる者の対応はどのようになるのか…。
終活にあたり、整理、片付け、廃棄処分、買い取り業者等の安全安心企業など市役所で教えてほしいです。何かとお世話になっておりますが、老々介護の身としましては不安なことばかりで、日々悩んでしまいます。どうぞよろしくお願いします。
自分に出来る事は障害関係なく多くの人と同じように出来たらいいなと思います。自分に自信がなく言いたい事があっても言えない所や相手にわかりやすく表現できない事で困ってます。気が弱い所です。
軽度の知的障がい者の支援学級があるといいです。
白岡市で使用可能なガソリン券の使用可能店を増やしてほしい。
市の職員に相談すると良好に対応してくれますが、その前の段階でどこの誰に相談すれば良いかがわからない。困りぬいてからの相談となってしまう。その前に不便な生活と感じたら、市の、この窓口へどうぞ、とあったらうれしい。
避難場所について。トイレ、車椅子でも使用できるか？バリアフリーかどうか。周辺は堀や川が多く場所までたどりつけるのか？車の駐車場は整備されているのか。
福祉避難所の整備は進んでいるのでしょうか？
初めて障がいの子を持ち、わからない事だらけな方ばかりだと思います。私もヘルプマークというものもあるのも知らず、しばらく過ごしていました。他から聞いて市役所に行って頂きましたが、市からこういうものもある、などご紹介頂けると幸いです。
市外（片道 1 時間）でリハビリ（PT、OT）を受けているので、市内でもリハビリ等できるようにしてほしい。久喜市のようにおもちゃ図書館などもやってほしい。
障がい者でも働ける場を、たくさんの会社が積極的に雇用できることを祈っています。
本人は、重度知的障害、自閉症です。すでに成人はしていますが、親はだんだん年を取り、家庭で世話をするのもだんだん限界を感じております。何年も前から入所先を頼んでいますが、一度も市役所から連絡はありません。いつまで待てば入所できるのでしょうか。
サービスを利用するまでの手続きがわかりにくいのと、情報提供がなさすぎると思います。

自由意見記載内容
<p>移動支援や日中一時支援、生活サポート支援など、1年に1回更新するたび、窓口に行って書類書いたり、結構面倒だと思います。今は親がやっていますが、本人ではやはり難しいですし、何かもっと楽にというか、簡素化できたらなあと思います。</p>
<p>タクシー券などが3級でも使えるようになれば大変助かります。</p>
<p>安心、安全に移動ができるように道路を整備して欲しい。教育機関の多目的トイレの設置や競技用車いすを使ったスポーツ体験の実施。競技用車いす、ハンドバイク等の貸し出しや購入時の補助。他県に負けないような障がい者や高齢者に配慮したスポーツ施設の拡充。各教育機関でのパラスポーツ体験（野島弘さんや根木慎志さんに協力を依頼）。他県に行かずに埼玉県、白岡市で障がい者だけでなく、老若男女が参加できる楽しい企画があると嬉しいです。</p>
<p>白岡市は優しい方も多いですが、まだ障害への理解が難しい方も多いので、交流できる施設や、不便な点を知ってもらえる機会があると良いのかなと思っております。宜しくお願い致します。</p>
<p>手帳更新や自立支援の更新など、定期的に発生する書類申請をWEB申請を可能にしてほしい。また手帳のサイズが大きめで財布に入らないため、保険証等と同様のカード型にしてほしい。</p>
<p>このアンケートがインターネットで回答できる事は素晴らしい取り組みだと思います。今後もITの活用をすすめていただきたいと思います。</p>
<p>医療、福祉、教育の連携がないので、それぞれで受けている支援を親がそれぞれの分野に伝えている状況です。1か所に相談すれば、親が調整しなくてもそれぞれの分野で一貫した適切な支援が受けられるようになって欲しいです。</p>
<p>病院に行くのが大変で、周りの目もあるし、発達外来専門の病院？があれば良いと思う。（主治医の先生がいなくて困っている）障害者でも気にせず通える病院が欲しい（歯医者、耳鼻科、美容院など）。</p>
<p>幼少期から当たり前のようにハンディのある人と接する機会があれば、より自然と理解が深まるかと思います。周りが障害を隠そうとせず、障害について話すこと（その年齢にわかりやすいように）で、子供達は柔軟に受け入れることができます。我が家の子どもたちがそうでした。</p>
<p>放課後デイサービスでは預かり時間を学童より短くせざるを得ない背景があり、学童の無い特別支援学校に通う子を持つ親は就労時間を短くせざるを得ないことが多いと思います。特別支援学校における学童の設立（通常の小学校と同程度の時間預かり可能な）を願います。</p>
<p>月に300～310枚オムツ使用なのに月42枚の支給では少ない。ガソリン券の金額も減った。駐車場利用証（駐車スペースを利用する時にルームミラーにかけるやつ）を白岡市もつくってほしい。</p>
<p>障がい者同士が交流できる場を作ってほしい。</p>

自由意見記載内容
窓口での対応が、正職員か委託の人であるかは関係なく普通感覚を持ち、専門分野への造詣の深いある程度年齢の高い職員の窓口へ配置対応が必要。合わせて、ある意味プライベートの相談事に近くなるのだが、吹き抜けの1階ホールは非常に音声を通りやすい。この意味で窓口の構造は全く相談者に対して配慮がなされていません。
障害があっても、配慮があれば働けます！生まれ育った白岡市での、障害者雇用を幅広く広げてほしい。学校を卒業後の生活が不安です。

(2) 一般アンケートの自由意見

自由意見記載内容
相談しやすい環境作りと、出来たら24時間、いつでも対応できる人員を、余裕をもって配備できていると良いと思います。
このようにアンケートで知識の確認や条例や設備名等の新しい知識を得られるのは良い取り組みだと思いました。市民の中で1000人に選出されたということでアンケートに協力させていただきました。お答えすることで何か役に立てたらうれしいです。
障がい者、健常者という分け方をなくし、同じ地域の一員として普通に暮らすのがあたりまえとなるような体制を作ってほしいです。白岡市がバリアフリーナンバーワンの住み良い町になってくれたら嬉しいです。
駅やスーパーなどの公共施設やお店において、バリアフリーなどの充実と理解が必要である。白岡駅だけでなく新白岡駅周辺の整備も考えてほしい。
障害の持つ方と、ものづくりなどを通して関わりあいを持つなど、イベントなどはどうでしょうか？
周りに障がいのある方があまりおらず、知識が少ないと感じたが、そういった人はけっこういるのでは？と思った。白岡にどのような障がいを持った方がいらっしゃるのかあまり知らないが、親子で知識を深められる場があれば良いのではと思った。学校では学ぶ機会があるかもしれないが親世代はなかなか周りに障がい者がいないと機会がないような気がする。
障がいのある人は情報を得ること、自分に必要な情報を選ぶことも難しいと思います。福祉の総合相談窓口が出来たのはとても良いと思いますが、このアンケートで初めて知りました。ぜひ、いち早く沢山のの人に伝わると良いと思います。
児童発達支援に通うための受給者証の手続きを窓口でやるのが子供がいながらだと大変でした。

自由意見記載内容

障がいの種類は幅広くそれぞれに困っていることは違うのに、アンケートの内容がざっくりしすぎていて答えにくい。どんな障がいなのか、障がいを持つ人が子どもなのか大人なのか、本人なのかその親や家族なのか、それぞれに困っていることは違う。障がい者はだいたい一般的にこういうことに困っているという大雑把な知識ではなく（ある程度の平均的な知識は必要だが）、福祉サービスにしても日常で手を貸すにしても、その本人が今必要としていることをしっかり聞いて望んでいることを行うことが大切だと思う。障がいのある方は日常生活において、過去の差別や偏見のせいもあって助けを求めることに消極的になりがちかもしれないが、大体の人はどうしたらいいのか分からないながらも快く助けてくれると思うのでどんどん声をかけて欲しい。例えばスロープを設置する時にも、ただ設置して実際使ったらドアに入れないような設計では意味がないし、本当にスロープが欲しい位置はそこではないかもしれない。一般企業でアンバサダーに意見を聞いて商品開発をしているように、当事者にしか分からない意見をたくさんもらって、ちゃんとやってます風の改善ではなく本当に意味のある改善をしてほしい。

障害者の方が住みやすい街にする事も大切な事だが、その前に子供たちや子育て世代が、安心して生活ができるようにしてほしい。具体的には、雑草だらけの元田んぼ地帯を住宅地や商業施設にするなどし、新しい街作りに力を入れて欲しい。宮代町の姫宮や、伊奈町など、参考にすべき町はたくさんあると思う。白岡はとても良い街で、静かで住みやすいが、ショッピングとなると街から出て買い物に行かなければならない。結果として働く場所が少ないので、市外に働きに出してしまうことにつながる。これまでの守ってきたものを守りすぎて、時代に取り残され、本当に守らないといけないものを、守れていないと思う。白岡市民として、本当にもつたいないと思う。

子供が障がい児なので親目線でアンケート記入しました。子供が成人になった頃（10年、15年後）に白岡市で働ける施設・会社が増えている事を願います。

軽度の知的障がいのある子供への学校の教育をどうにかしてほしいです。普通学級で勉強についていけない子は支援学校しか行けないのですか？ どうして普通高校に支援はないのですか？ あまりにも間の（グレーゾーンと言われる子）に対しての配慮がなさすぎます。本当に、こんなアンケートをして何かしようと思っっていますか？ 教育現場に見に行ってください。支援学級の親は本当に困っています。

障がい者施設で働いています。日中利用できるデイなどが足りないのか、受け入れてもらえないとの声をききます。自分にあつた施設を選べるようになるとういなと思います。

視覚障がいのある方でも外出しやすくなるように道路・歩道への点字ブロックの敷設をもっと進めてほしい。白岡市は周辺の自治体と比べても、道路や路面の状態が酷いと感じます。

白岡市が手話に力を入れて、手話条例をやっているとは知りませんでした。とても良い取り組みだと思います。頑張ってください！出来るかぎり協力したいと思います。

病院学校関連施設近辺の信号はすべて歩車分離信号にするなどや、歩道の整備なども、障害者を含めて安心して移動できる環境を整えて欲しい。

自由意見記載内容
出来れば公共トイレ全てを、障がいの方だけでなく年配な方も使用しやすい便器に変更してほしい。例えば避難所としても使用する学校とか公園のトイレです。昔ながらのしゃがみ込む必要がある便器は使用しづらいです。
危険な道路ばかりなので、早急に整備してほしい。
障がい者を障がい者と見ない、区別しない、感じさせないようにするにはどうしたらよいかという視点で考えた方がよい。子育て支援も同じだが、手続きなどはネットやアプリなども使っただけでできるだけ簡単にし、無駄をなくした方がよい。
社会と関わらず、引きこもりの家族をかかえている方が白岡市には沢山います。成人だけでなく10代のお子さん達が発達障害等から不登校になったり、様々な二次障害を起こしています。自ら相談する気力すらない方もいます。形だけの「福祉」ではなく、各方面に足を運び、声を聞いて今本当に必要な支援をして下さい。
身近に対象者がいないので良く分かりません。
今、TV 等でも聴覚障害者をテーマにした番組があり話題にもなって人気です(サイレントなど)。何度か手話サークルにも行きましたが、なかなか身近には感じられません。行政からの情報もあると思うのですが、一般には気がつきません。PR 不足?ではないでしょうか?
障がい者福祉というだけではないが、道路(歩行者が通る)に危険なところがある。自動車との分離、段差のない歩行者通路を充実していただきたい。
今現在、自分の生活圏に障がい者の方がないので、はっきり何が困るかということがわからないのが事実です。ただ、親が年をとり車いすを利用した時、とても道がわるく、車いすの利用が不便だったのを覚えています。
アンケートを実施したという事だけでなく、結果をどのように生かしたか、広報などで公表してほしい。
自分のまわりにいないのでよく分からない。
障がい者福祉について勉強不足でした。これから勉強したいと思います。
身近にいないので関心が薄かった事に気づかされたので、誰もが関心が持てるような情報のあり方を考えると良いのではと思った。
障がい者福祉に対しての知識がなかったことを反省しました。
障がいのある方のいらっしゃるご家族のご負担があまりにも大きいような気がいたします。

白岡市障がい者福祉についてのアンケート
結果報告書

令和4年度